

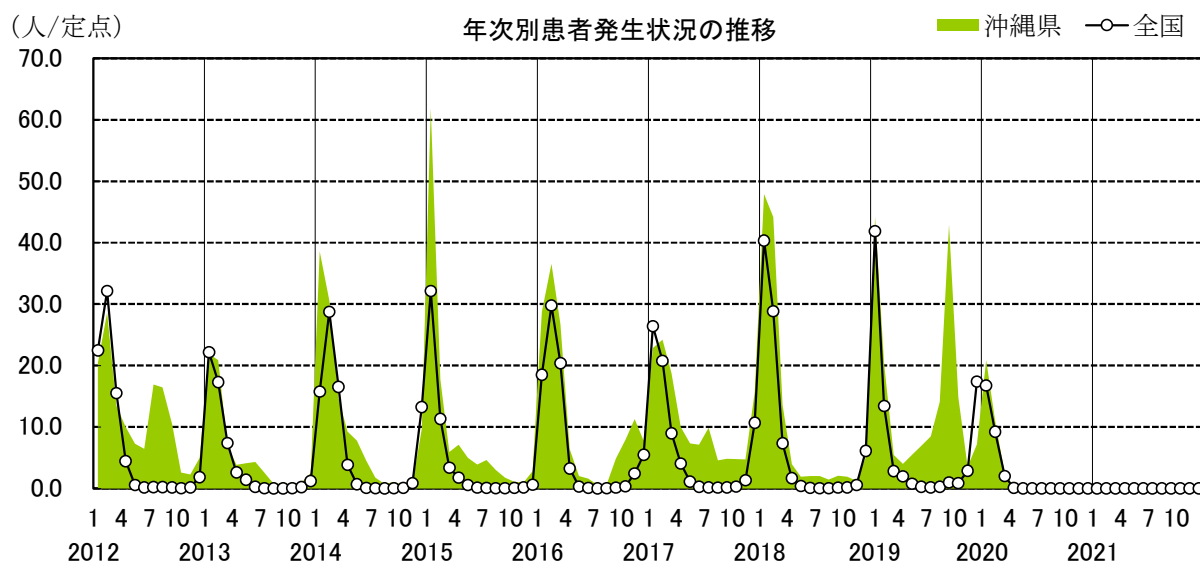
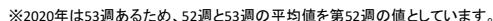
Ⅲ 定点把握対象 五類感染症(週報・月報)発生状況

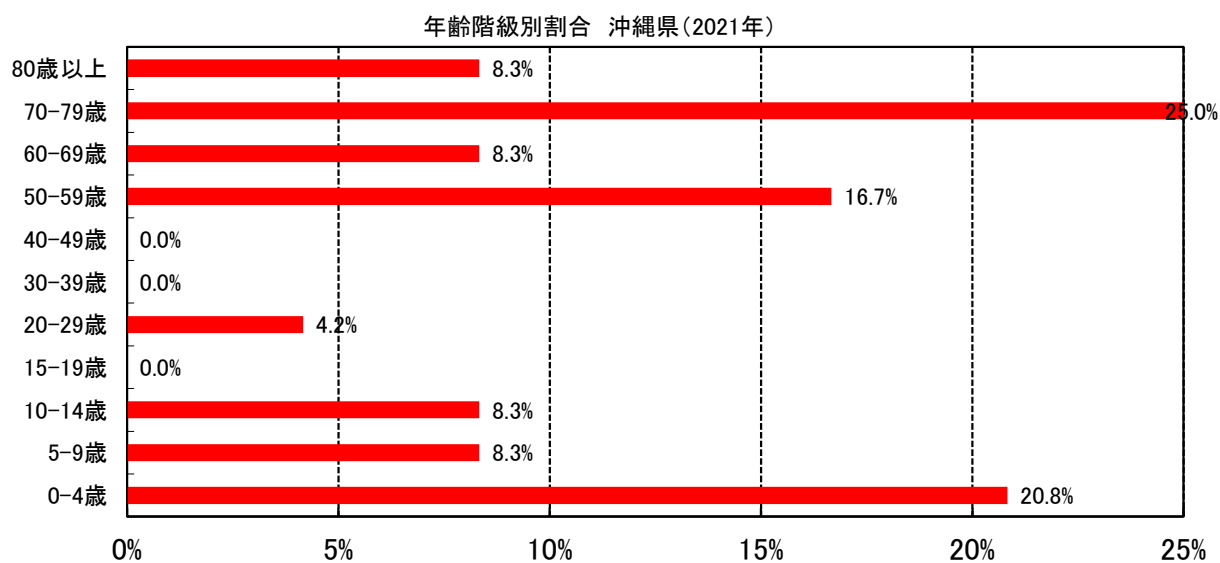
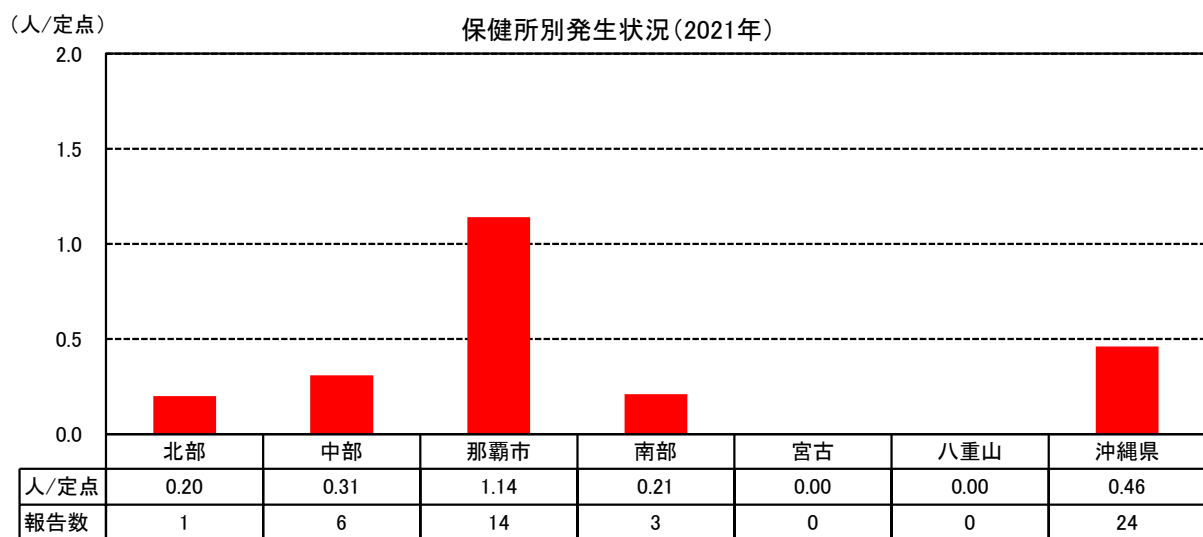
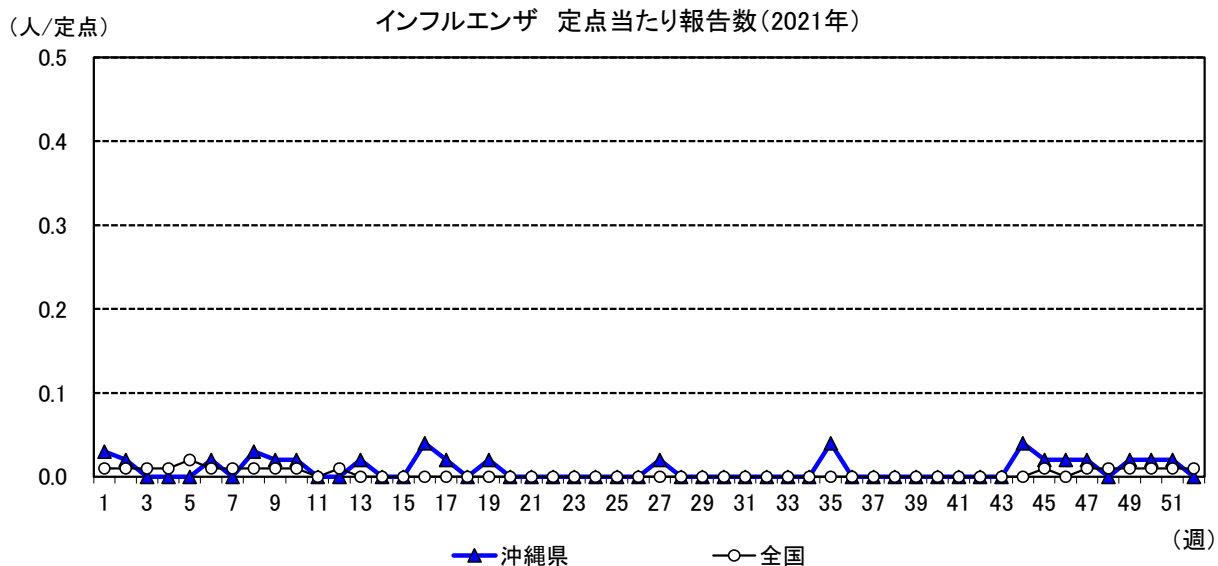
(1) インフルエンザ／小児科定点

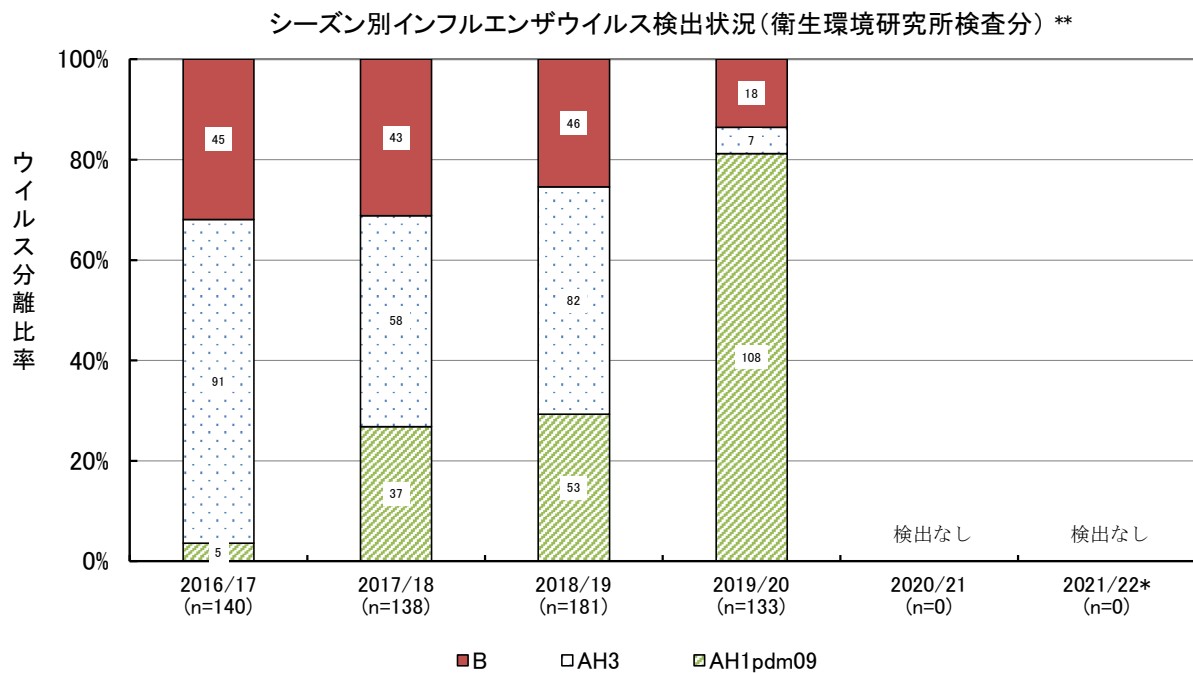
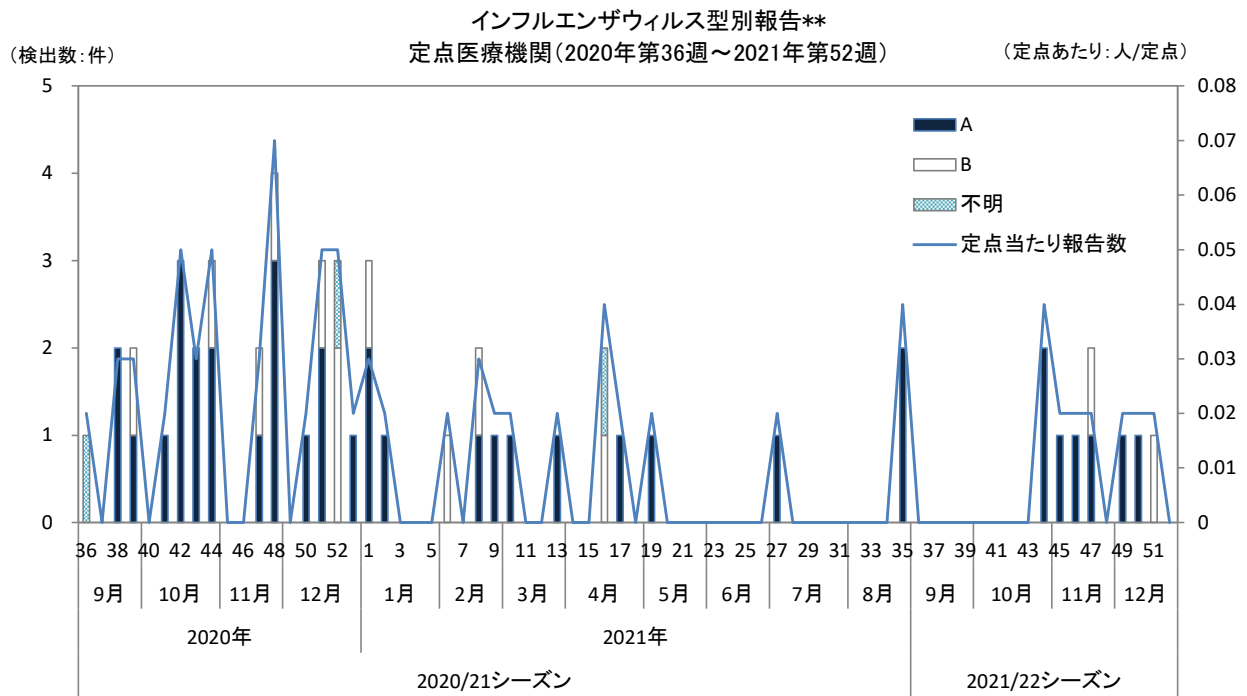
2021年、沖縄県内の報告数は24人、定点当たり報告数は0.46人で、過去5年で最も少ない報告数だった。

沖縄県の2020/21シーズンは、流行の兆しである定点当たり報告数1.0人以上の週はなく、2020年第48週の定点当たり報告数0.07人が最多値であった。2021/2022シーズンも同様に2021年52週までで定点当たり報告数1人以上の週はなく、2021年第44週の定点当たり報告数0.04人が最多値であった。

2021年の年齢階級別では、15歳未満が全体に占める割合は37.4%と過去5年（2020年:51.8%、2019年:49.4%、2018年:47.2%、2017年:49.4%）で最も低かった。







シーズン(9月～翌年8月)別の報告数合計: インフルエンザ

平均報告数 (2021/22)を除く	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22*
25,492	34,462	36,915	31,137	24,902	44	8

* : 2021年第36週～第52週の集計。

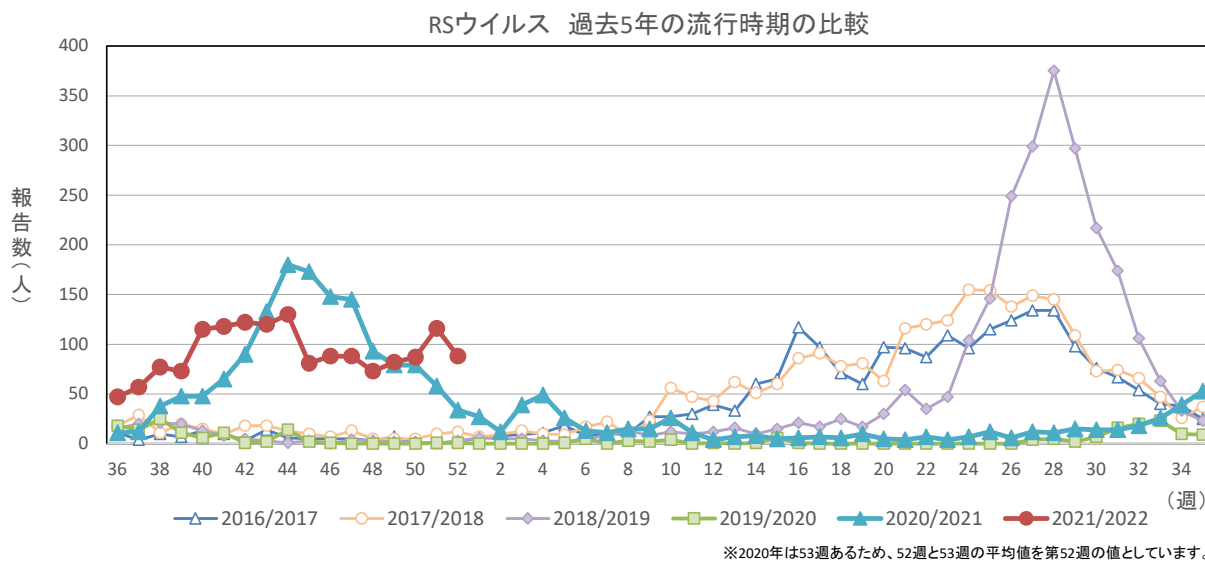
** : AとBの重複感染例を含む。

●RSウイルス感染症

2021年、沖縄県内の報告数は2,106人、定点当たり報告数は61.94人であり、2020年よりも増加した。2020/21シーズン（2020年第36週～2021年第35週）の報告数は2,012人、2021/22シーズン（2021年第36週～2022年第35週）の報告数は2021年第52週までで1,562人だった。

例年、沖縄県の流行は夏頃にみられるが、第44週をピークとする流行がみられた前年（2020年）と同様に、2021年も第44週の定点当たり報告数3.82人をピークとする流行がみられた。全国では第28週の定点当たり報告数5.99人をピークとする流行がみられた。

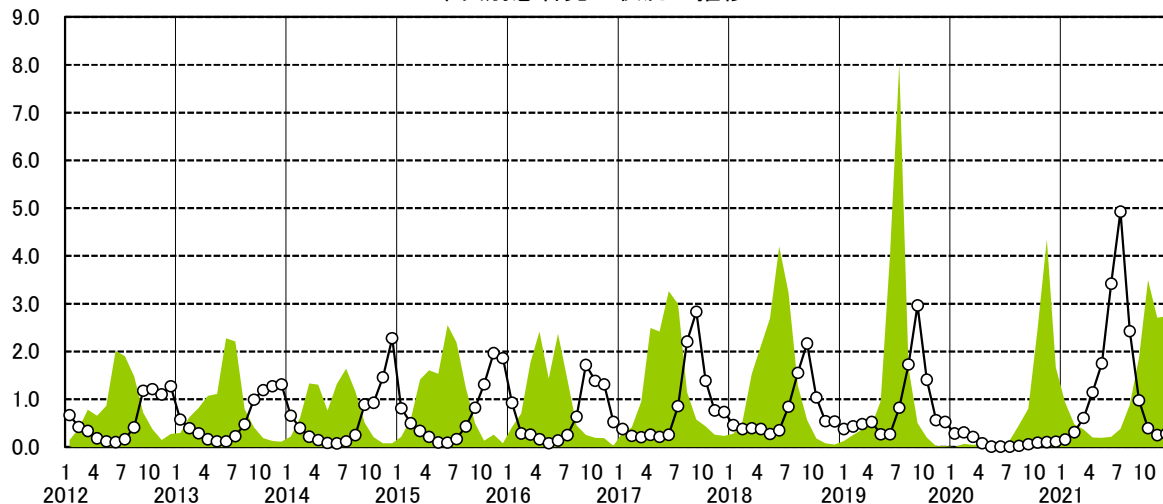
2021年の年齢階級別では2歳未満が全体に占める割合は68.3%で、過去5年（2020年：72.8%、2019年：81.8%、2018年：85.1%、2017年：85.1%）で最も低かった。



(人/定点)

年次別患者発生状況の推移

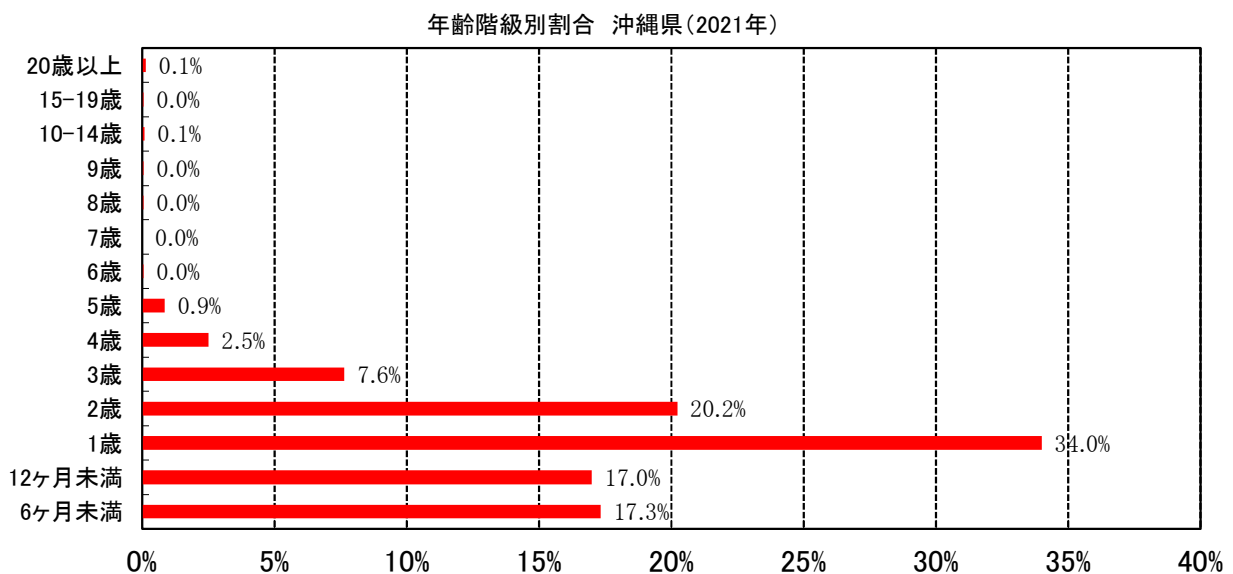
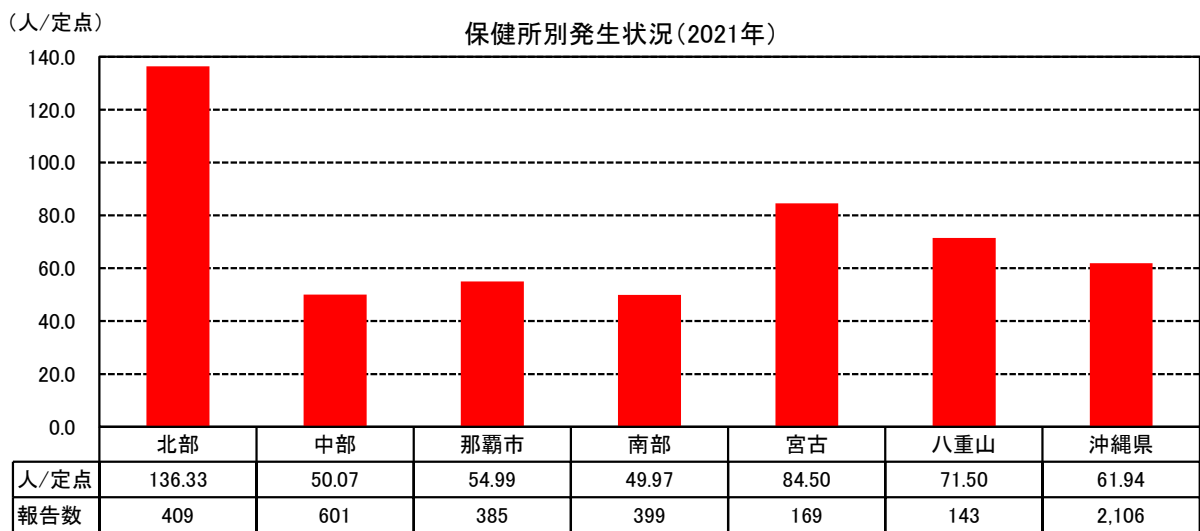
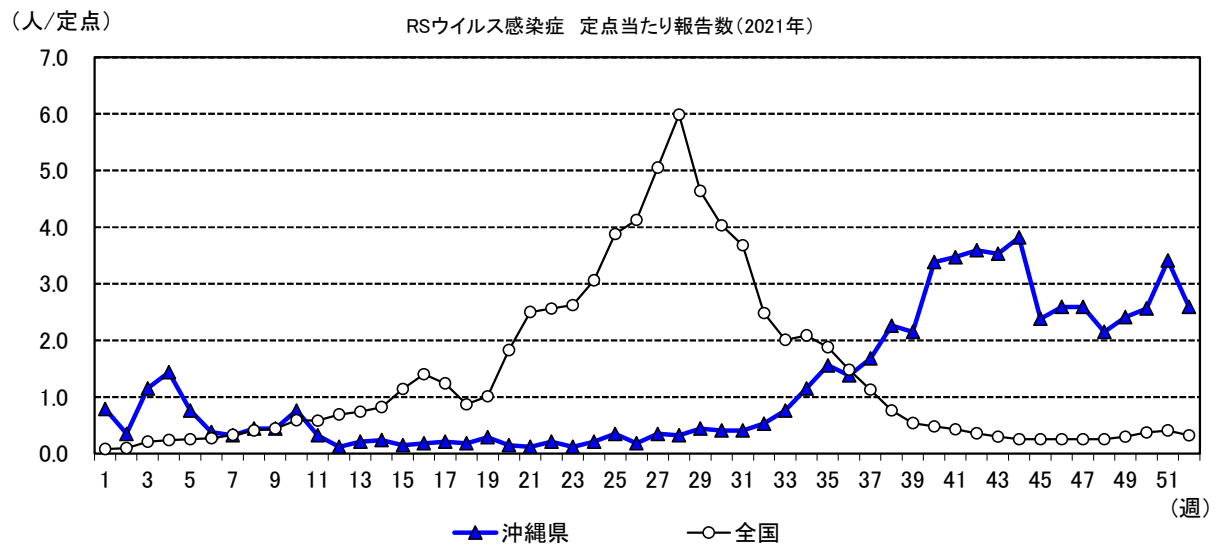
■沖縄県 ○—全国



シーズン（9月～翌年8月）別の報告数合計：RSウイルス感染症

平均報告数 (2021/22を除く)	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22*
1,923	2,203	2,589	2,586	227	2,012	1,562

*：2021年第36週～第52週の集計。



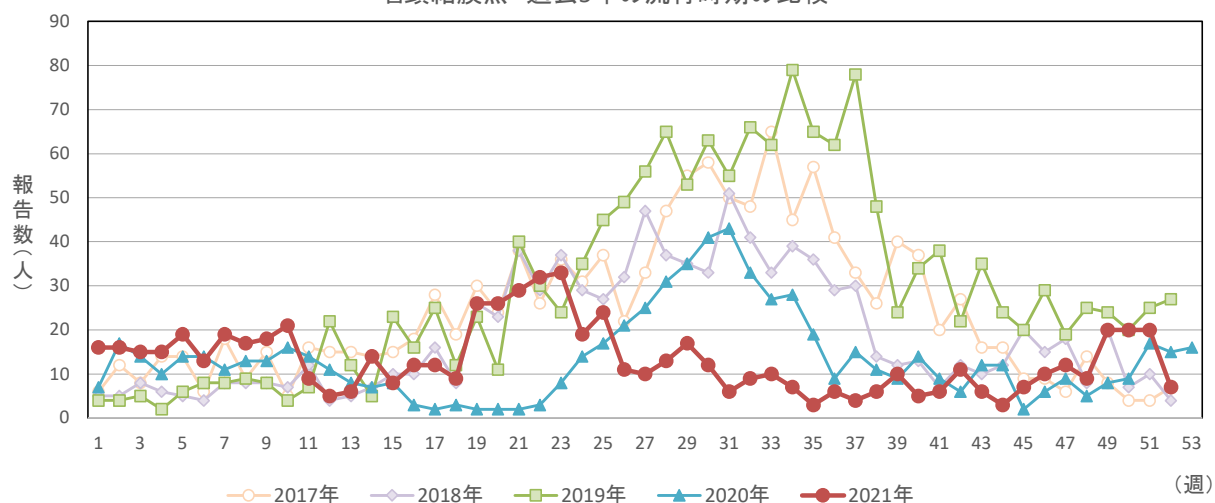
●咽頭結膜熱

2021年、沖縄県内の報告数は693人、定点当たり報告数は20.37人であり、過去5年で最も少ない報告数だった。

2021年は沖縄県、全国ともに、警報レベルの開始基準値3を上回る週はなく、沖縄県では第23週の定点当たり報告数0.97人が、全国では第24週の定点当たり報告数0.43人が最多値であった。

年齢階級別では、1歳が最も多く、全体の46.2%を占めていた。

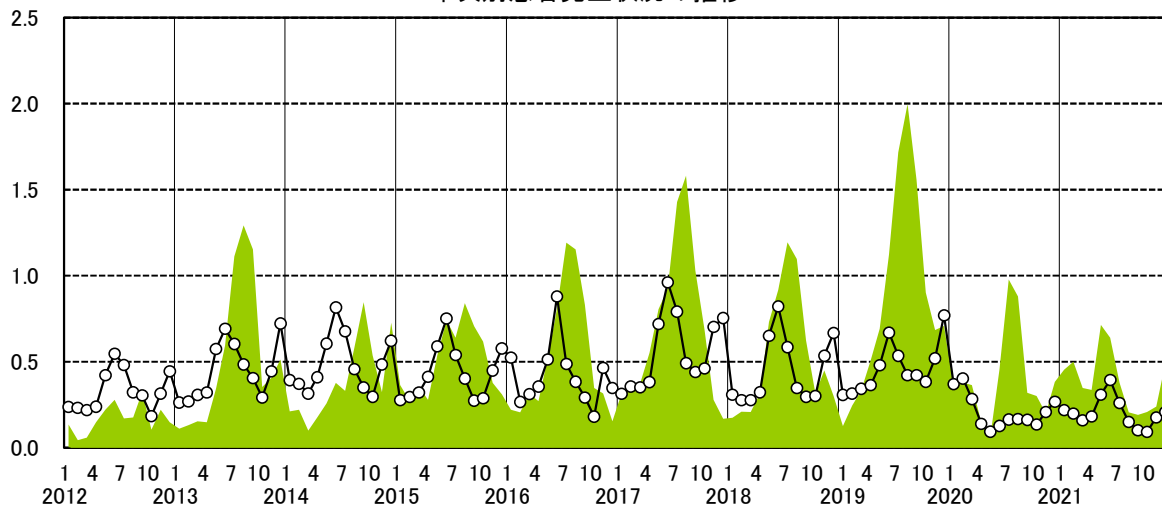
咽頭結膜熱 過去5年の流行時期の比較



(人/定点)

年次別患者発生状況の推移

■ 沖縄県 ○ 全国

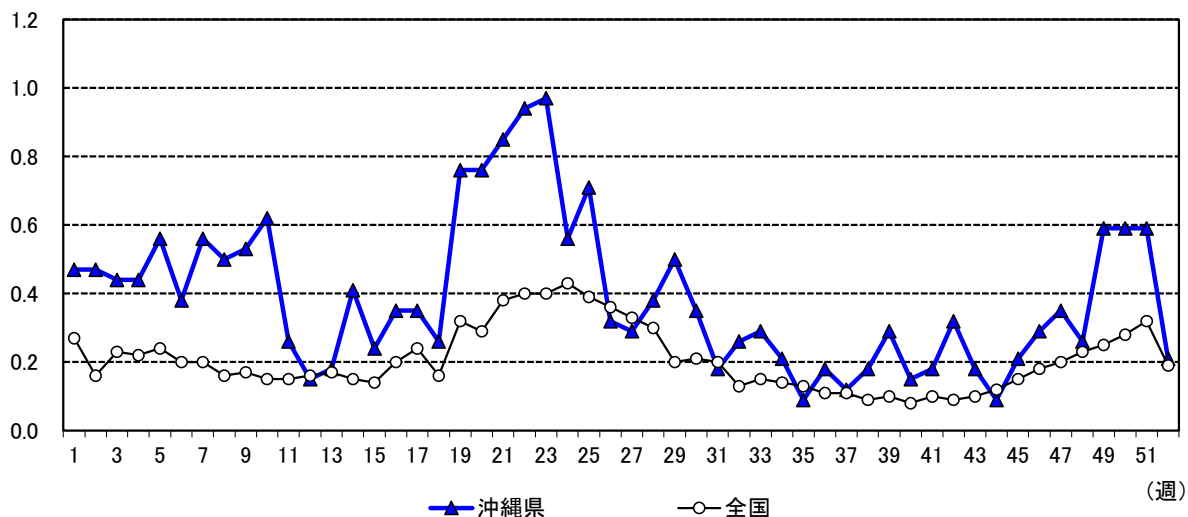


年別の報告数合計：咽頭結膜熱

平均報告数	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1,041	1,266	970	1,555	720	693

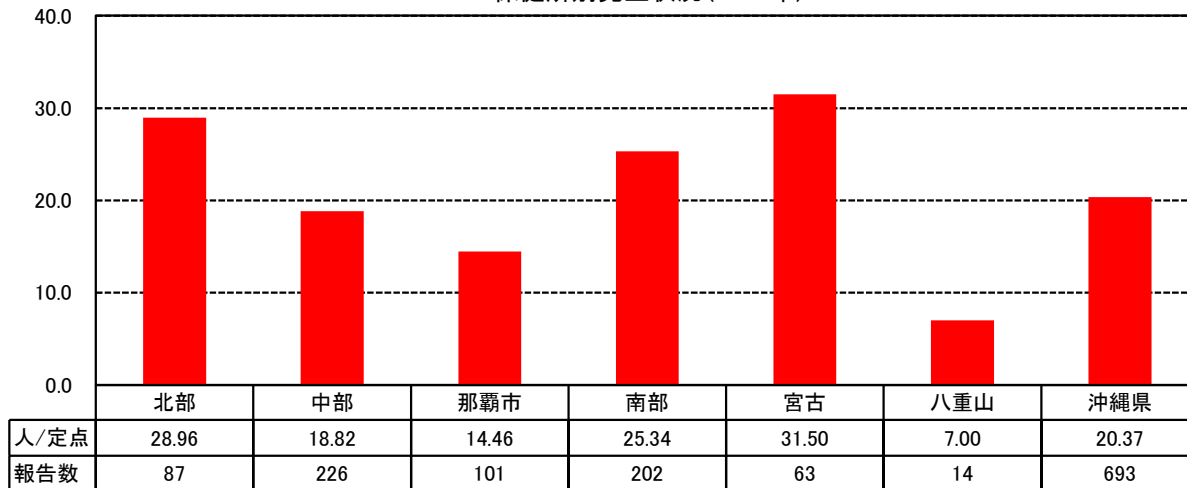
(人/定点)

咽頭結膜熱 保健所別発生状況(2021年)

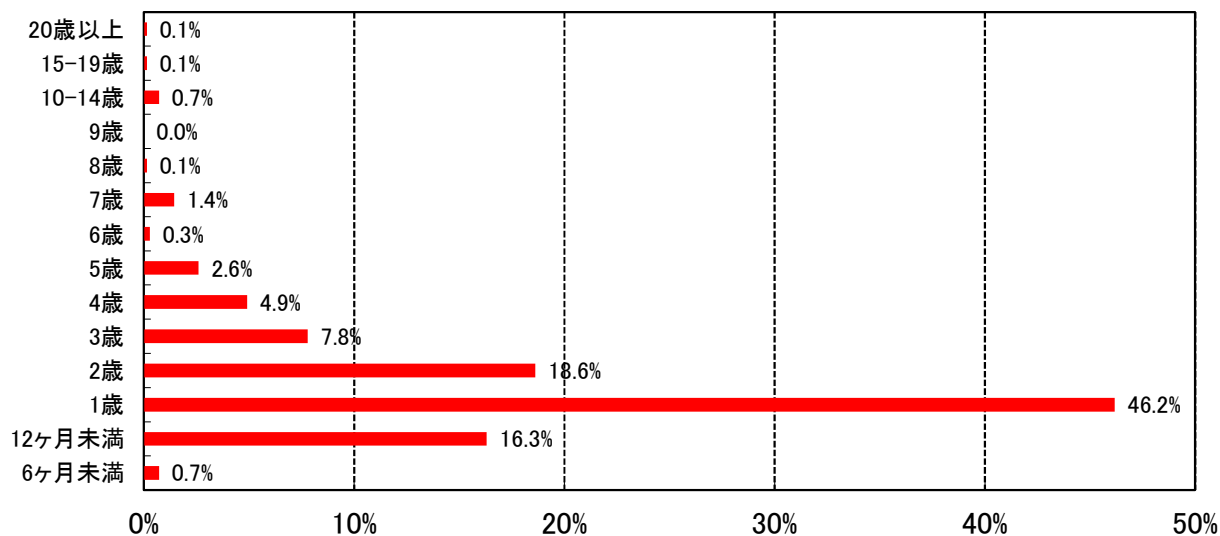


(人/定点)

保健所別発生状況(2021年)



年齢階級別割合 沖縄県(2021年)



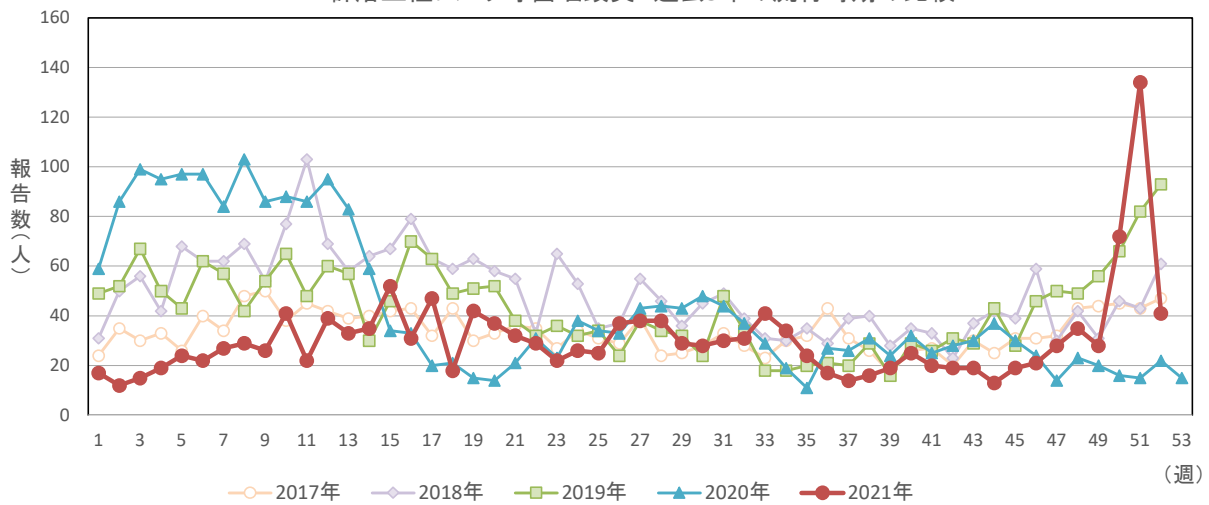
●A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2021年、沖縄県内の報告数は1,592人、定点当たり46.84人であり、過去5年で最も少ない報告数だった。

2021年は沖縄県、全国ともに、警報レベルの開始基準値8を上回る週はなく、沖縄県では第51週の定点当たり報告数3.94人が、全国では第5週と第10週の定点当たり報告数0.79人が最多値であった。

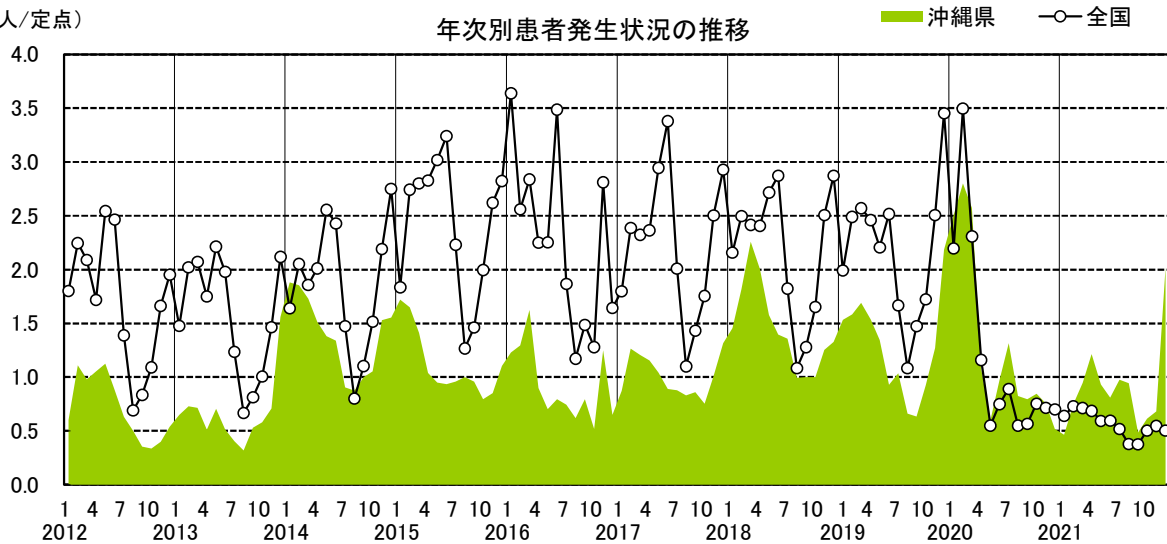
保健所別では、八重山保健所管内の定点あたり報告数が331.50人で、他保健所管内より多く見られた。年齢階級別では、10歳未満が全体の84.6%を占めていた。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 過去5年の流行時期の比較



(人/定点)

年次別患者発生状況の推移

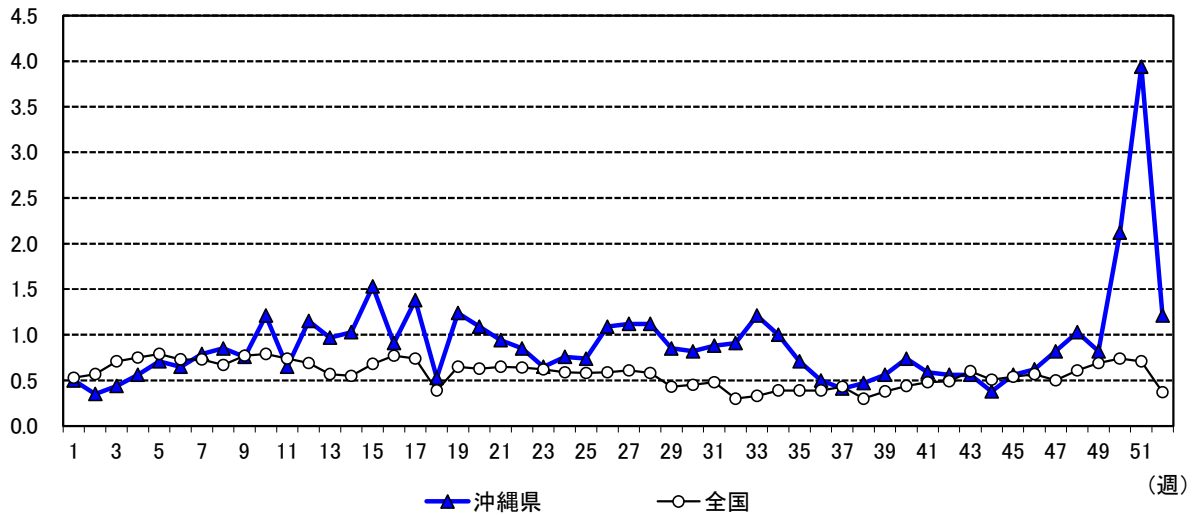


年別の報告数合計：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

平均報告数	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
2,089	1,762	2,555	2,243	2,291	1,592

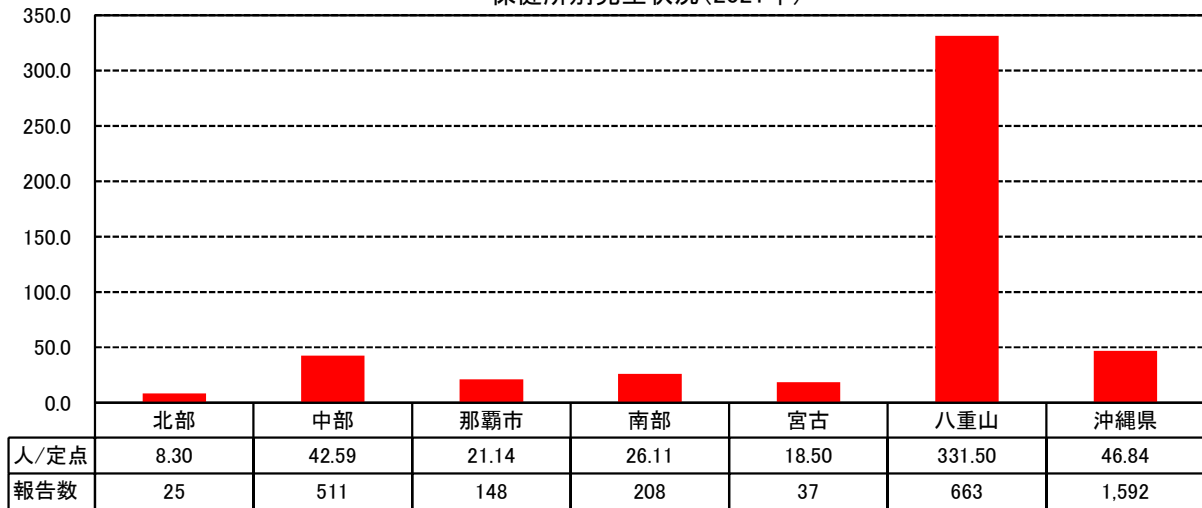
(人/定点)

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 定点当たり報告数(2021年)

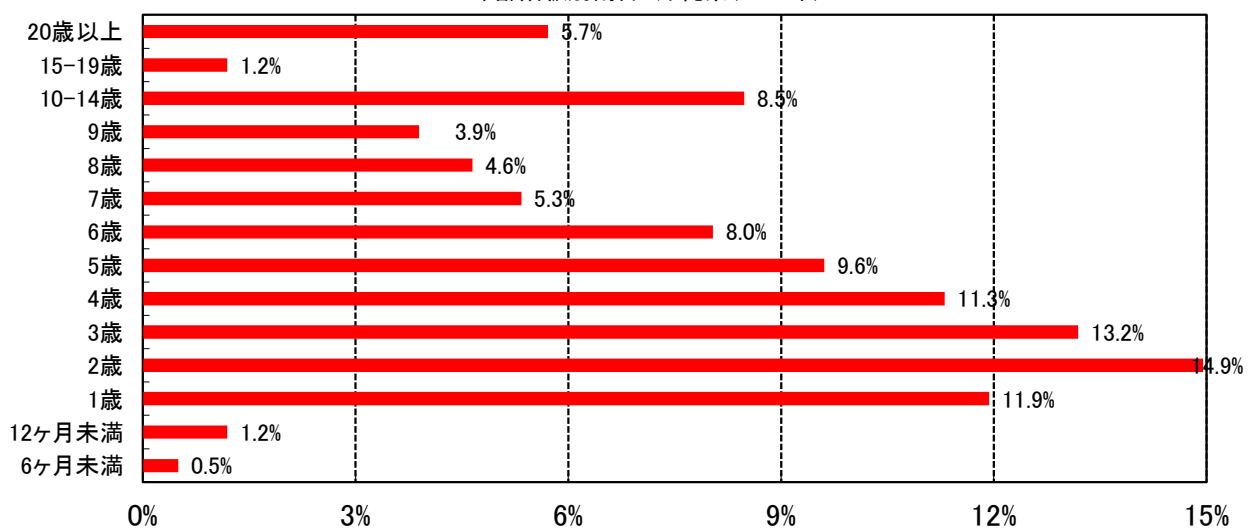


(人/定点)

保健所別発生状況(2021年)



年齢階級別割合 沖縄県(2021年)



2021年、沖縄県内の報告数は2,545人、定点当たり報告数は74.86人で2020年よりも増加した。2020/21シーズン（2020年第36週～2021年第35週）の報告数は2,334人、2021/22シーズン（2021年第36週～2022年第35週）の報告数は2021年第52週までで661人だった。2021年は沖縄県、全国ともに、警報レベルの開始基準値20を上回る週はなく、沖縄県では第21週の定点当たり報告数4.21人が、全国では第51週の定点当たり報告数7.81人が最多値であった。

報告数(人)

感染性胃腸炎 過去5年の流行時期の比較

600
500
400
300
200
100
0

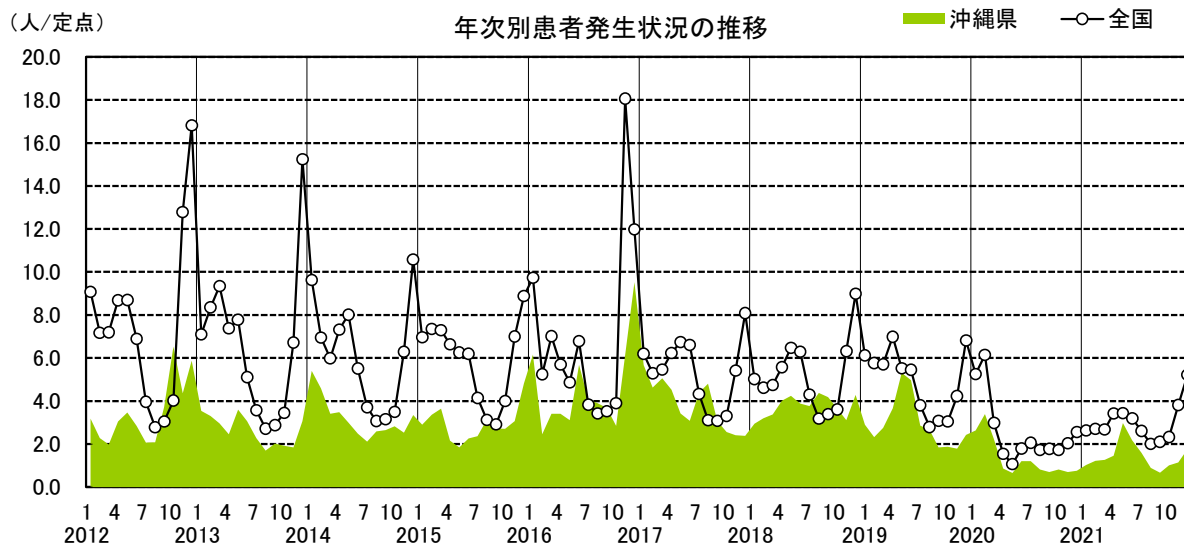
36 38 40 42 44 46 48 50 52 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24 26 28 30 32 34

△ 2016/2017 ○ 2017/2018 ◇ 2018/2019 □ 2019/2020 ▲ 2020/2021 ● 2021/2022

(週)

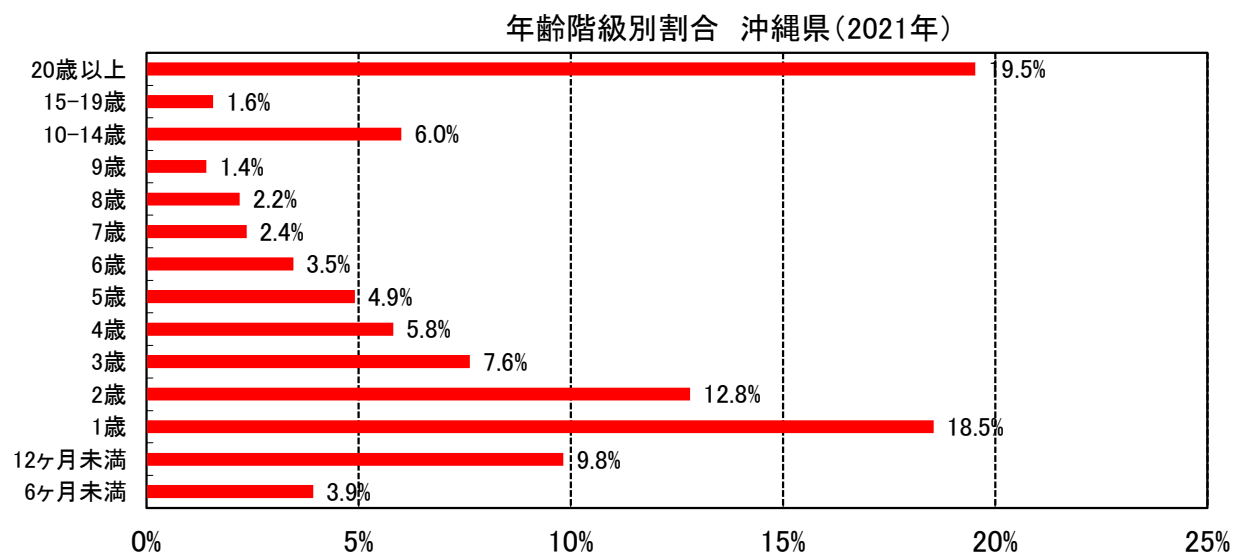
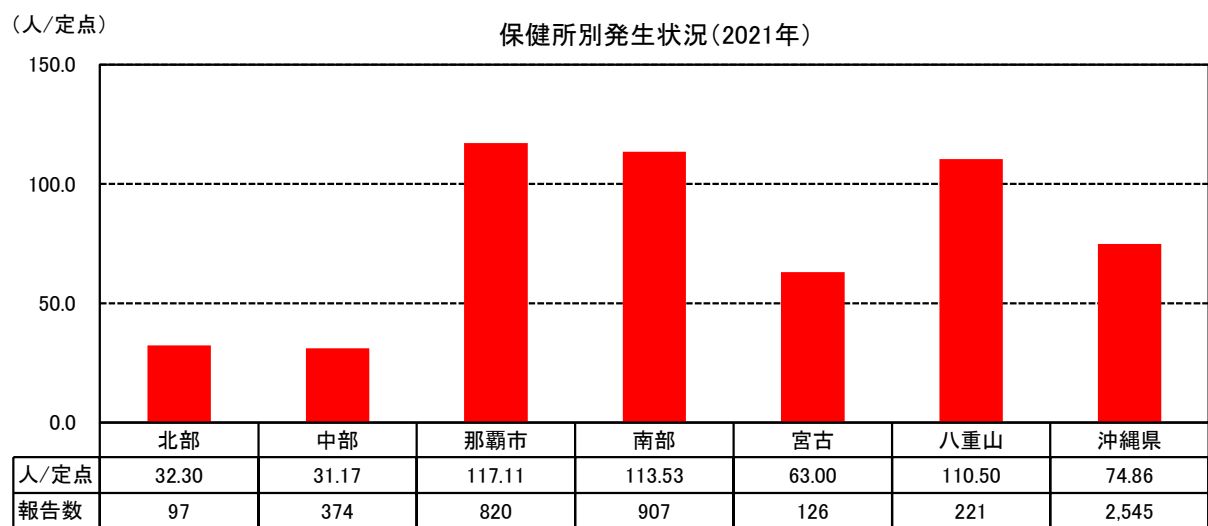
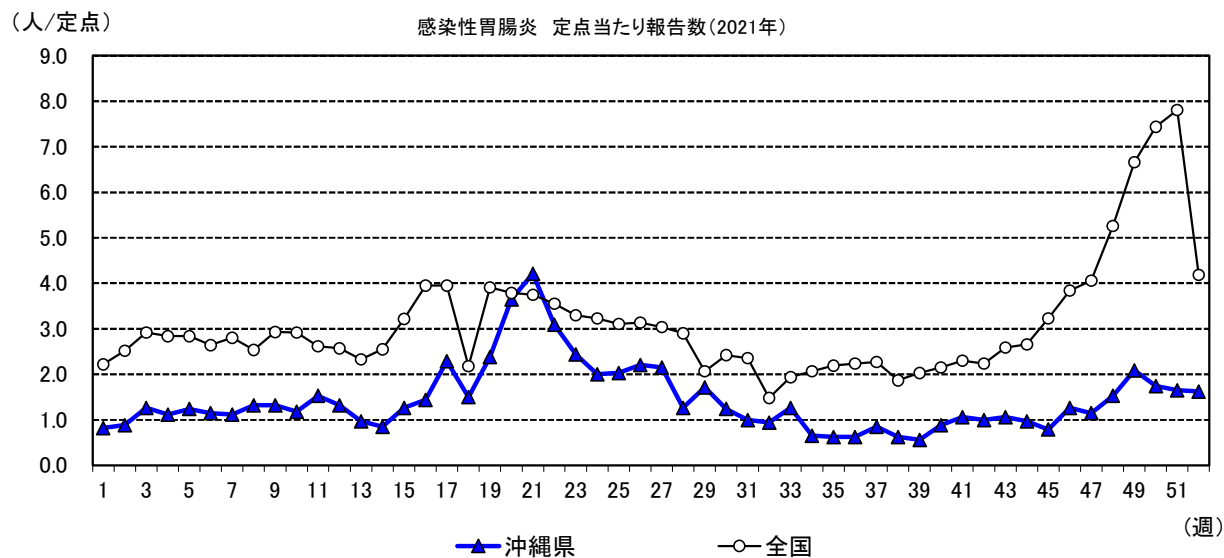
※2020年は53週あるため、52週と53週の平均値を第52週の値としています

※2020年は53週あるため、52週と53週の平均値を第52週の値としています。



平均報告数 (2021/22を除く)	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22*
5, 217	8, 523	5, 926	6, 280	3, 022	2, 334	661

* : 2021年第36週～第52週の集計。



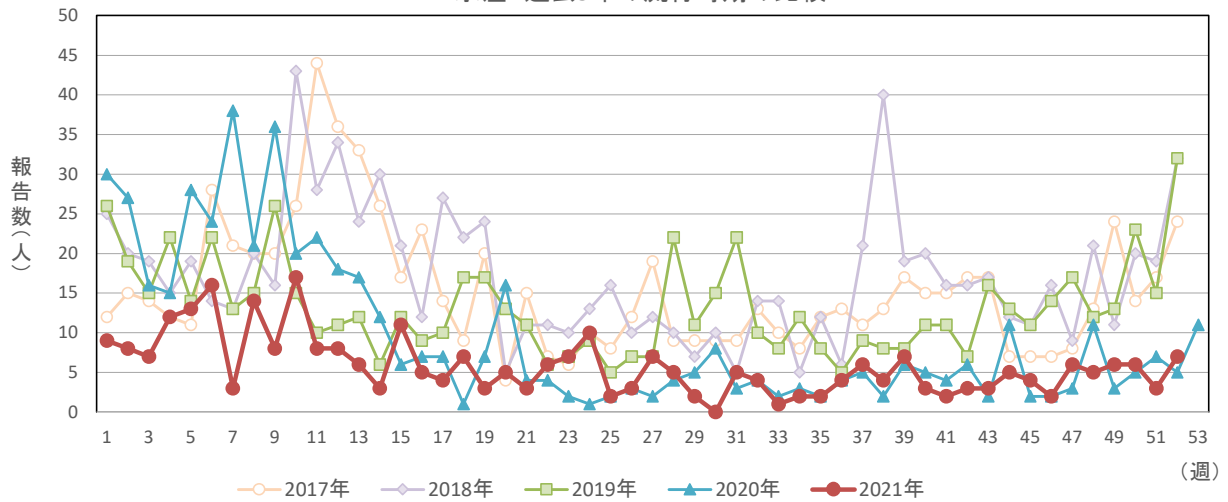
●水痘

2021年、沖縄県内の報告数は302人、定点当たり報告数は8.98人で、定期予防接種の対象となった2014年10月以降、減少傾向にあり、2021年の報告者数は過去10年で最も少ない報告数だった。

2021年は沖縄県、全国ともに注意報レベルの基準値1を上回る週はなく、沖縄県では第10週の定点当たり報告数0.50人が、全国では第1週の定点当たり報告数0.19人が最多値であった。

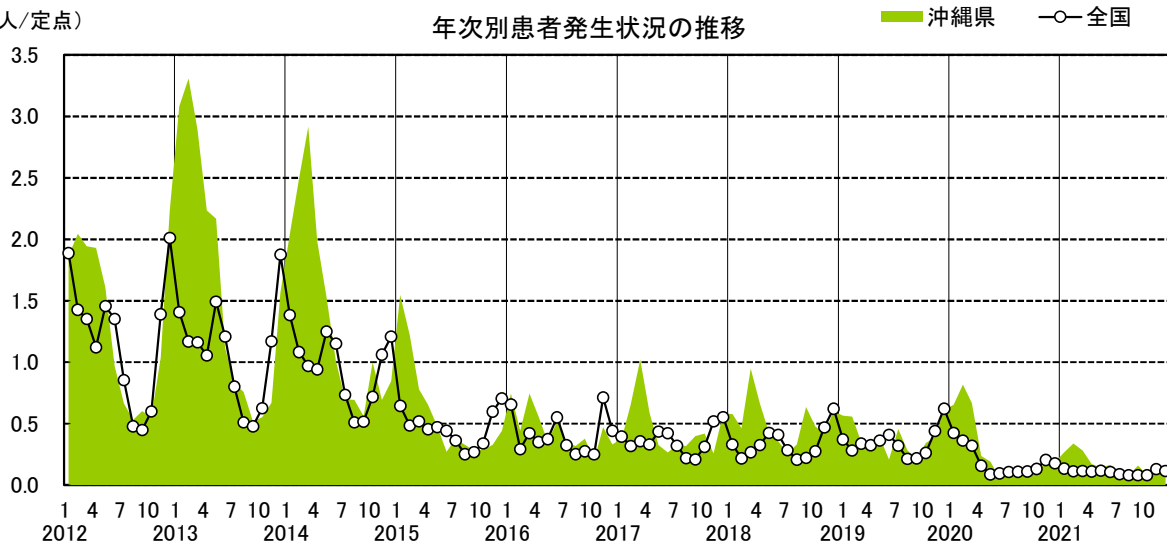
年齢階級別では、10歳未満が全体の89.4%を占め、1歳が最も多く14.9%、次いで6歳が11.9%、5歳が10.9%と続いた。

水痘 過去5年の流行時期の比較



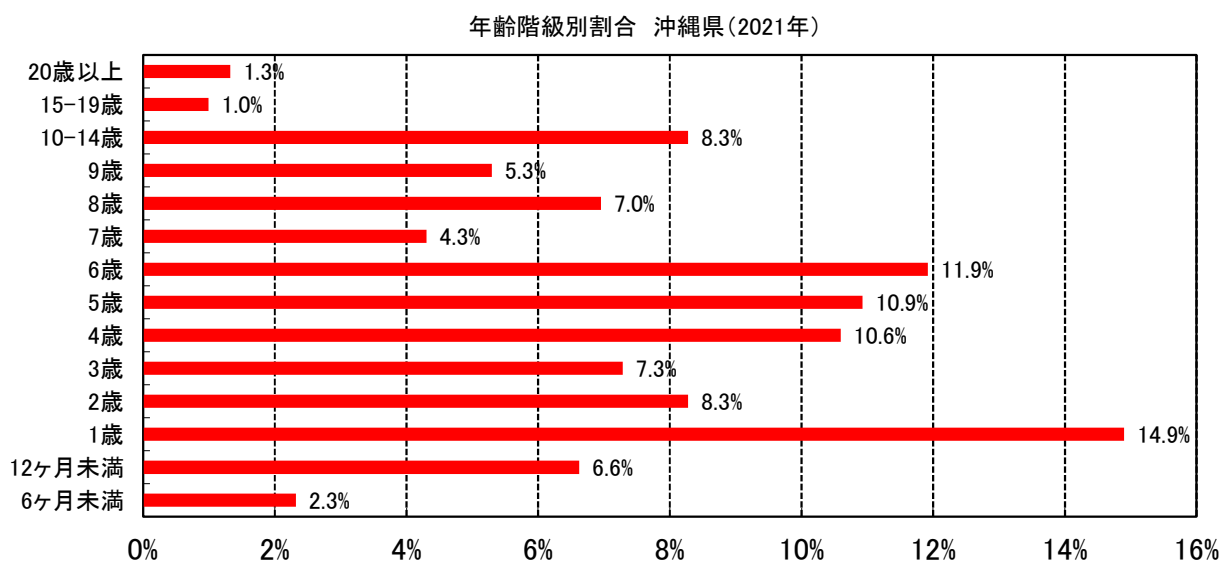
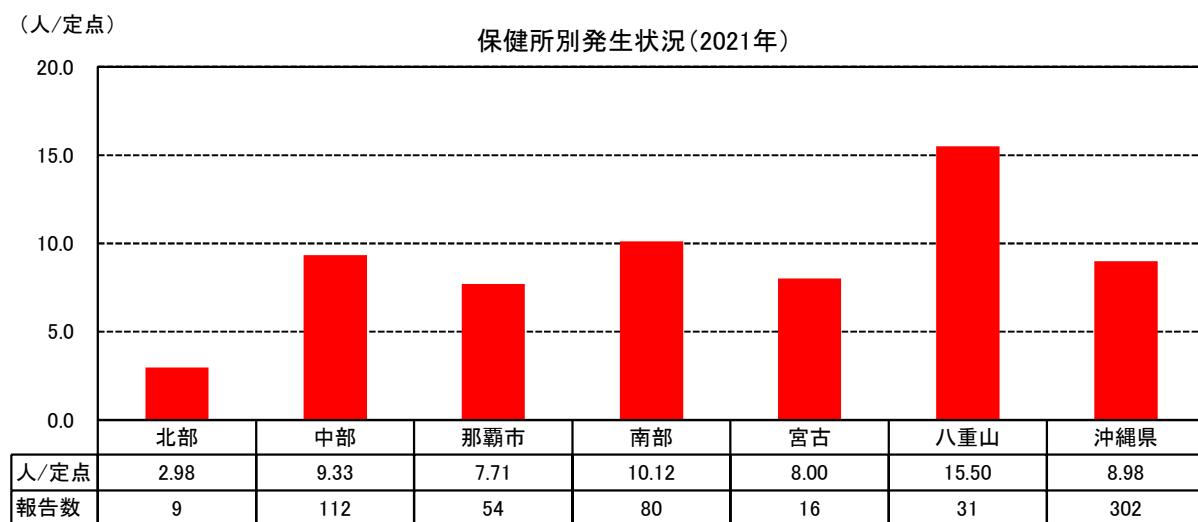
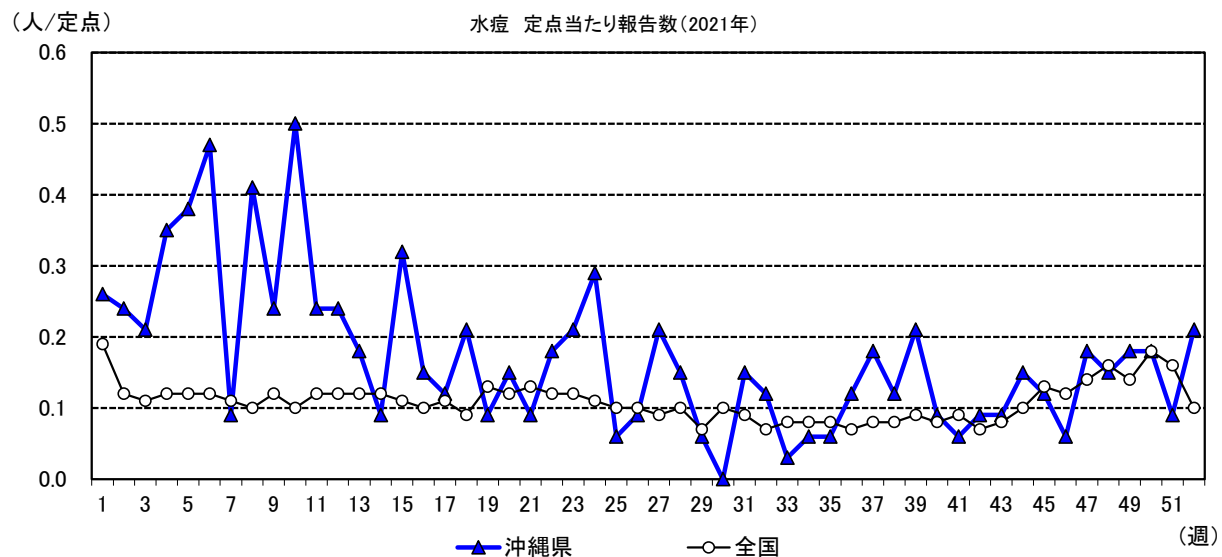
(人/定点)

年次別患者発生状況の推移



年別の報告数合計：水痘

平均報告数	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
640	800	897	689	511	302

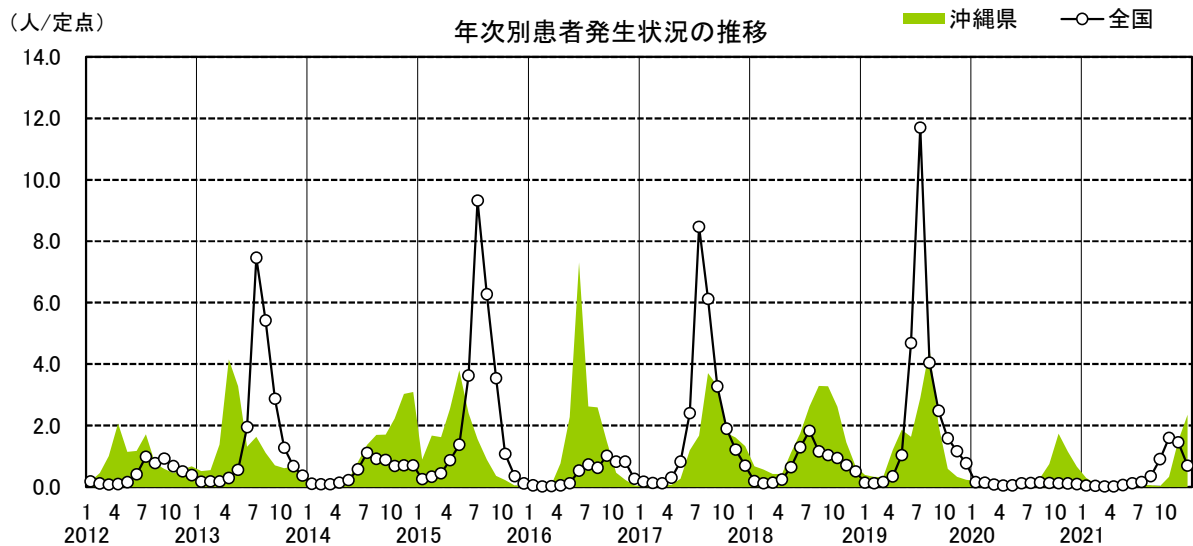
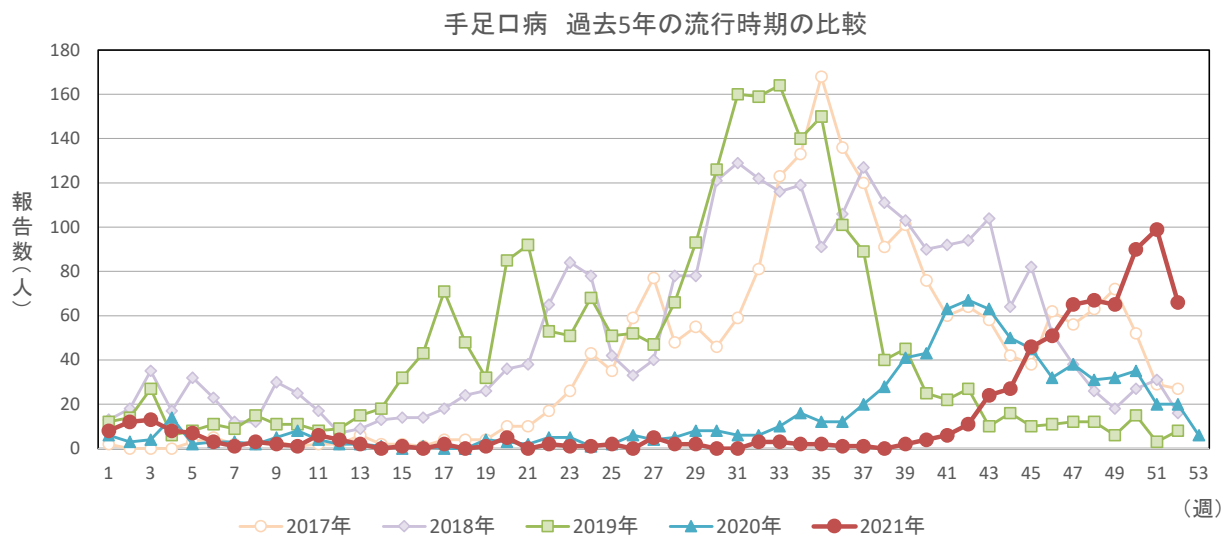


●手足口病

2021年、沖縄県内の報告数は729人、定点当たり報告数は21.48人で、過去5年で最も少ない報告数だった。

2021年は沖縄県、全国ともに警報レベルの開始基準値5を上回る週はなく、沖縄県では第51週の定点当たり報告数2.91人が、全国では第41週の定点当たり報告数1.71人が最多値であった。

年齢階級別では1歳が最も多く、全体の57.6%を占めていた。

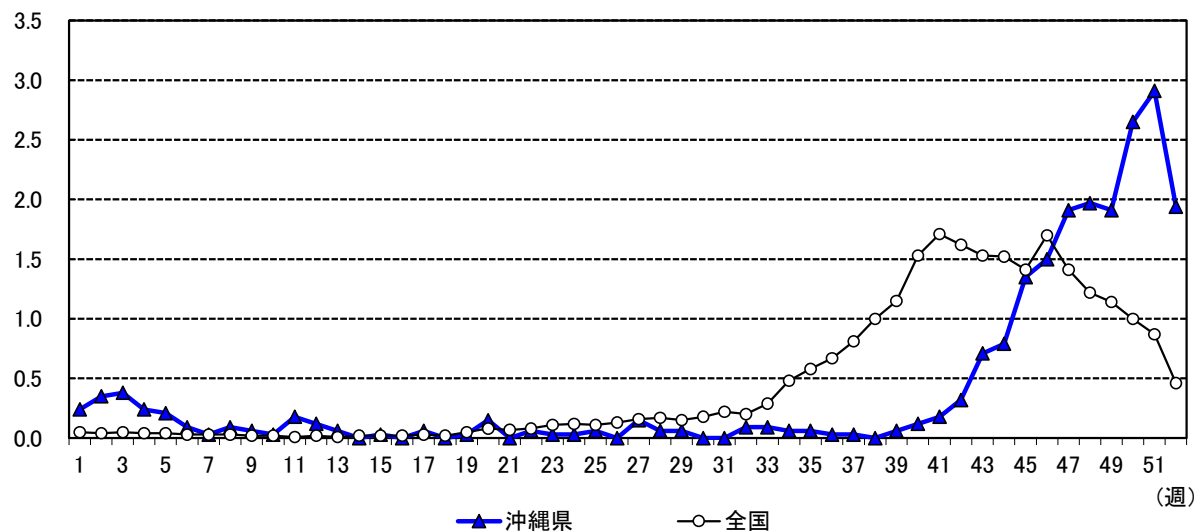


年別の報告数合計：手足口病

平均報告数	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1,788	2,182	2,810	2,409	809	729

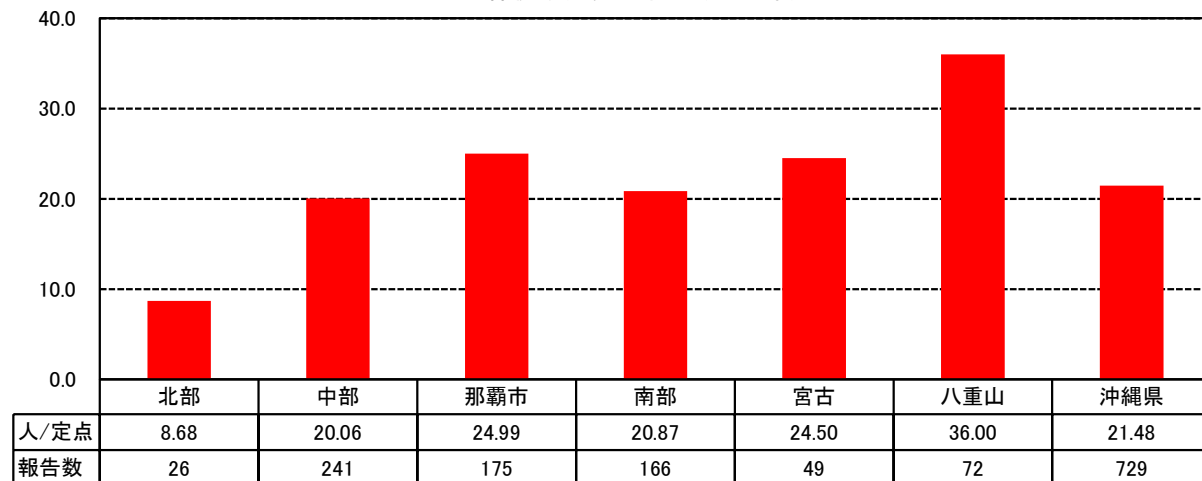
(人/定点)

手足口病 定点当たり報告数(2021年)

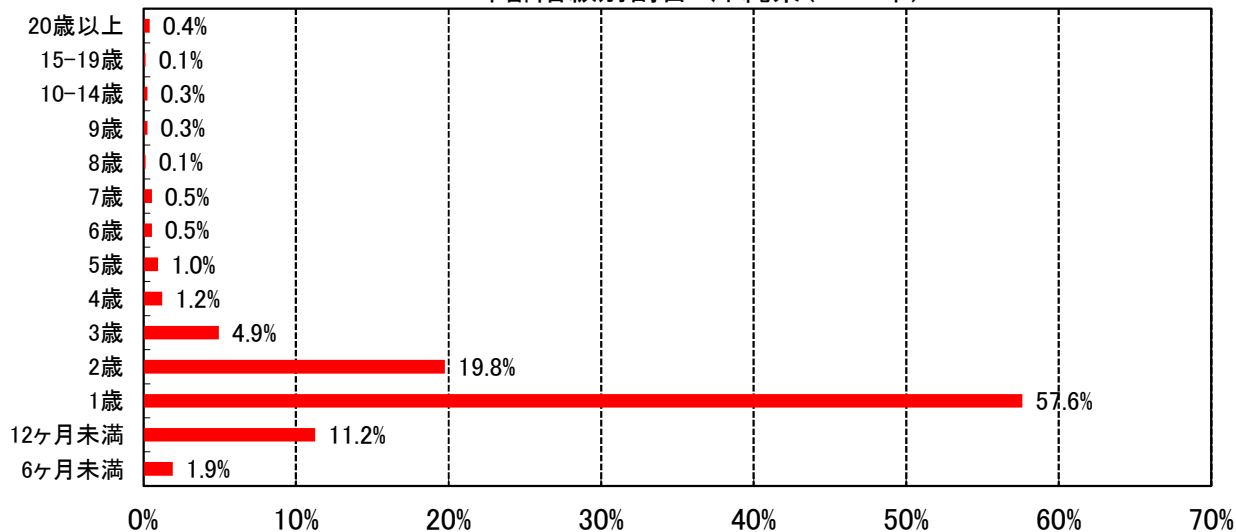


(人/定点)

保健所別発生状況(2021年)



年齢階級別割合 沖縄県(2021年)

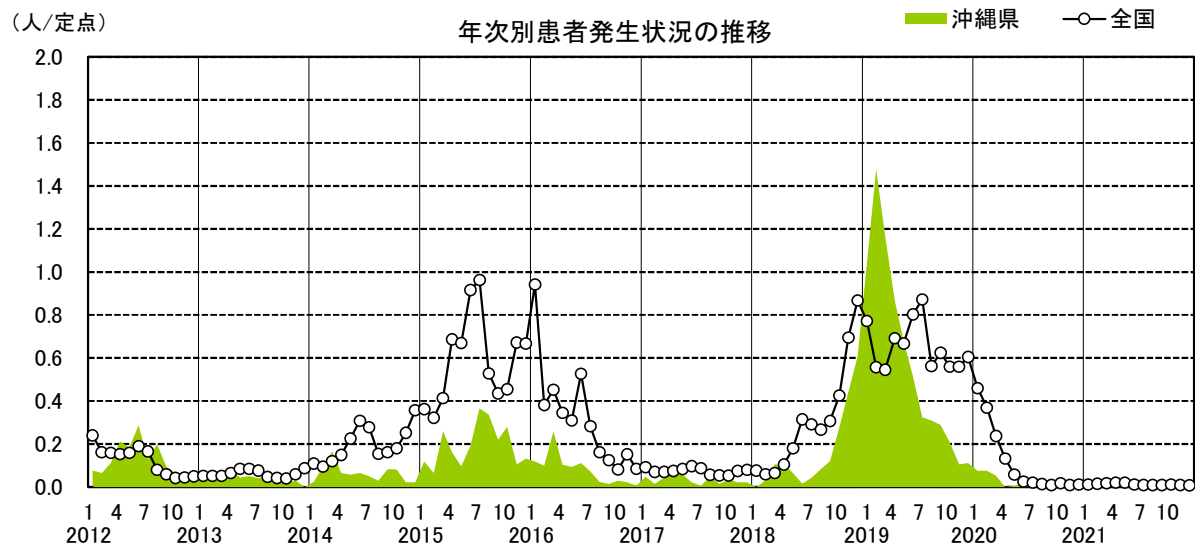
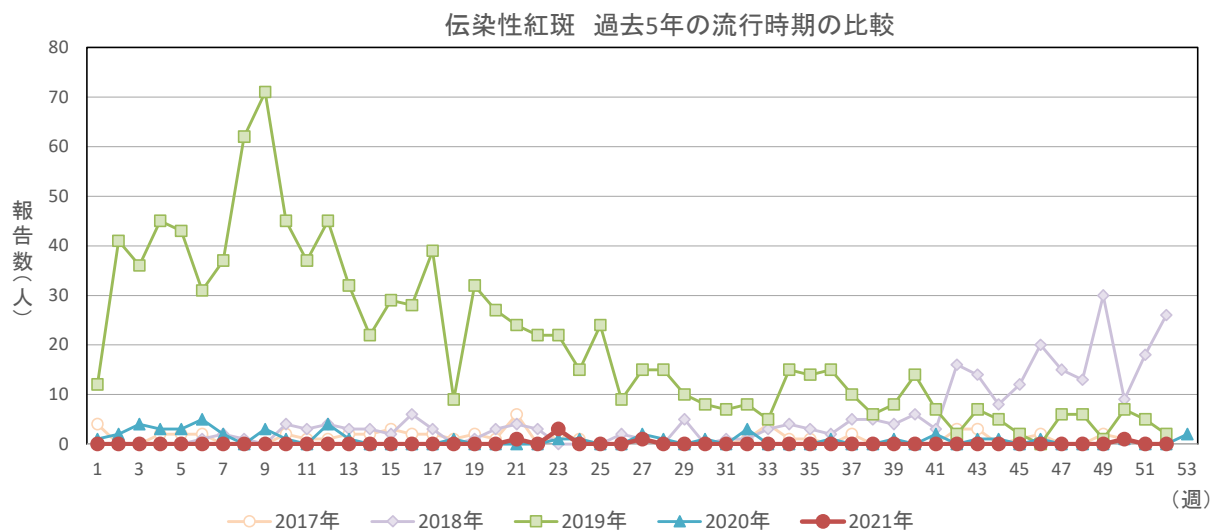


●伝染性紅斑

2021年、沖縄県内の報告数は6人、定点当たり報告数は0.18人であり、過去10年で最も少ない報告数だった。

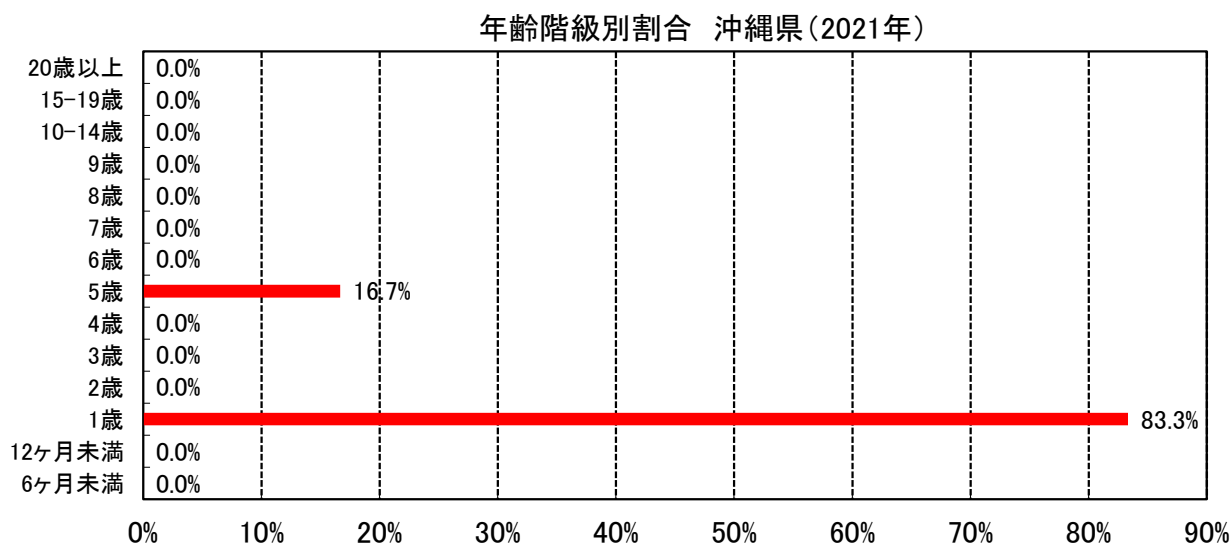
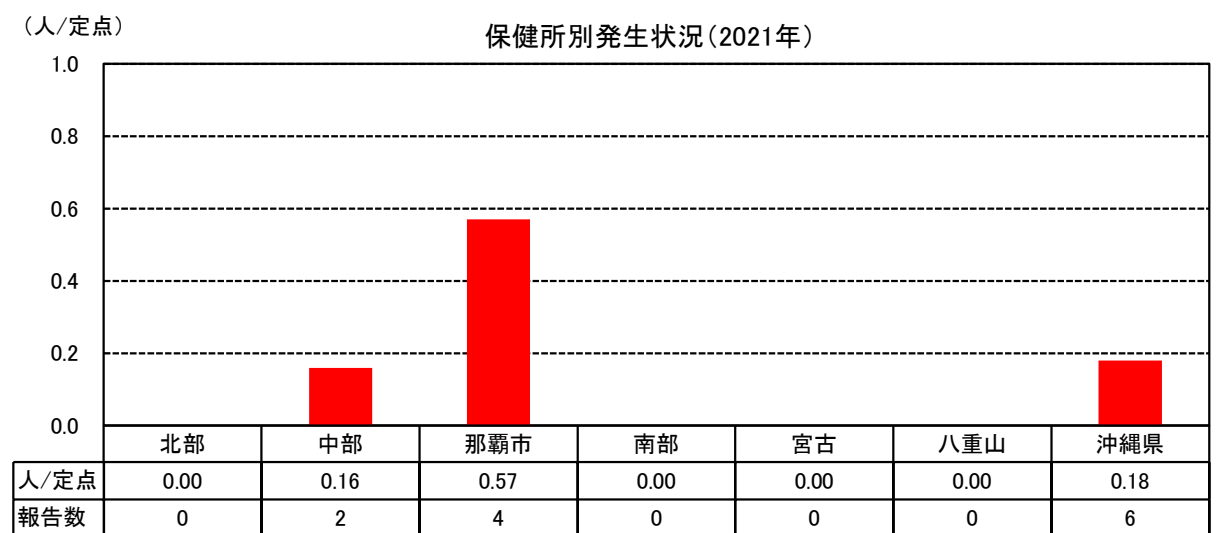
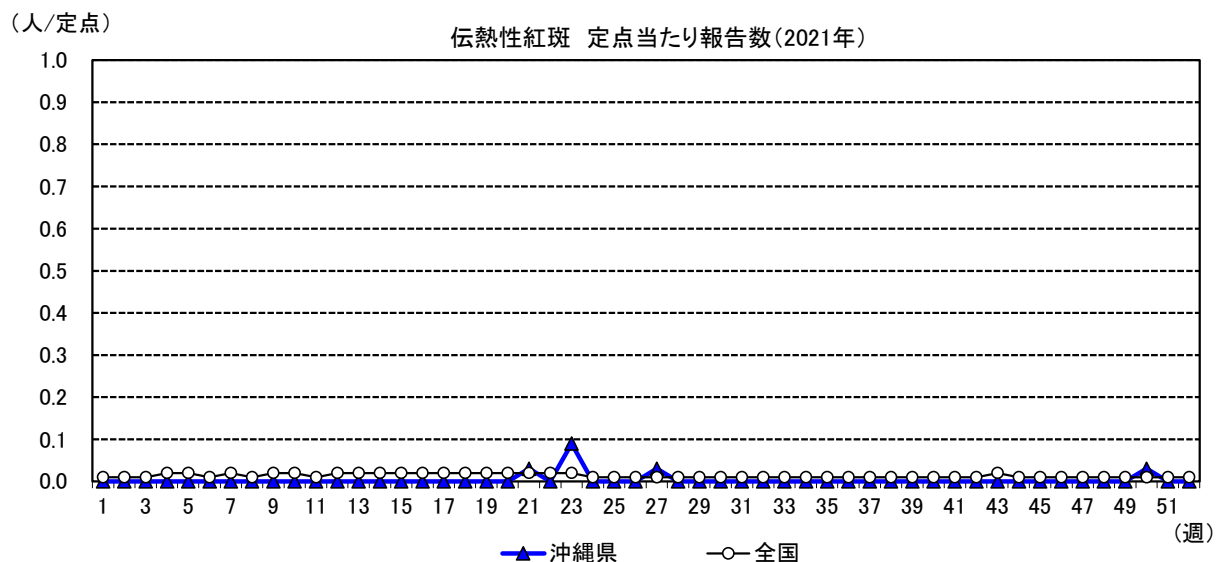
2021年は沖縄県、全国ともに警報レベルの開始基準値2を上回る週はなく、沖縄県では第23週の定点当たり報告数0.09人が、全国では複数の週での定点当たり報告数0.02人が最多値であった。

報告があったのは1歳と5歳のみで、1歳が全体の83.3%を占めていた。



年別の報告数合計：伝染性紅斑

平均報告数	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
285	60	269	1039	49	6



2021年、沖縄県内の報告数は488人、定点当たり報告数は14.35人であり、過去5年で最も少ない報告数だった。

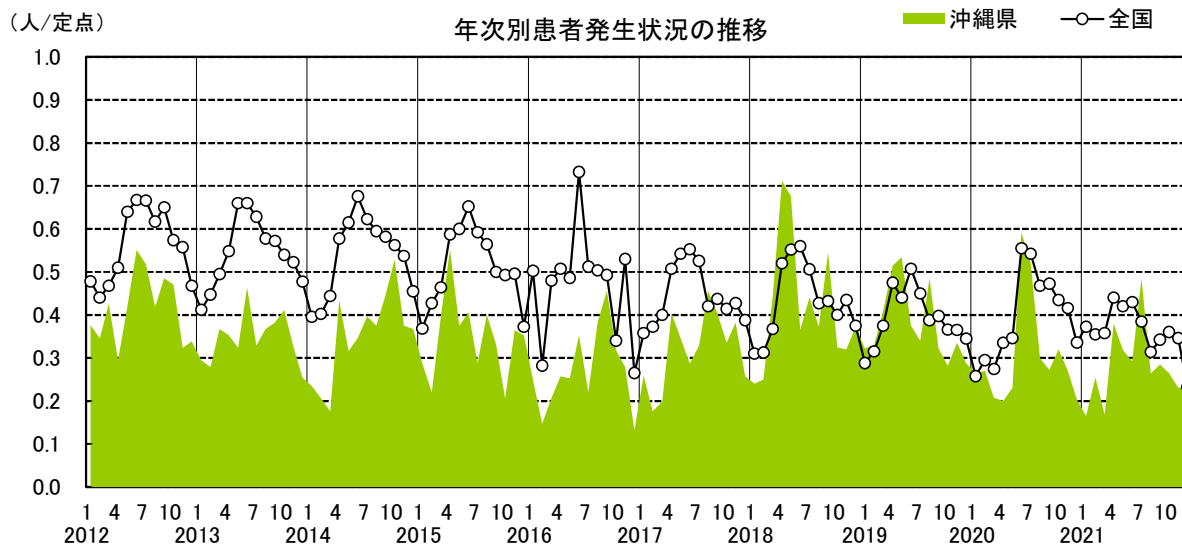
2021年は沖縄県では第28週の定点当たり報告数0.65人が、全国では第16週と第17週の定点当たり報告数0.48人が最多値であった。

突発性発疹 過去5年の流行時期の比較

報告数(人)

17年 18年 19年 20年 21年

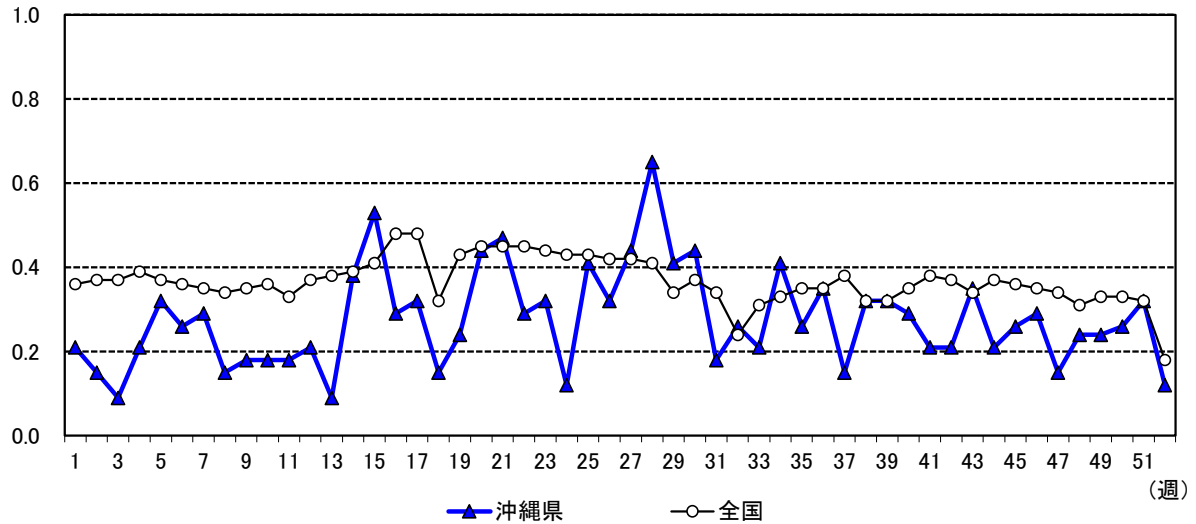
(週)



平均報告数	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
600	565	747	666	534	488

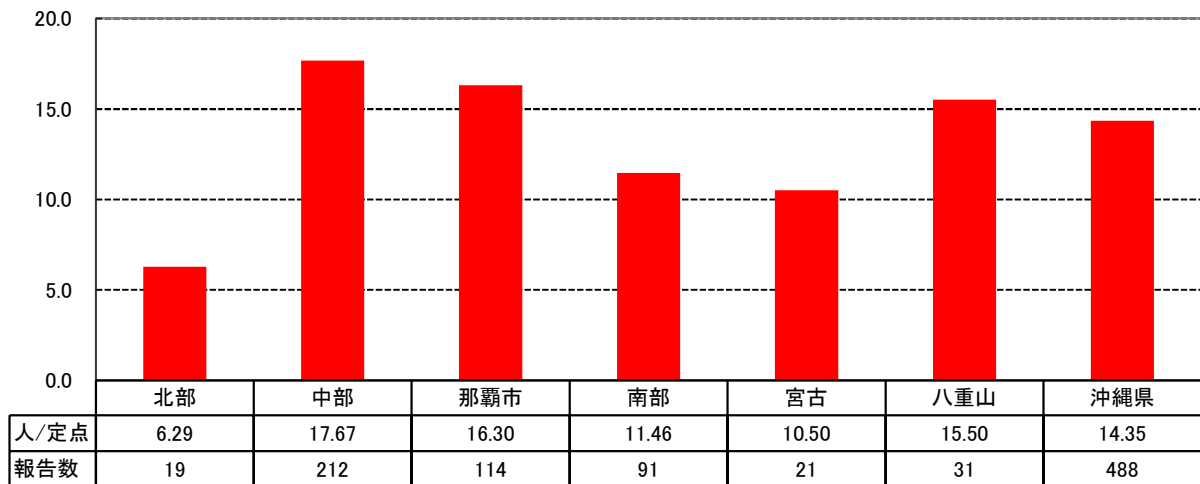
(人/定点)

突発性発疹 定点当たり報告数(2021年)

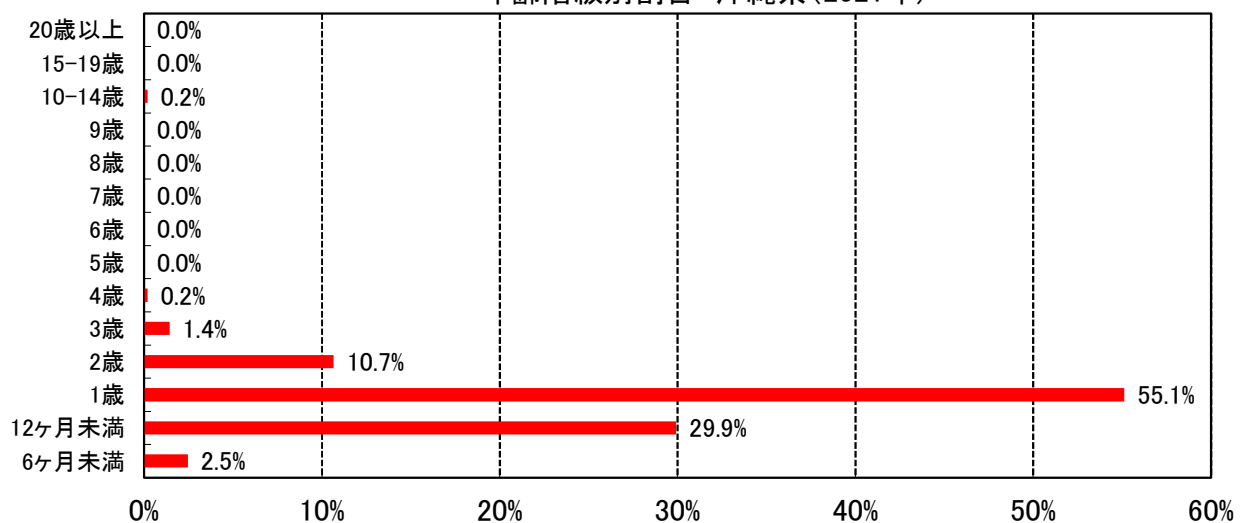


(人/定点)

保健所別発生状況(2021年)



年齢階級別割合 沖縄県(2021年)

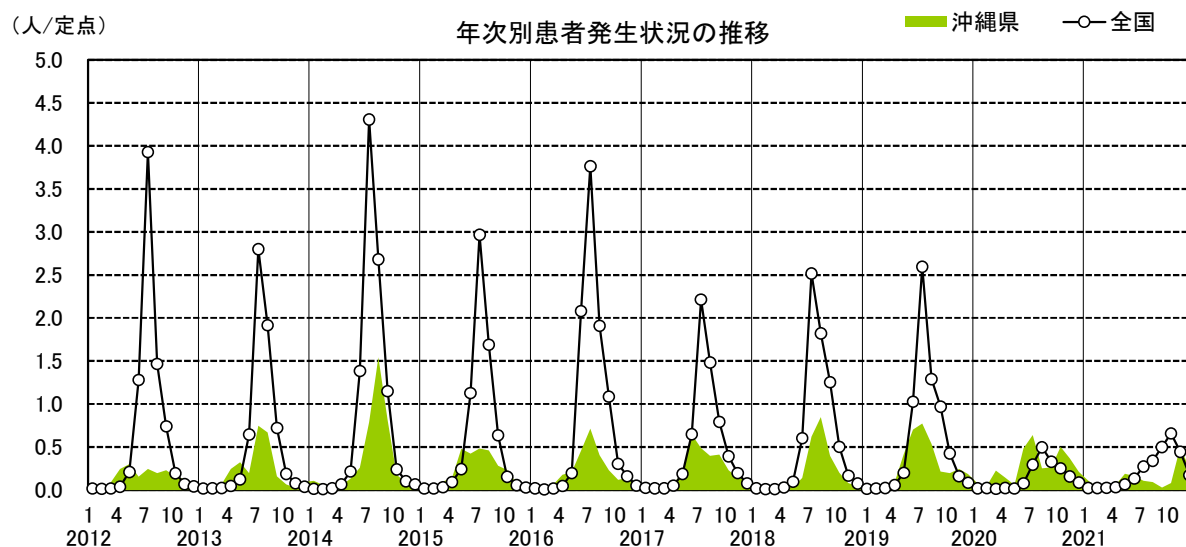
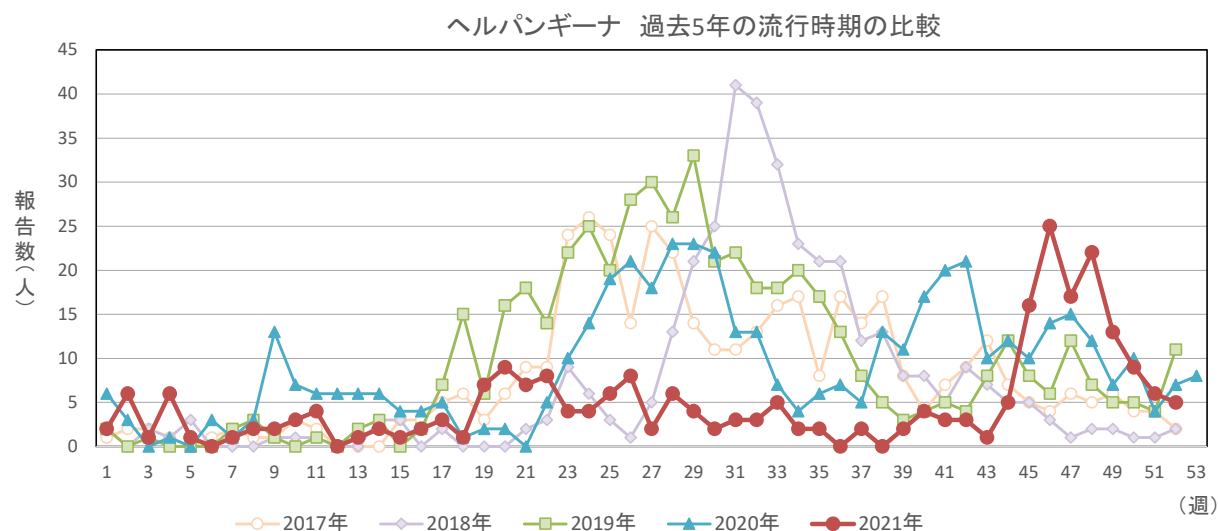


●ヘルパンギーナ

2021年、沖縄県内の報告数は253人、定点当たり報告数は7.52人であり、過去5年で最も少ない報告数だった。

2021年は沖縄県、全国ともに、警報レベルの開始基準値6を上回る週はなく、沖縄県では第46週の定点当たり報告数0.74人が、全国では第41週と第42週の定点当たり報告数0.71人が最多値であった。

年齢階級別では、1歳の報告数が最も多く全体の45.1%、次いで2歳が22.5%、12ヶ月未満が14.6%と続いた。

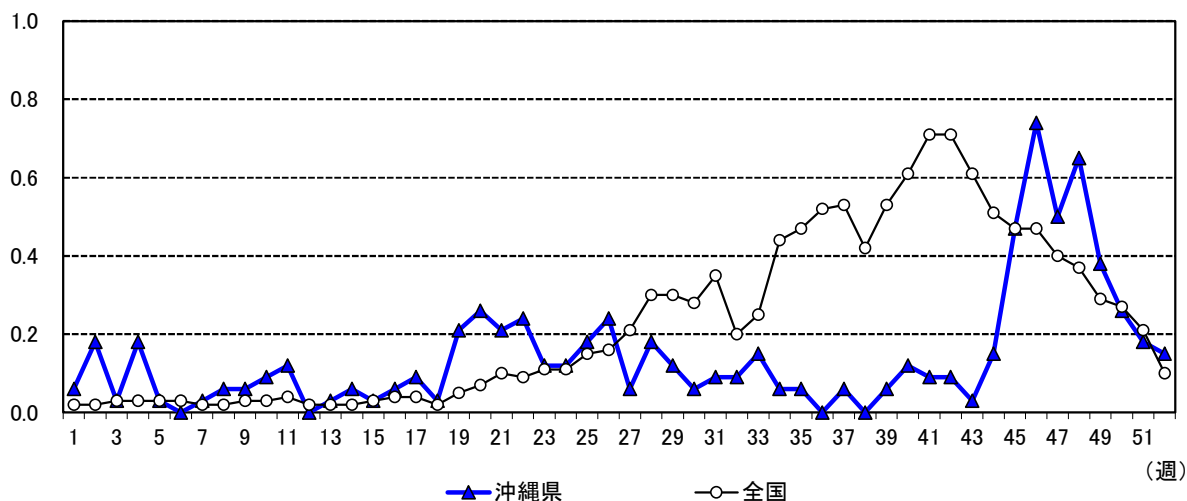


年別の報告数合計：ヘルパンギーナ

平均報告数	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
406	416	368	513	480	253

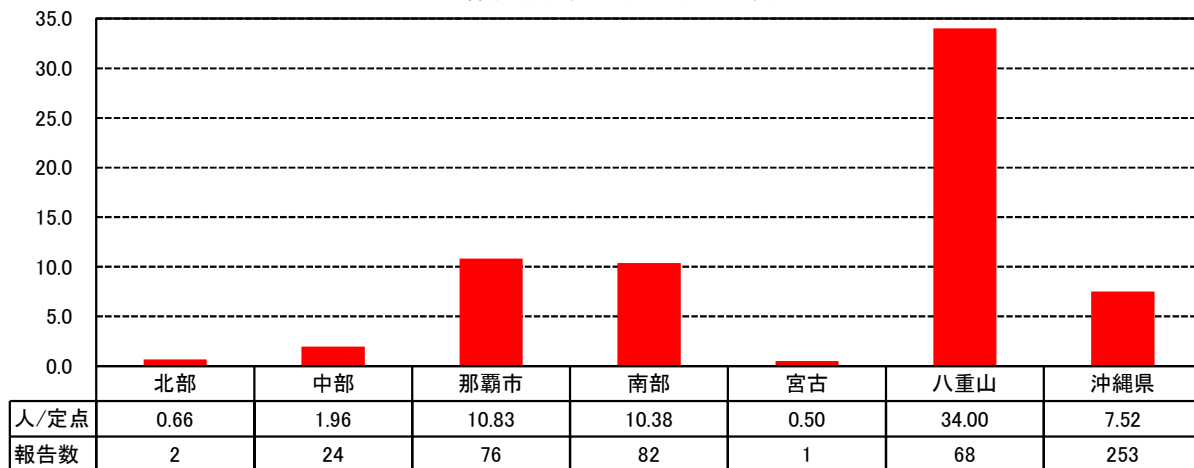
(人/定点)

ヘルパンギーナ 定点当たり報告数(2021年)

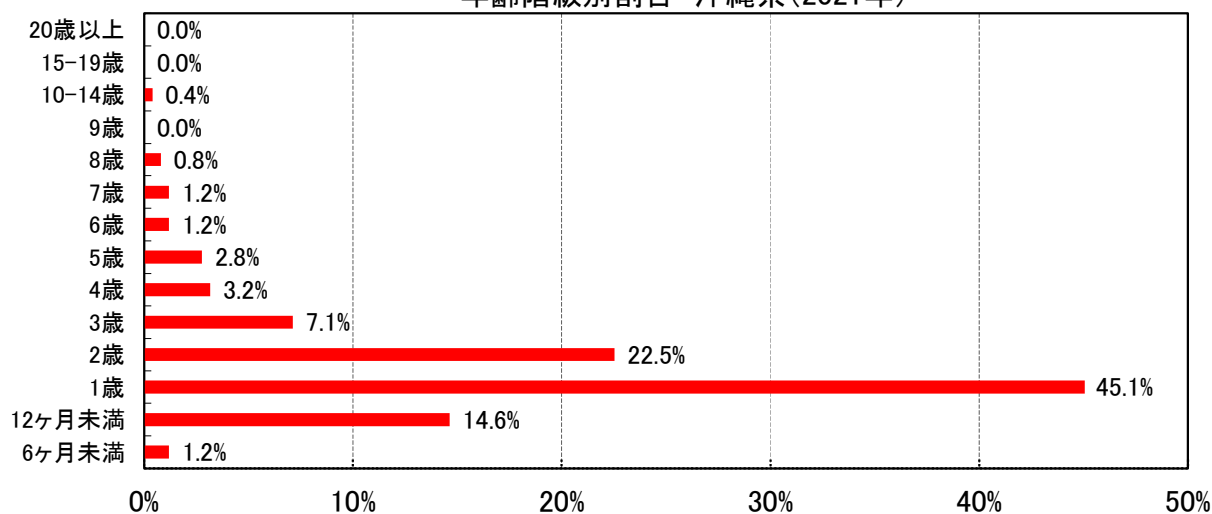


(人/定点)

保健所別発生状況(2021年)



年齢階級別割合 沖縄県(2021年)

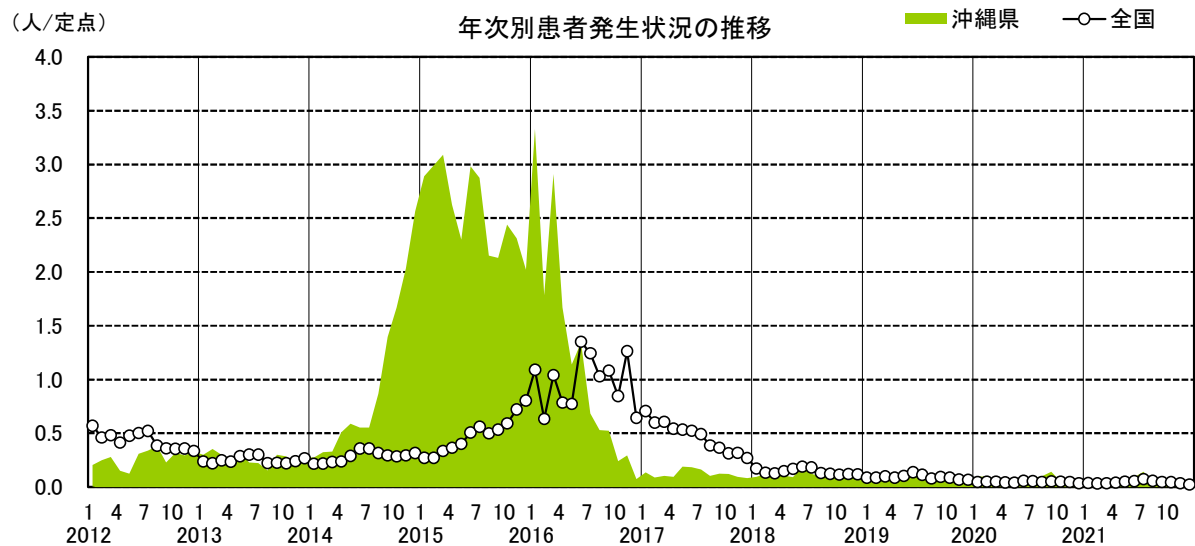
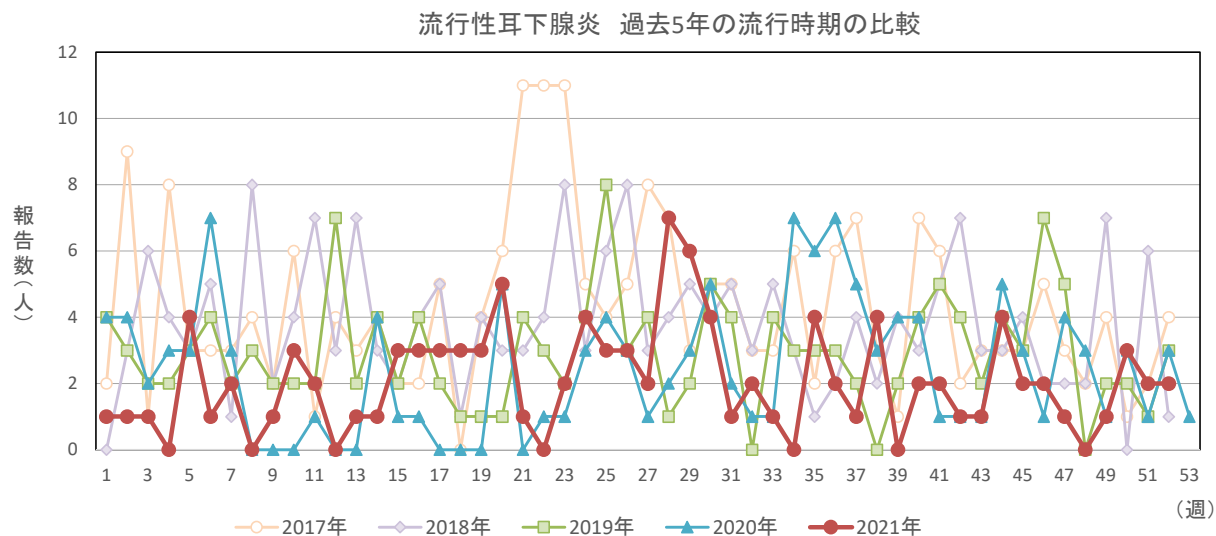


●流行性耳下腺炎

2021年、沖縄県内の報告数は108人、定点当たり報告数は3.24人であった。2015年以降は減少傾向にあり、2021年は過去10年で最も少ない報告数だった。

2021年は沖縄県、全国ともに、注意報レベルの基準値3を上回る週はなく、沖縄県では第28週の定点当たり報告数0.21人が、全国では第27週と第28週の定点当たり報告数0.08人が最多値であった。

年齢別では、10歳未満が多く、全体の88.0%を占めていた。また、20歳以上は全体の0.9%であった。

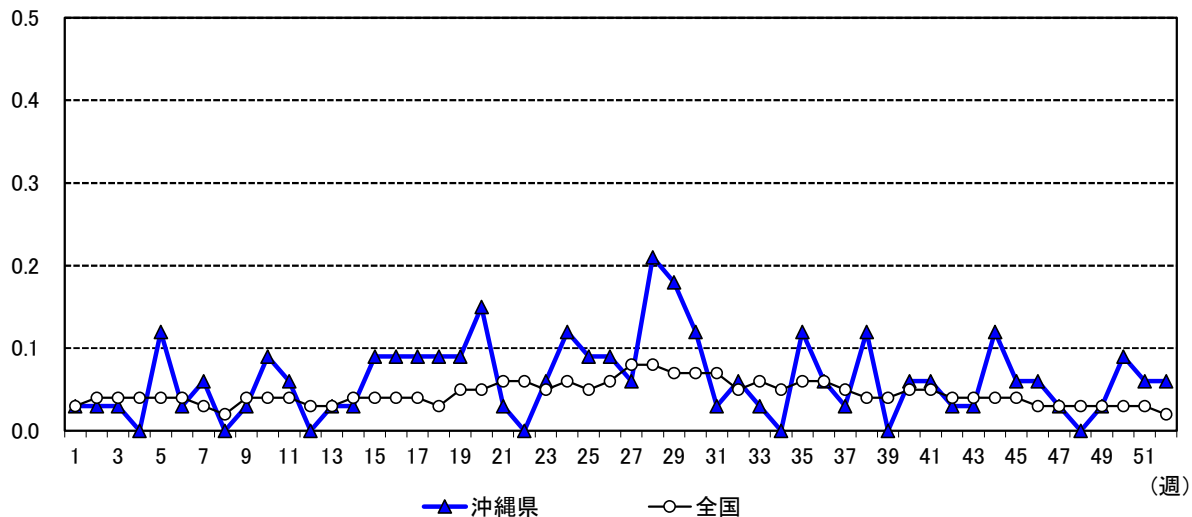


年別の報告数合計：流行性耳下腺炎

平均報告数	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
162	223	197	152	129	108

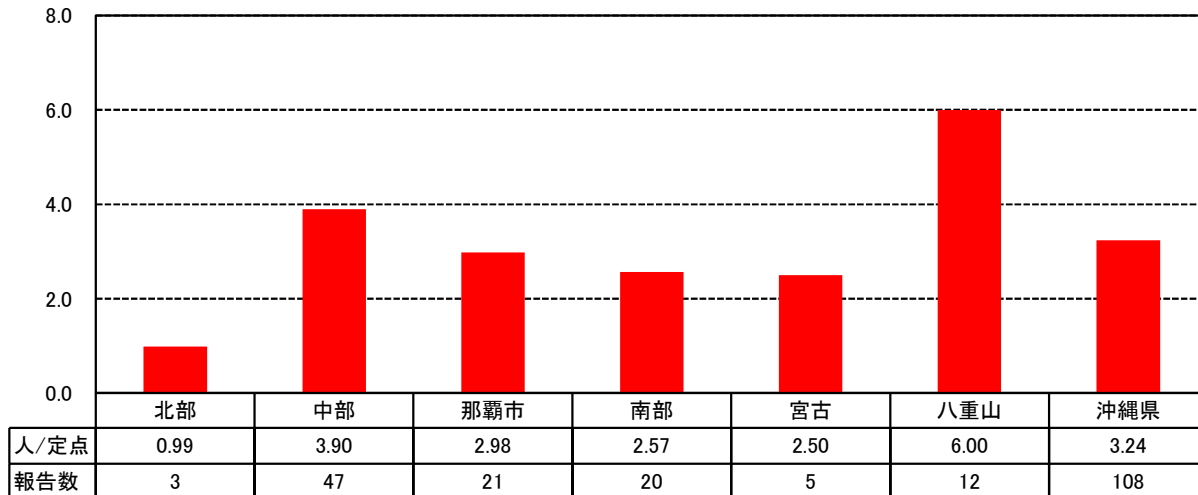
(人/定点)

流行性耳下腺炎 定点当たり報告数(2021年)

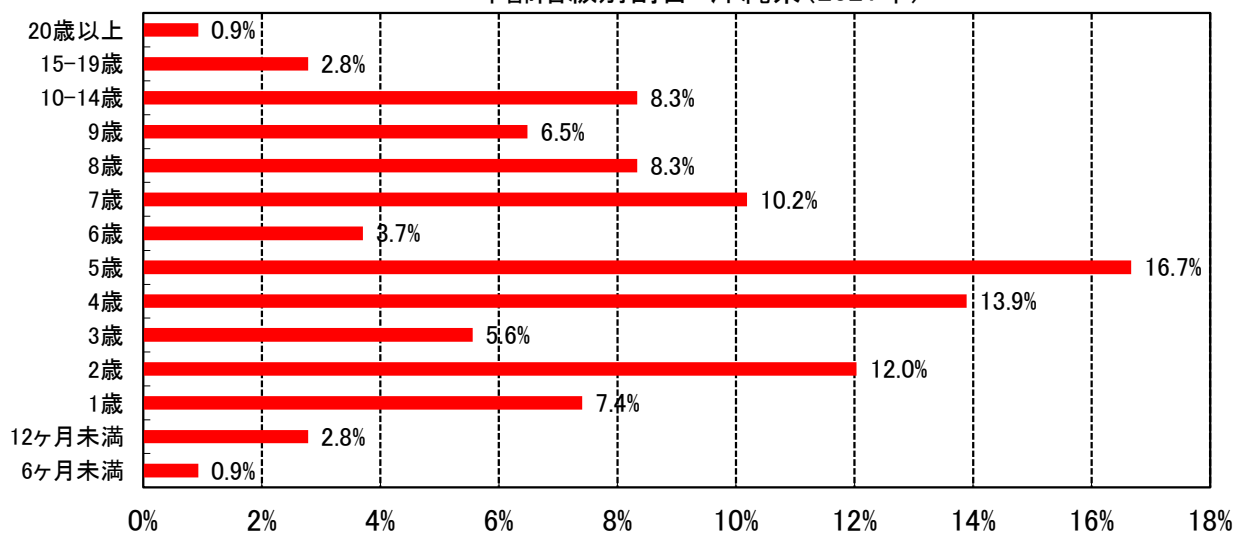


(人/定点)

保健所別発生状況(2021年)



年齢階級別割合 沖縄県(2021年)

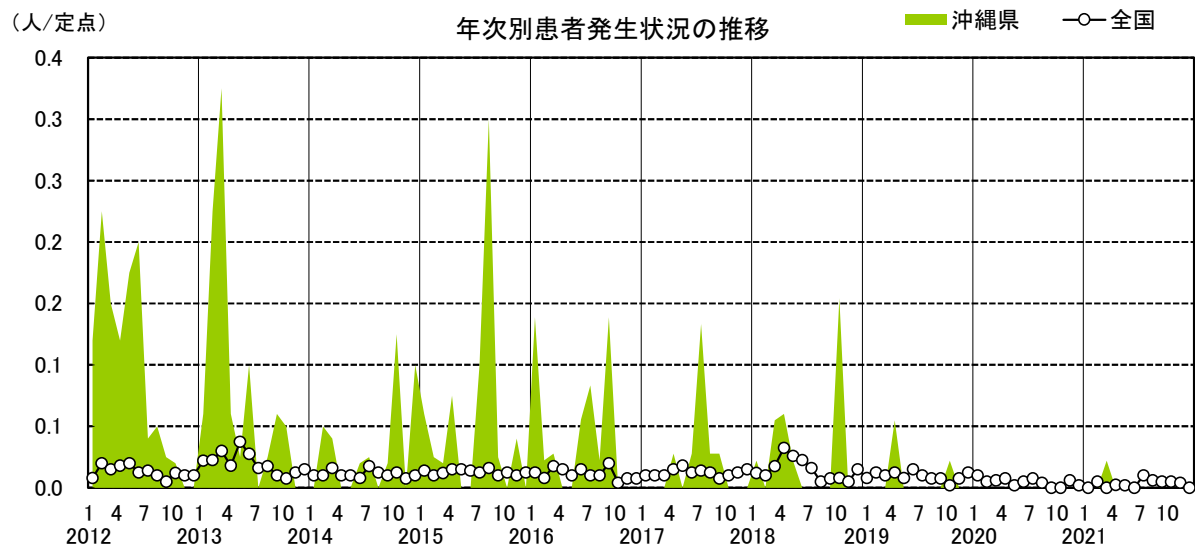
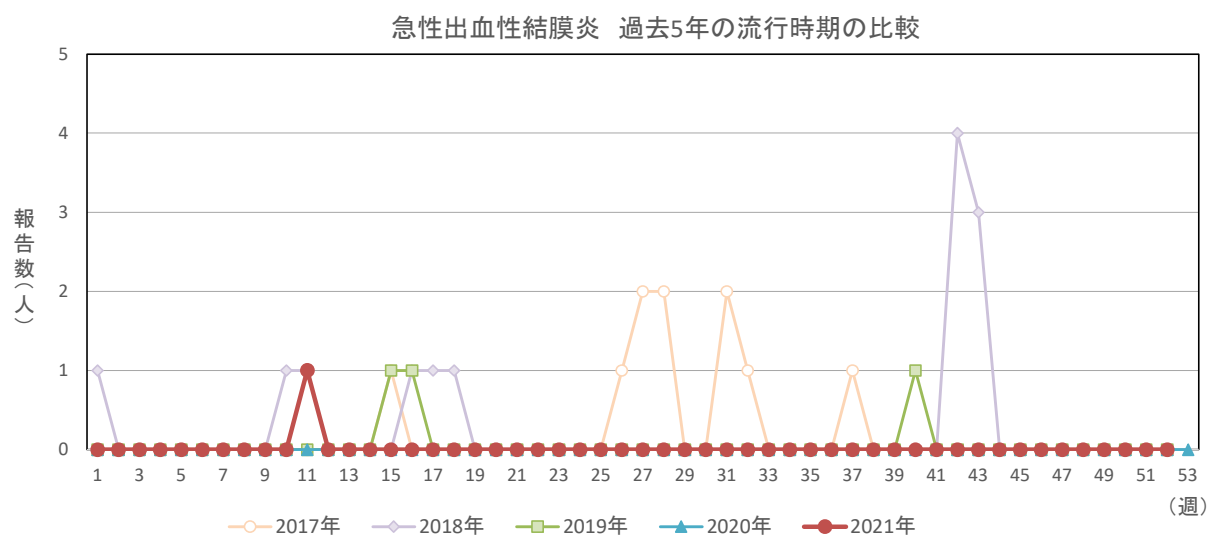


(2) 眼科定点

●急性出血性結膜炎

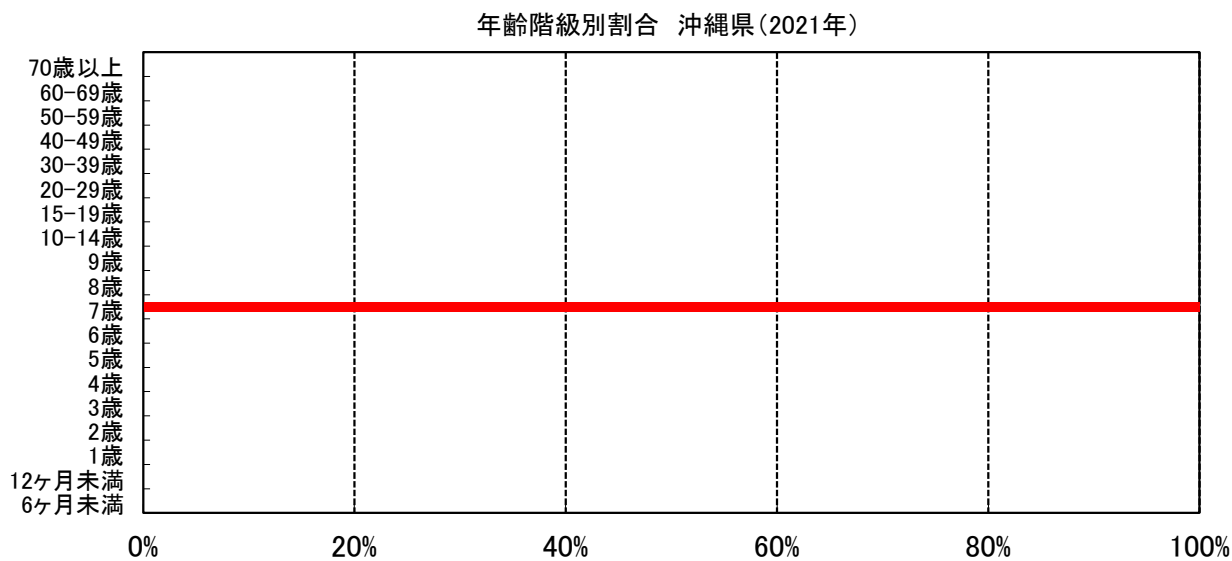
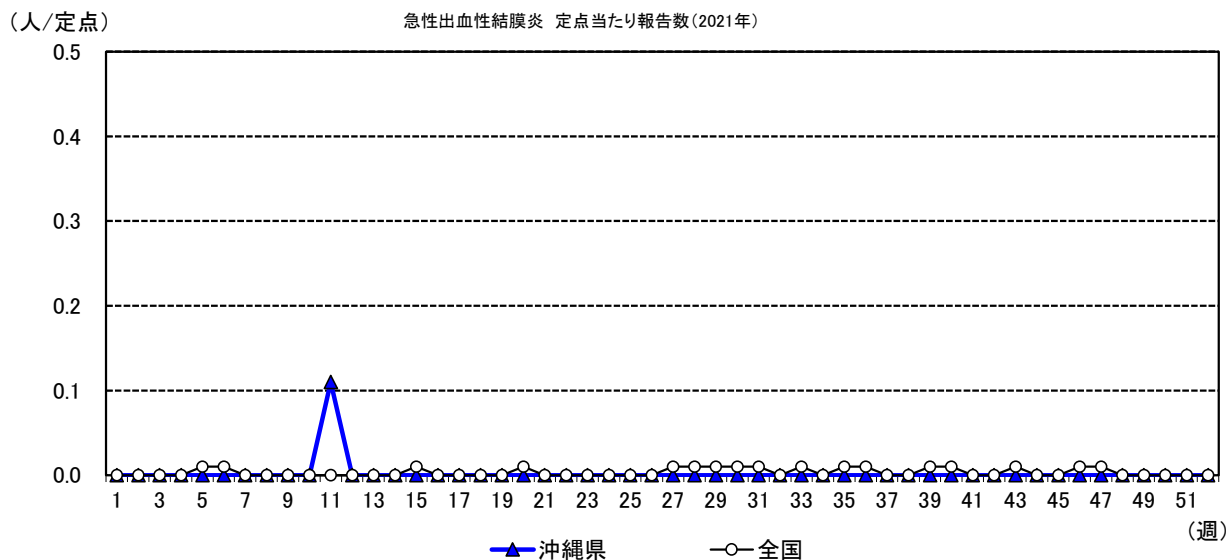
2021年、沖縄県内の報告数は1人、定点当たり報告数は0.11人であり、2020年よりも増加した。

2021年は沖縄県、全国ともに、警報レベルの開始基準値1を上回る週はなく、沖縄県では第11週の定点当たり報告数0.11人が、全国では複数の週での定点当たり報告数0.01人が最多値であった。



年別の報告数合計：急性出血性結膜炎

平均報告数	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
5	10	13	3	0	1



2021年、沖縄県内の報告数は237人、定点当たり報告数は26.28人であり、2020年よりも増加した。

年齢階級別では、30代が21.5%で最も多く、次いで10歳未満が20.4%、20代が15.2%と続いた。

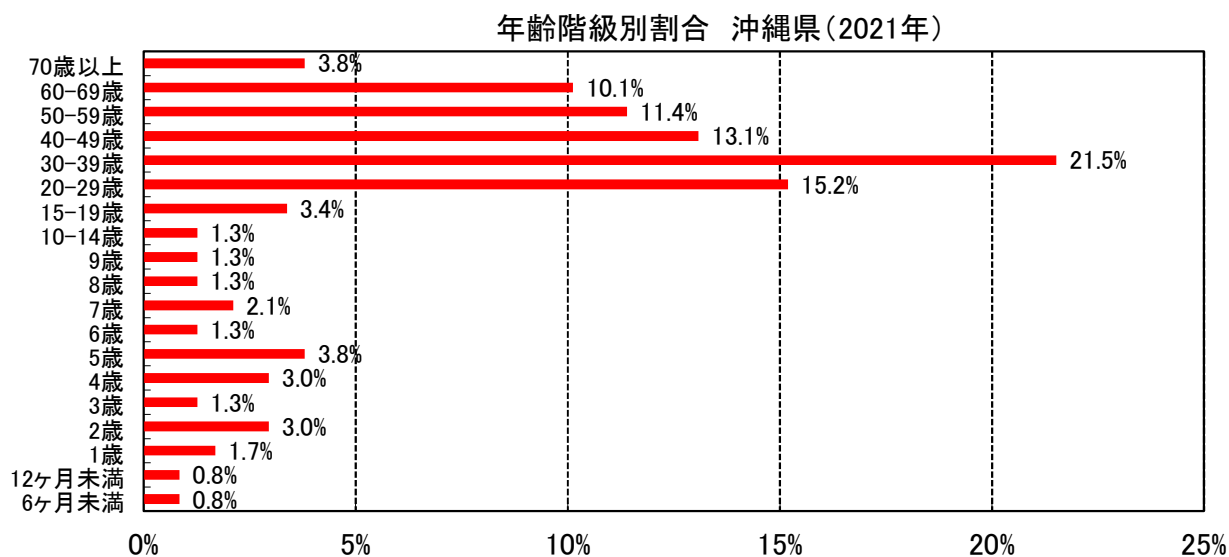
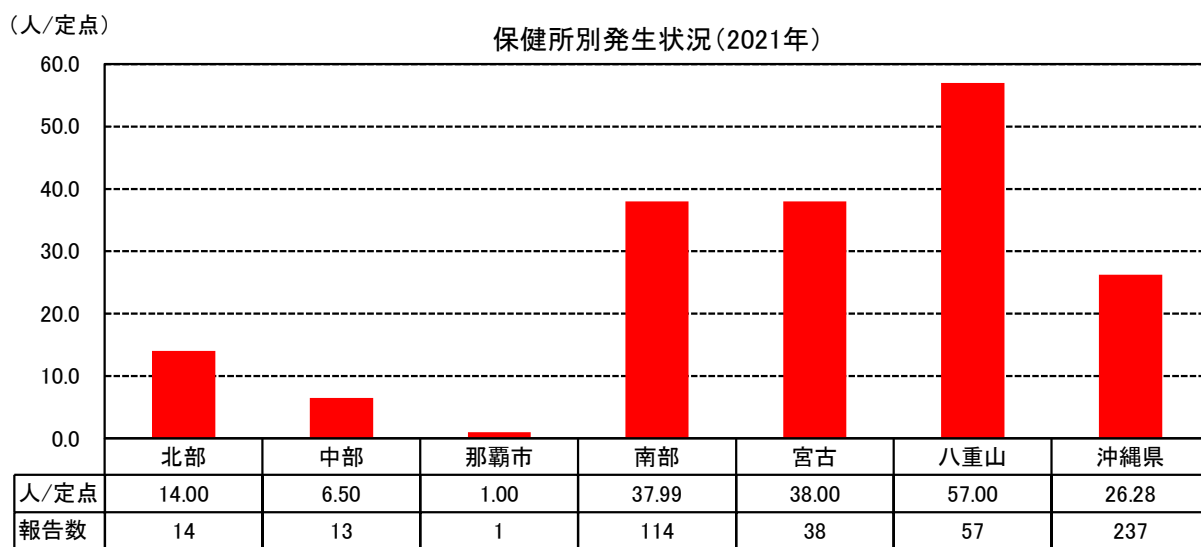
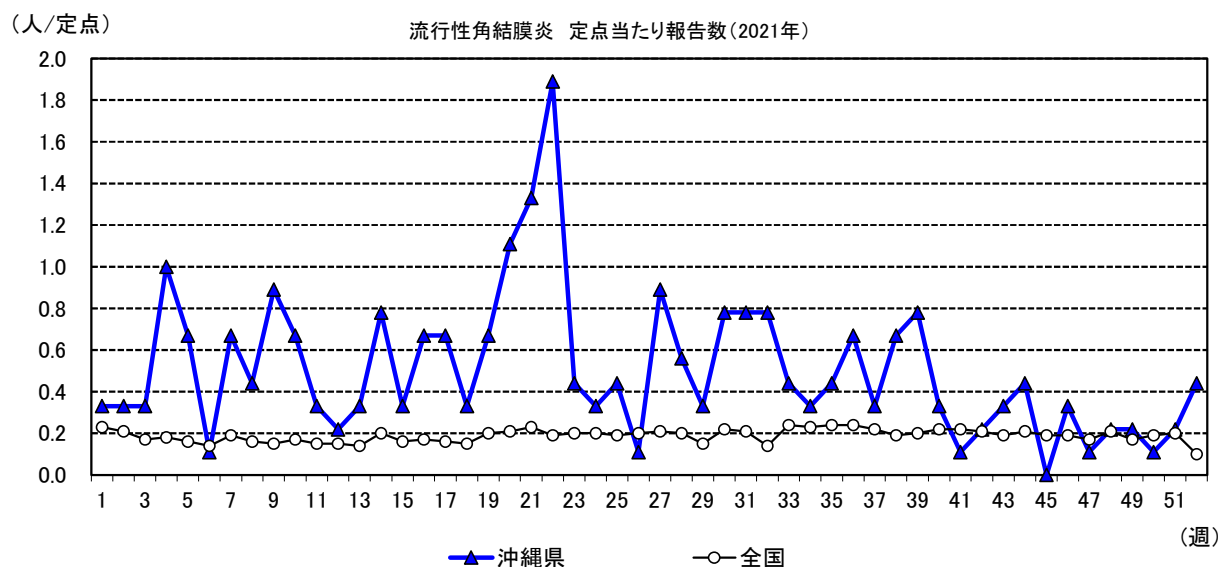
報告数(人)

1 3 5 7 9 11 13 15 17 19 21 23 25 27 29 31 33 35 37 39 41 43 45 47 49 51 53

○ 2017年 ◆ 2018年 ■ 2019年 ▲ 2020年 ● 2021年

(週)

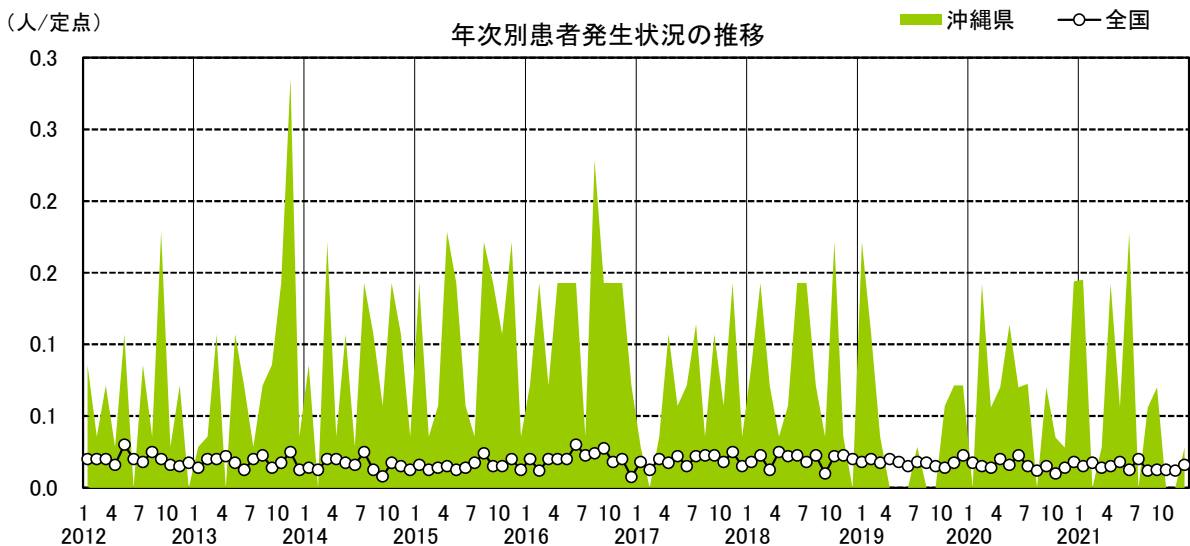
平均報告数	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
641	1,019	1,024	720	206	237



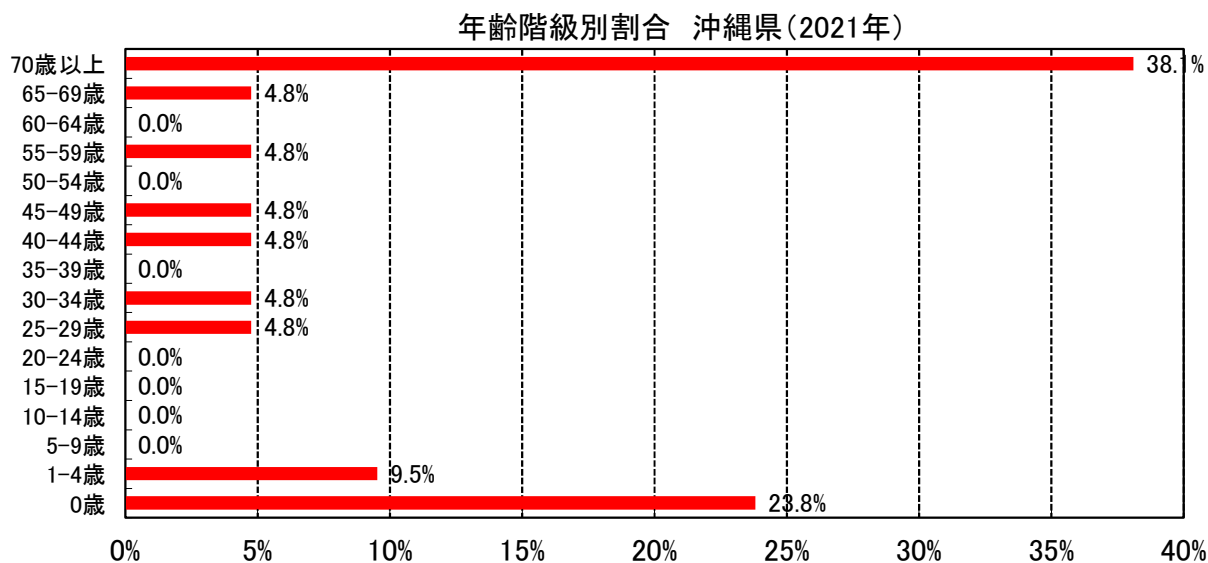
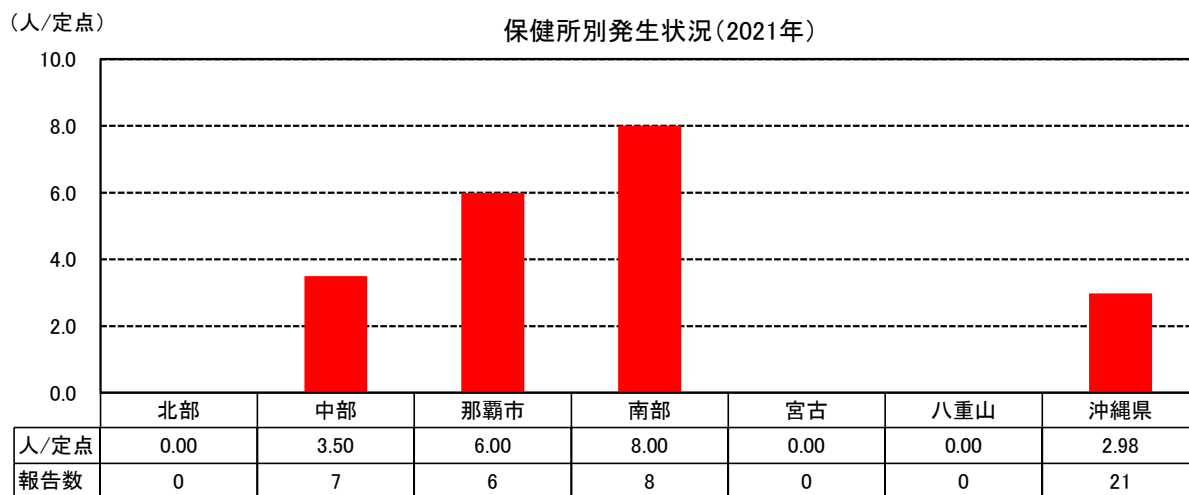
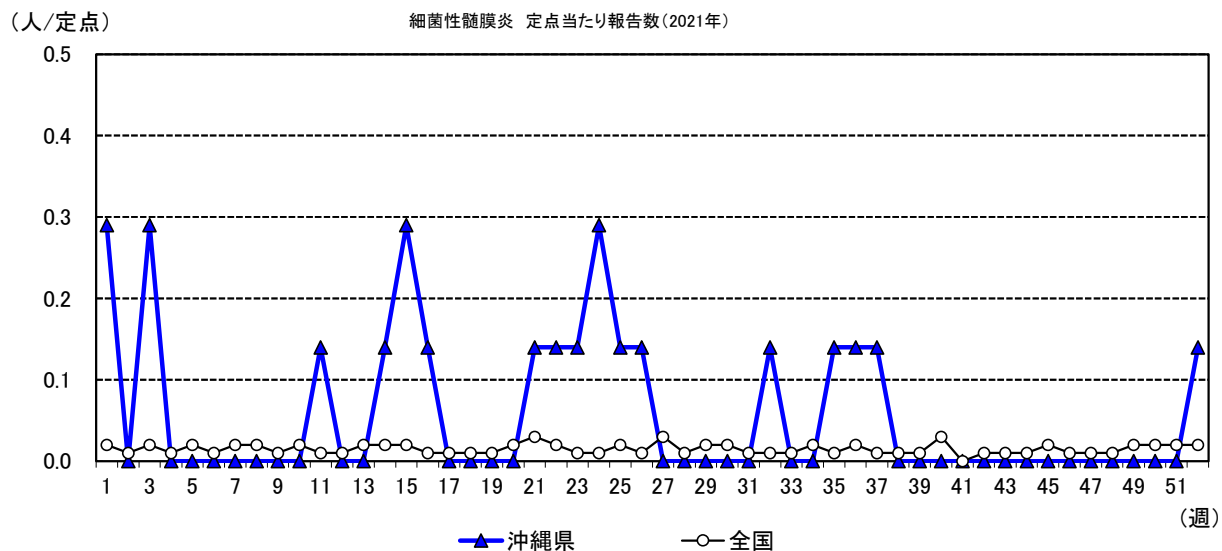
●細菌性髓膜炎

2021年は沖縄県では複数の週での定点当たり報告数0.29人が、全国では複数の週での定点当たり報告数0.03人が最多値であった。

10



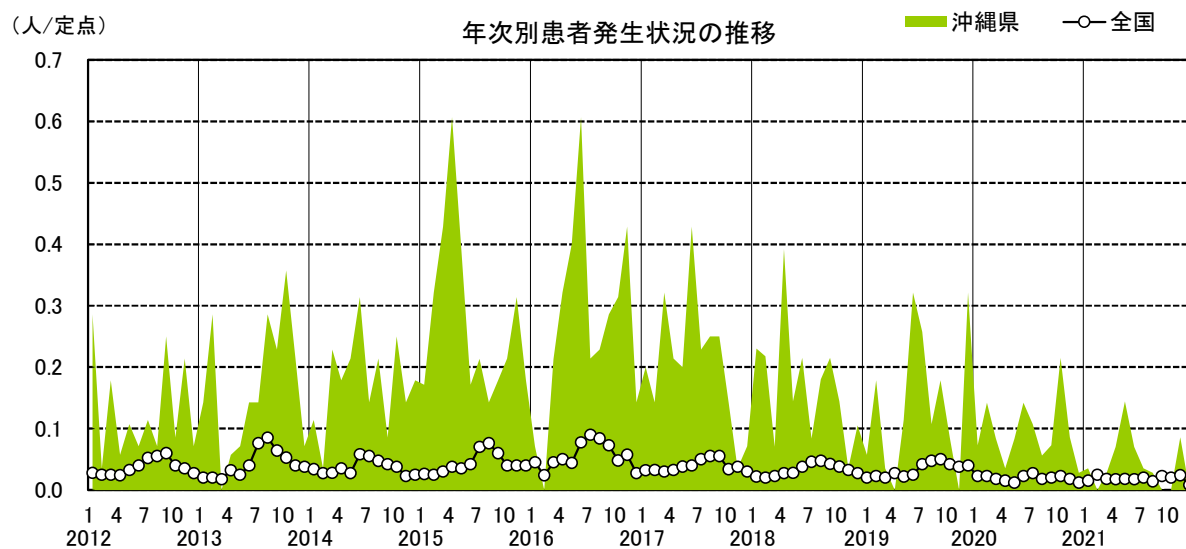
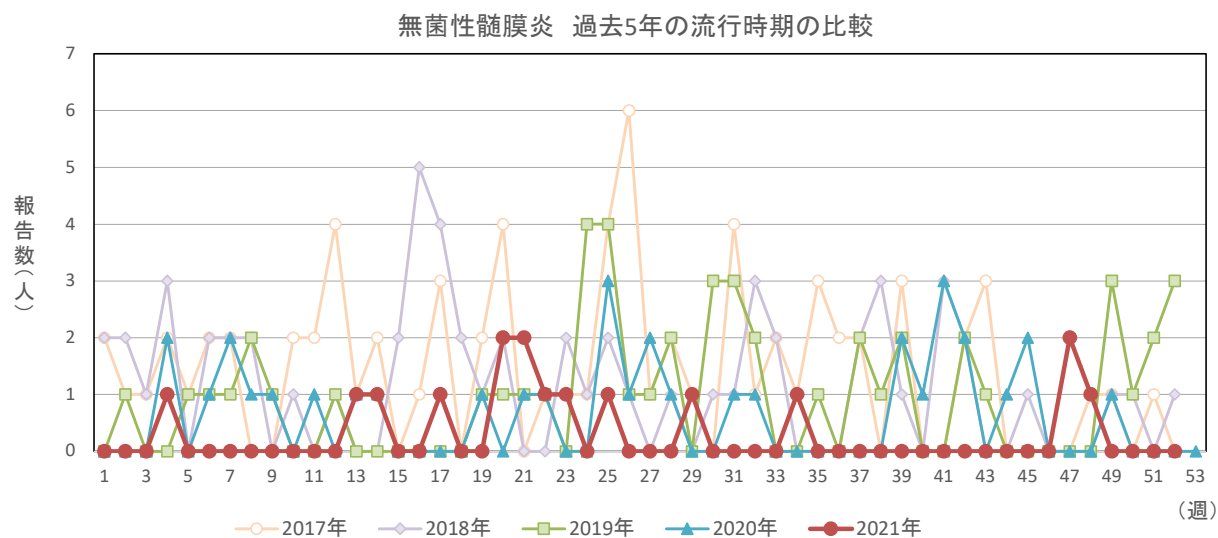
平均報告数	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
24	24	31	17	25	21



2021年、沖縄県内の報告数は16人、定点当たり報告数は2.27人であり、過去5年で最も少ない報告数だった。

2021年は沖縄県では複数の週での定点当たり報告数0.29人が、全国では複数の週での定点当たり報告数0.03人が最多値であった。

年齢階級別の患者報告数では、70歳以上が最も多く全体の18.8%を占めた。

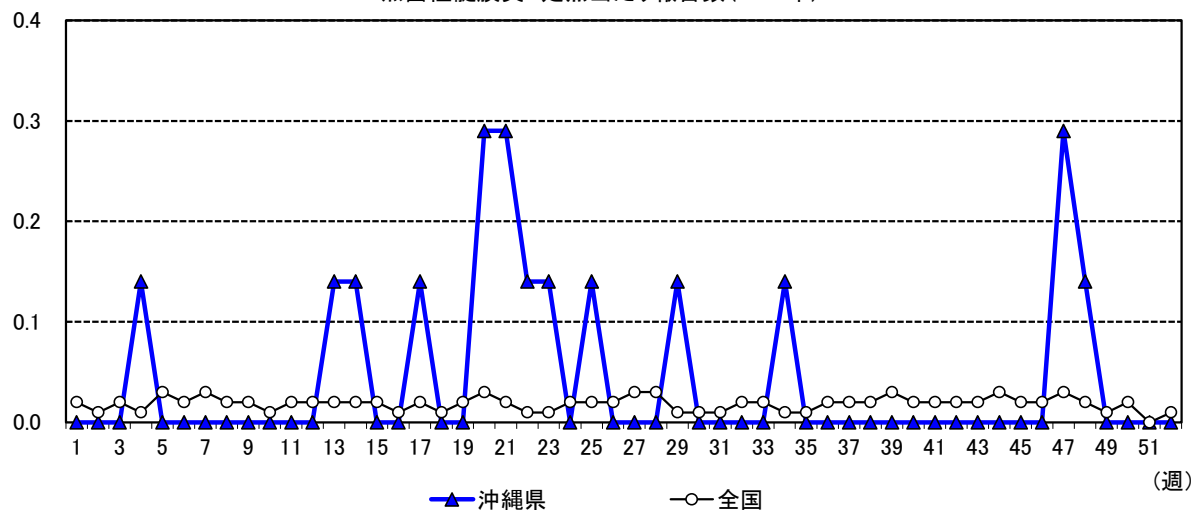


年別の報告数合計：無菌性髄膜炎

平均報告数	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
47	75	61	50	34	16

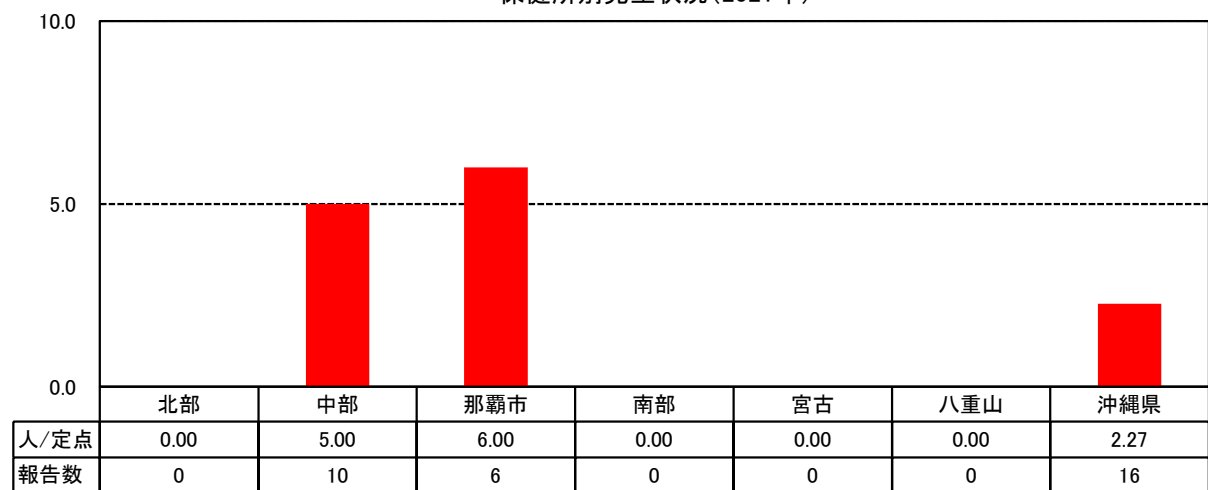
(人/定点)

無菌性髄膜炎 定点当たり報告数(2021年)

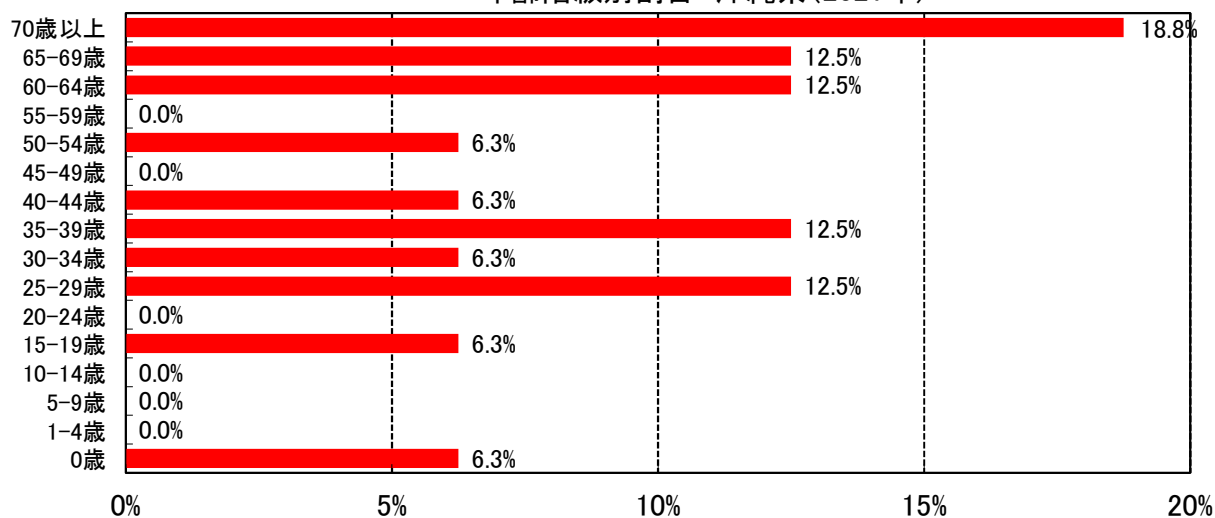


(人/定点)

保健所別発生状況(2021年)



年齢階級別割合 沖縄県(2021年)



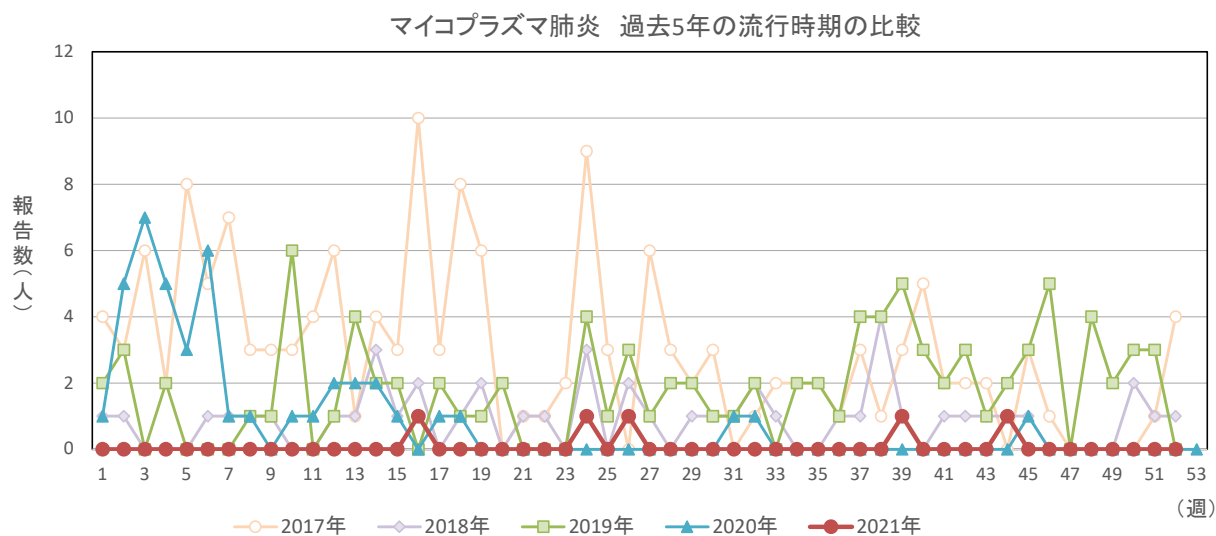
●マイコプラズマ肺炎

2021年、沖縄県内の報告数は5人、定点当たり報告数は0.70人であり、過去5年間で最も少ない報告数だった。

2021年は沖縄県では複数の週での定点当たり報告数0.14人が、全国では複数の週での定点当たり報告数0.05人が最多値であった。

保健所別では那覇市保健所管内が4人、中部保健所管内が1人であり、それ以外の保健所からの報告はなかった。

年齢階級別では、10-14歳で2人、5-9歳、30-34歳、70歳以上でそれぞれ1人の報告があった。

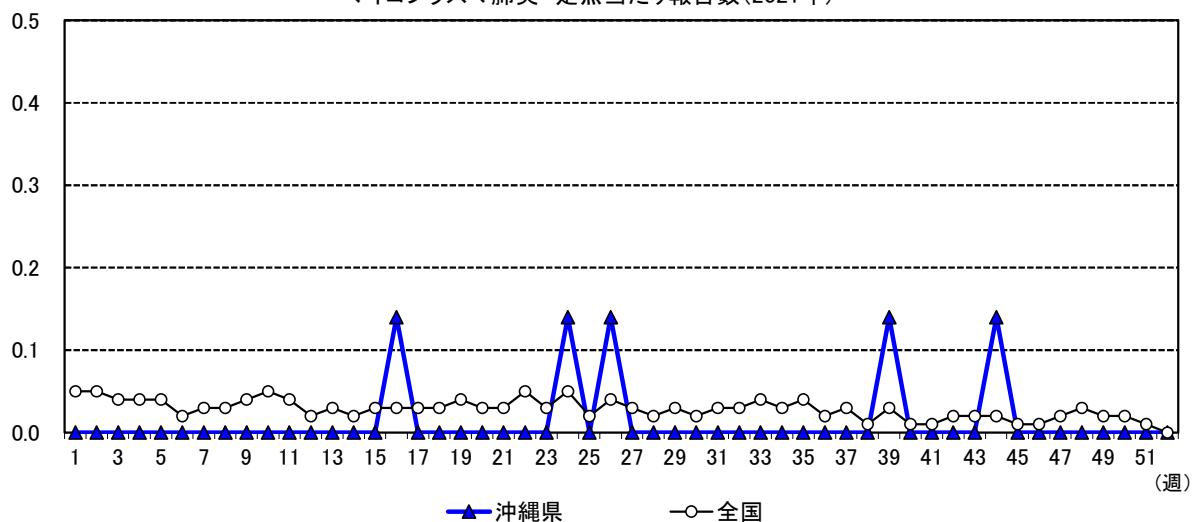


別の報告数合計：マイコプラズマ肺炎

平均報告数	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
69	154	47	96	43	5

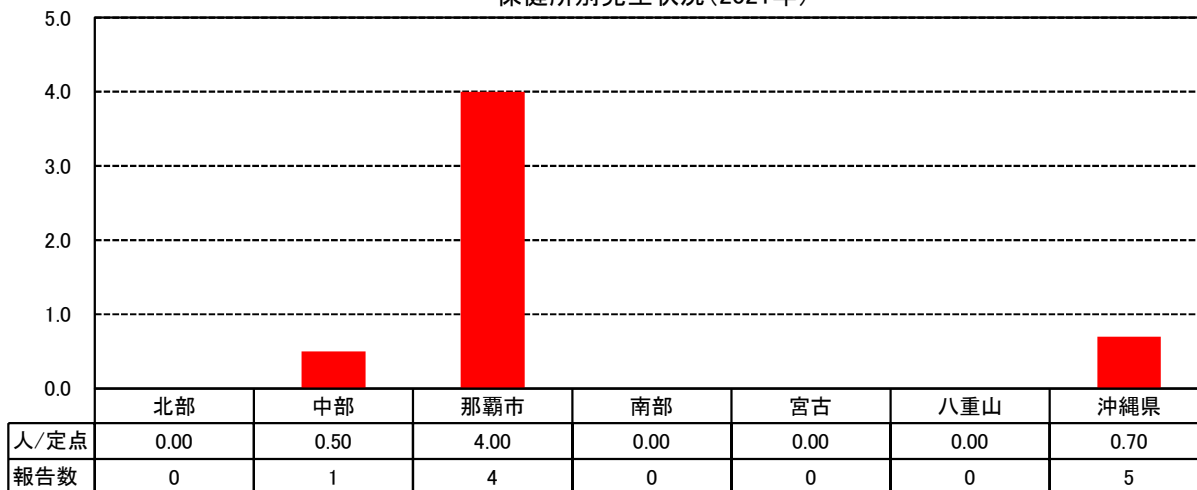
(人/定点)

マイコプラズマ肺炎 定点当たり報告数(2021年)

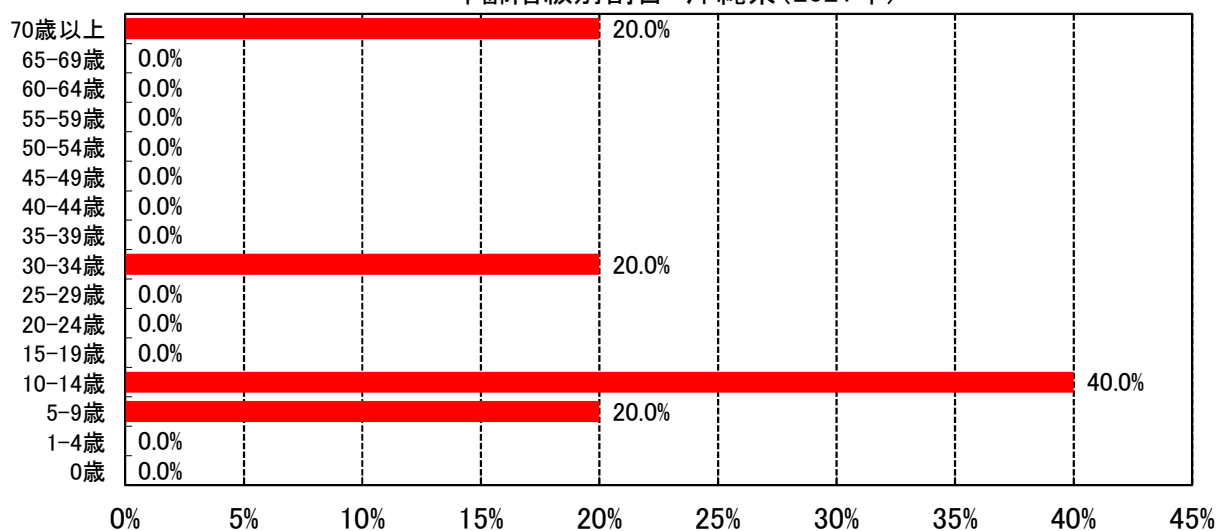


(人/定点)

保健所別発生状況(2021年)

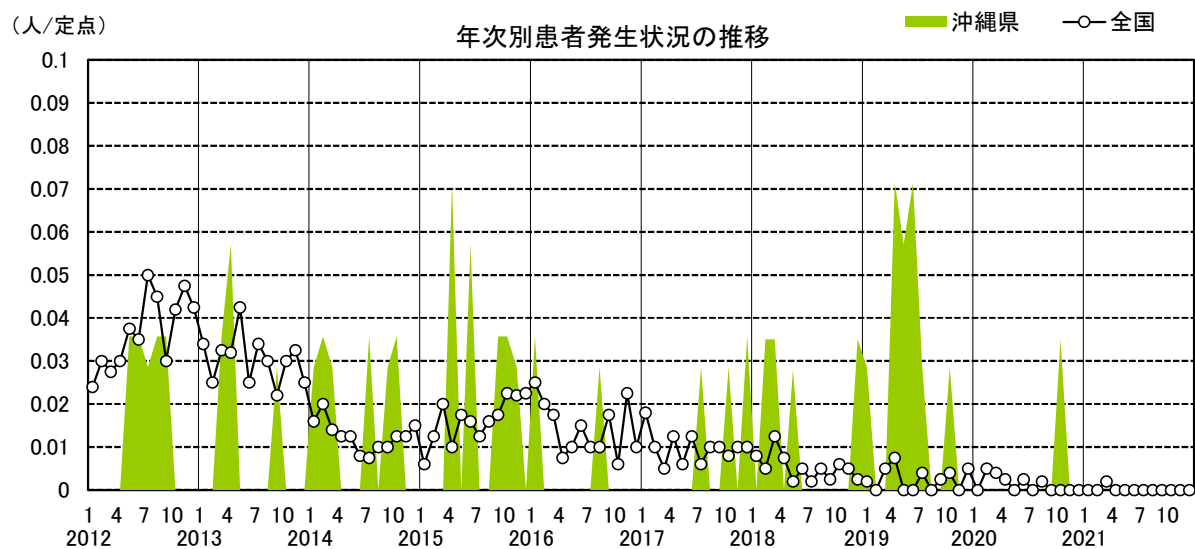
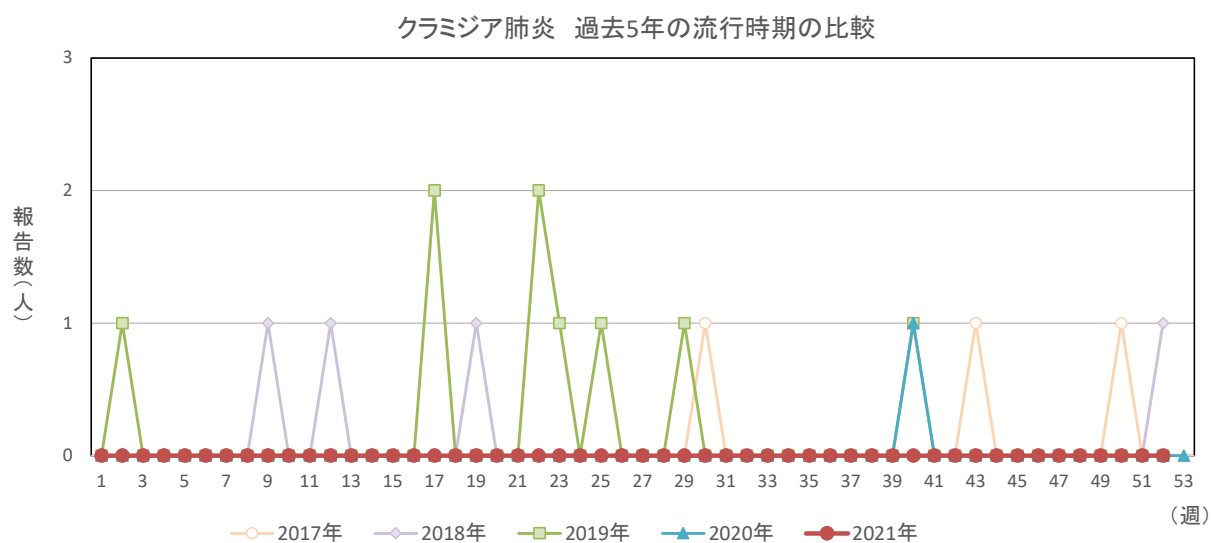


年齢階級別割合 沖縄県(2021年)



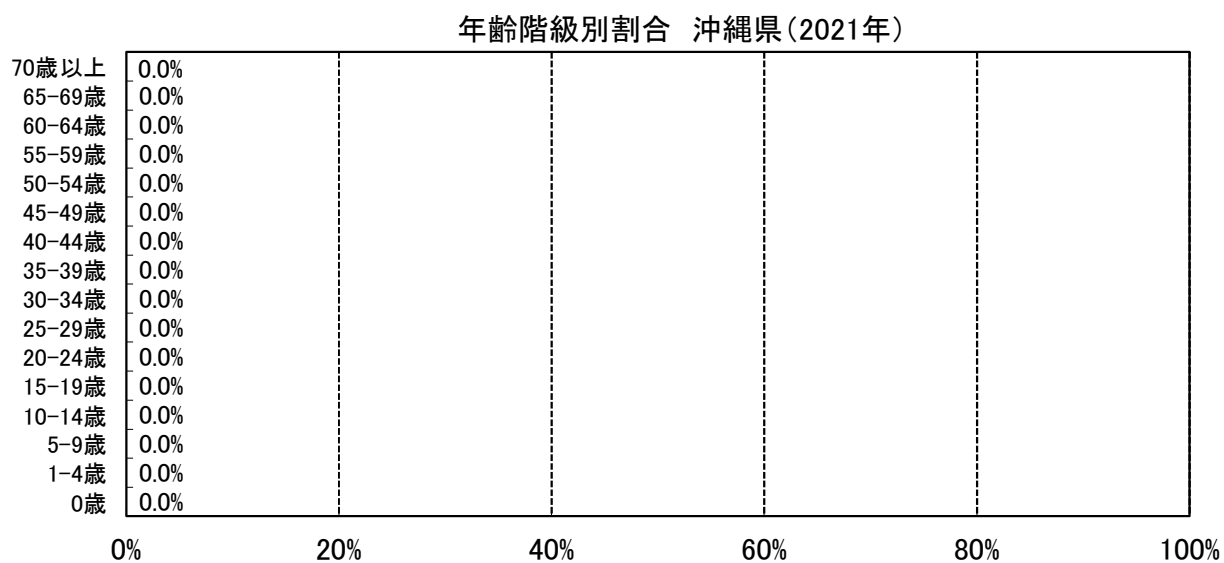
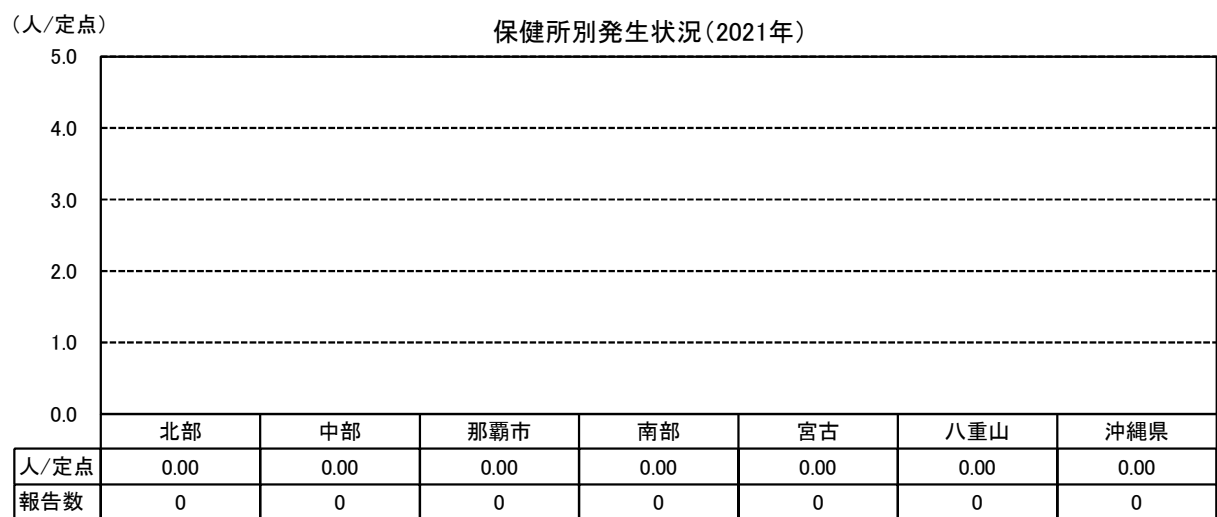
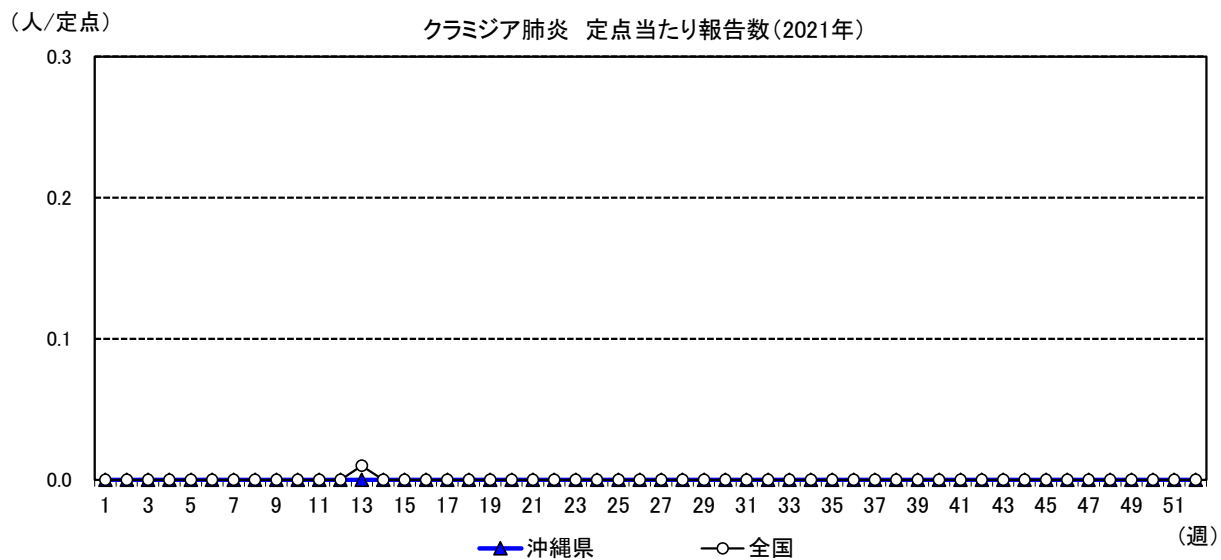
● クラミジア肺炎

2021年、沖縄県内の報告数は0人であり、過去5年で最も少ない報告数だった。また、全国での報告数は23人、定点当たり報告数は0.05人であり、過去5年で最も少ない報告数だった。



年別の報告数合計：クラミジア肺炎

平均報告数	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
3	3	4	9	1	0

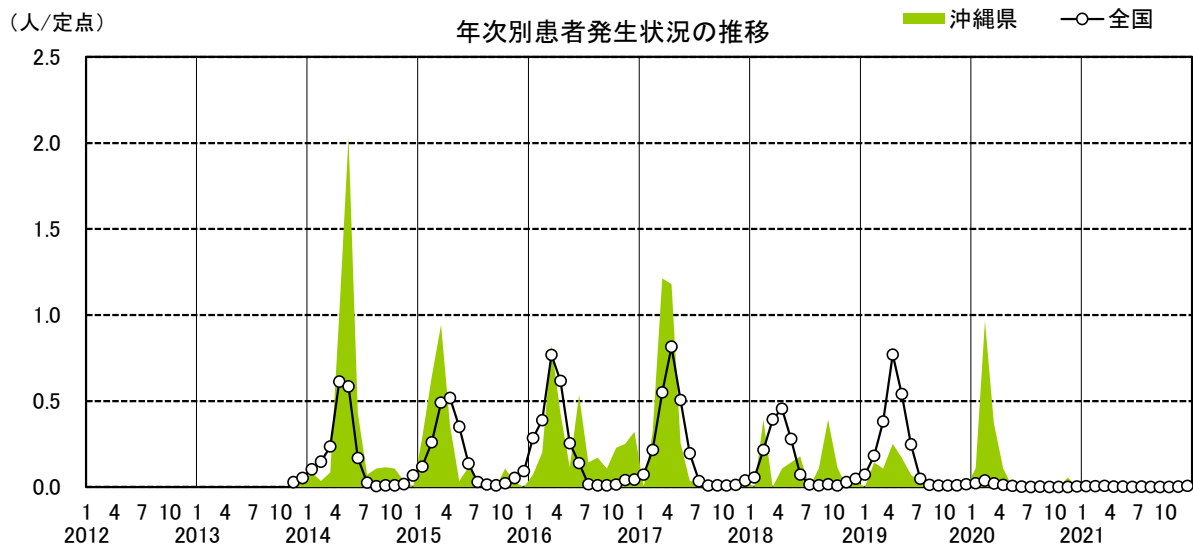
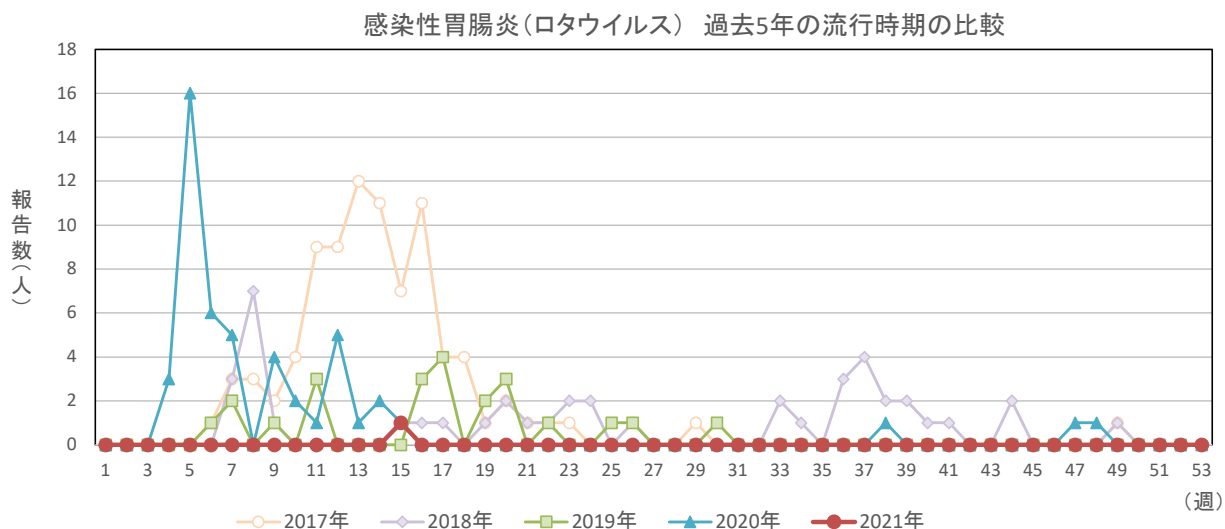


● 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

2021年、沖縄県内の報告数は1人、定点当たり報告数は0.14人であり、過去5年で最も少ない報告数だった。

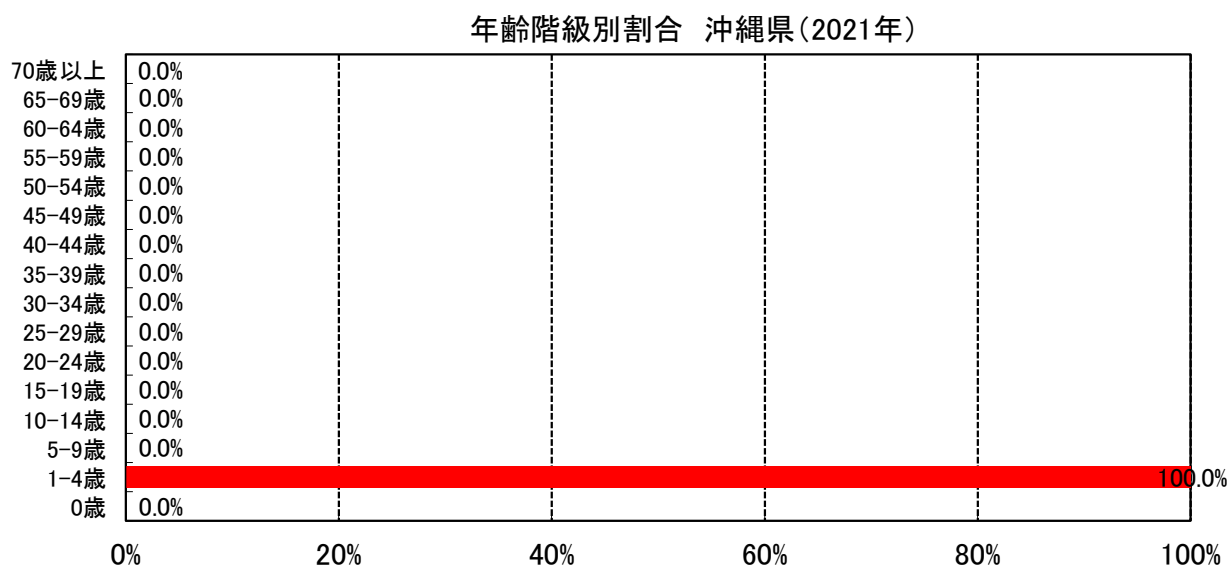
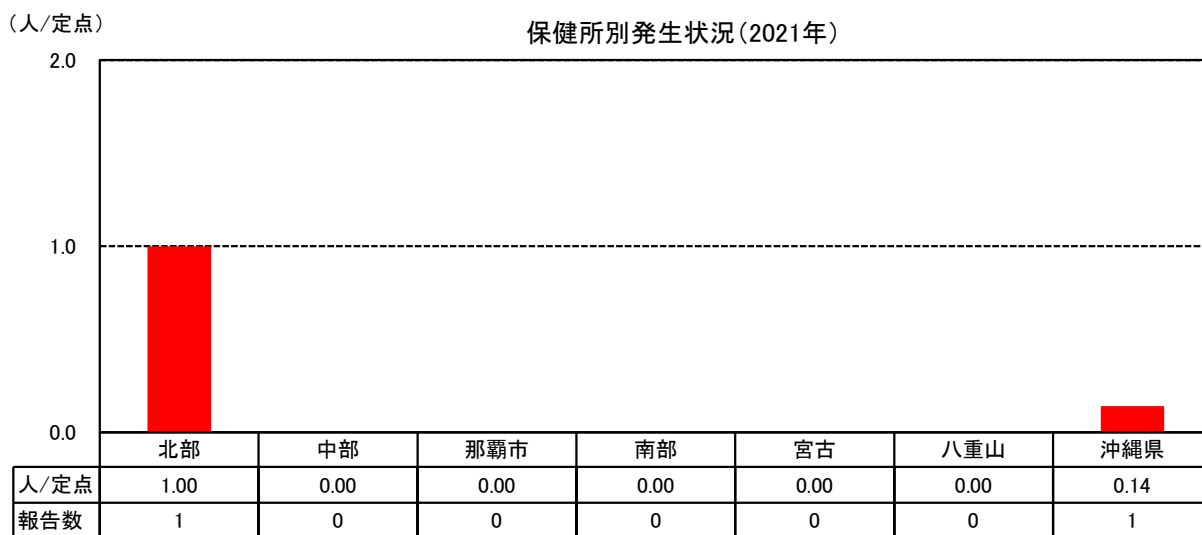
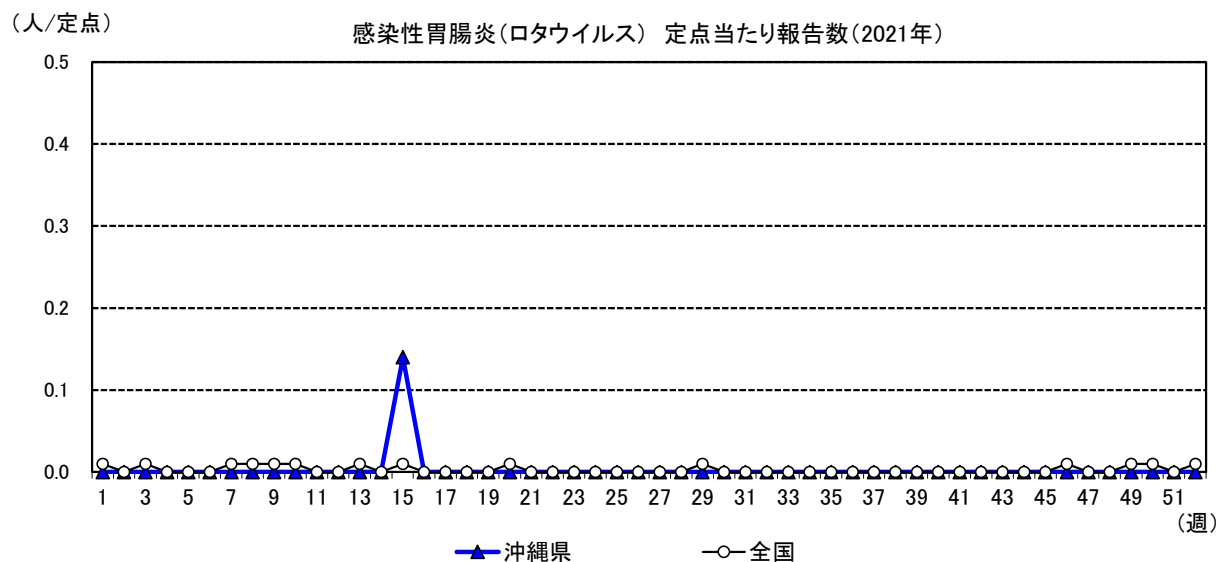
2021年は沖縄県では第15週の定点当たり報告数0.14人が、全国では複数の週での定点当たり報告数0.01人が最多値であった。

報告例は北部保健所管内の1-4歳であった。



年別の報告数合計：感染性胃腸炎（ロタウイルス）

平均報告数	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
41	88	43	23	49	1



MEMO

2 月報

(1) 性感染症 (STD) 定点

(※宮古・八重山は人口規模が小さいため、性感染症の定点医療機関は設置されていない。)

●性器クラミジア感染症

2021 年の沖縄県の報告数は 409 人（男性 43 人、女性 366 人）だった。定点当たり報告数は 34.10 人で 2020 年（24.68 人）に比べかなり増加し、全国（2021 年：30.52 人）に比べやや高い水準にあった。定点当たり報告数を性別で見ると男性は 3.58 人で 2020 年（2.69 人）に比べかなり増加し、全国（2021 年：15.73 人）に比べ大幅に低い水準にあった。女性は 30.50 人で 2020 年（21.95 人）に比べかなり増加し、全国（2021 年：14.80 人）に比べ大幅に高い水準にあった。

性別年代別で見ると男性は 20 代が最も多く、女性も 20 代が最も多かった。

●性器ヘルペスウイルス感染症

2021 年の沖縄県の報告数は 69 人（男性 2 人、女性 67 人）だった。定点当たり報告数は 5.77 人で 2020 年（10.20 人）に比べかなり減少し、全国（2021 年：9.14 人）に比べかなり低い水準にあった。定点当たり報告数を性別で見ると男性は 0.16 人で 2020 年（0.92 人）に比べ大幅に減少し、全国（2021 年：3.45 人）に比べ大幅に低い水準にあった。女性は 5.59 人で 2020 年（9.28 人）に比べかなり減少し、全国（2021 年：5.69 人）とほぼ同様の水準にあった。

性別年代別で見ると男性は 30 代と 40 代で各 1 件の報告があり、女性は 20 代と 30 代が各 24 件と女性の報告の中で最も多かった。

●尖圭コンジローマ感染症

2021 年の沖縄県の報告数は 42 人（男性 9 人、女性 33 人）だった。定点当たり報告数は 3.49 人で 2020 年（4.50 人）に比べやや減少し、全国（2021 年：5.70 人）に比べかなり低い水準にあった。定点当たり報告数を性別で見ると男性は 0.74 人で 2020 年（1.26 人）に比べかなり減少し、全国（2021 年：3.58 人）に比べ大幅に低い水準にあった。女性は 2.74 人で 2020 年（3.21 人）に比べやや減少し、全国（2021 年：2.11 人）に比べかなり高い水準にあった。

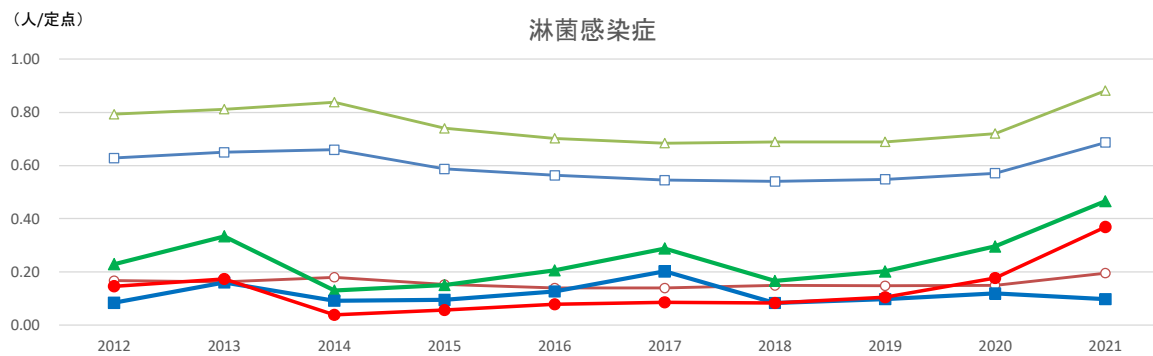
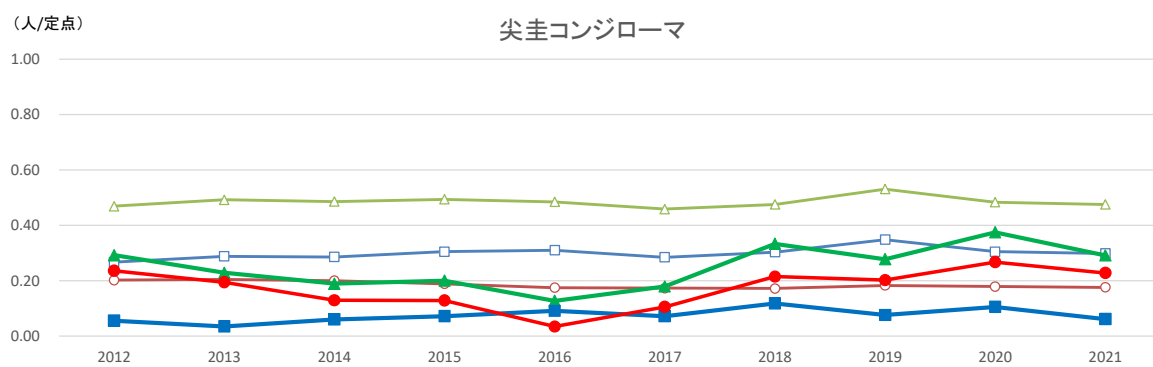
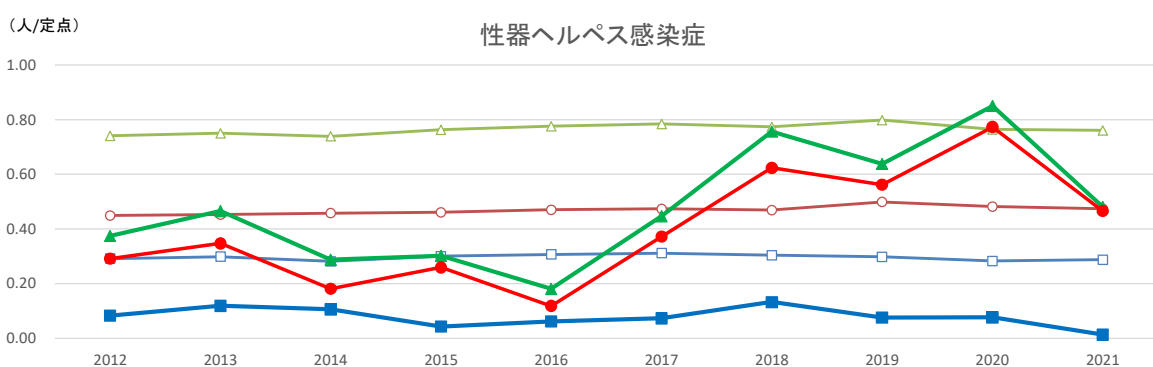
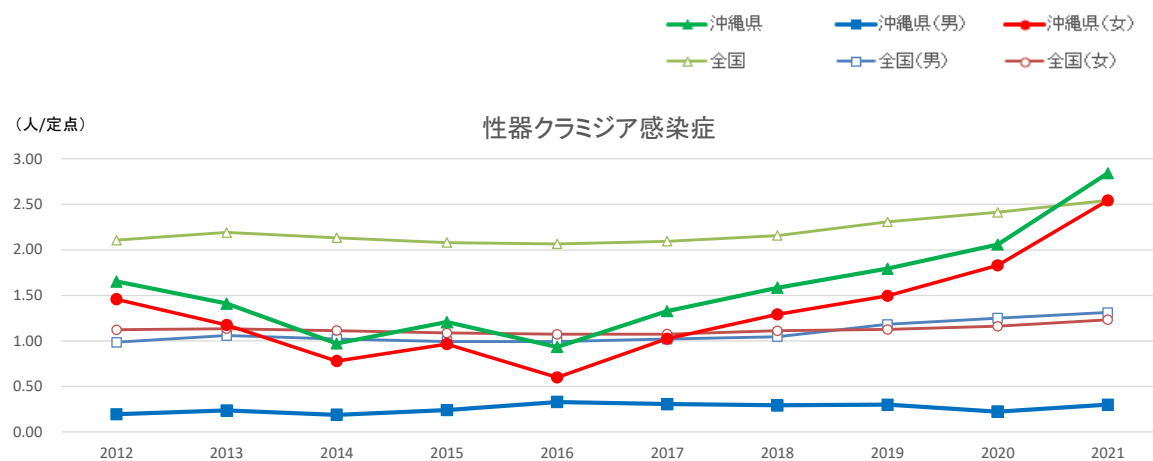
性別年齢別で見ると男性は 20 代が最も多く、女性も 20 代が最も多かった。

●淋菌感染症

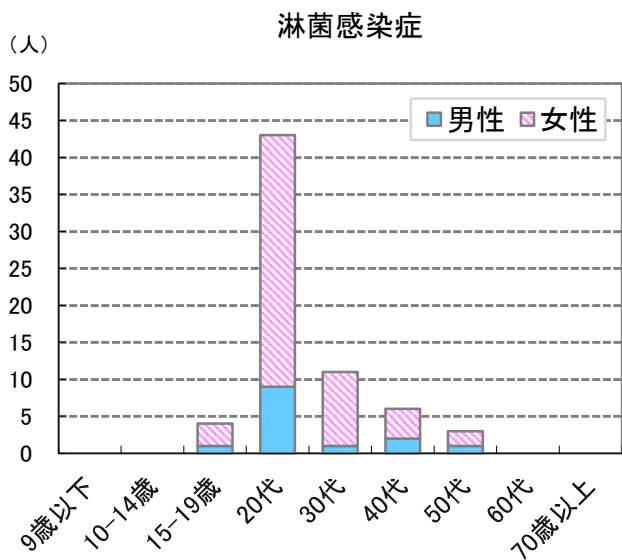
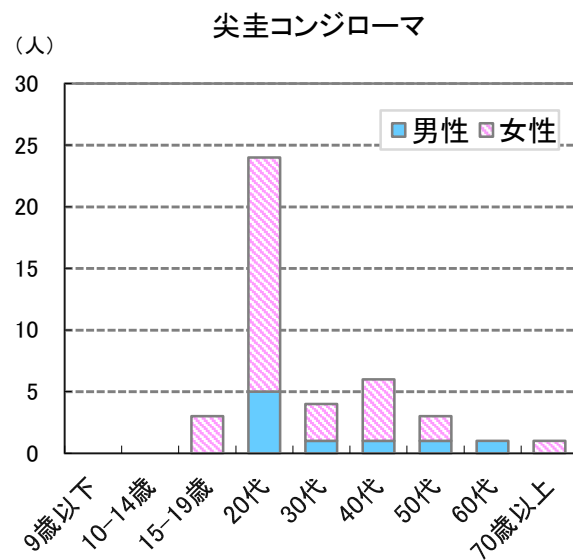
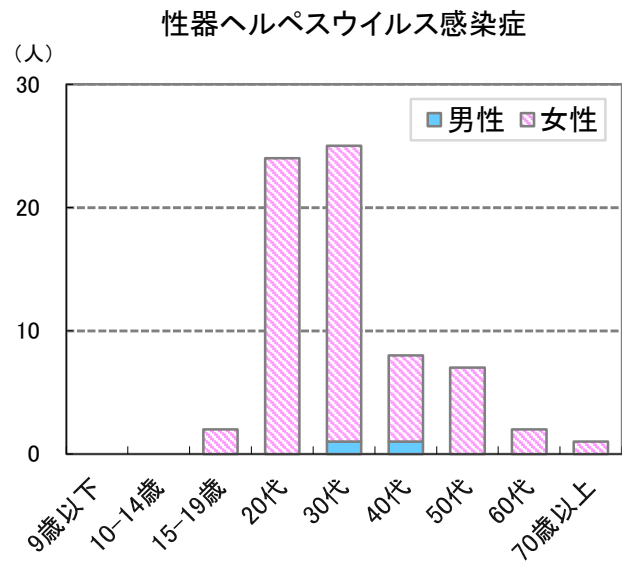
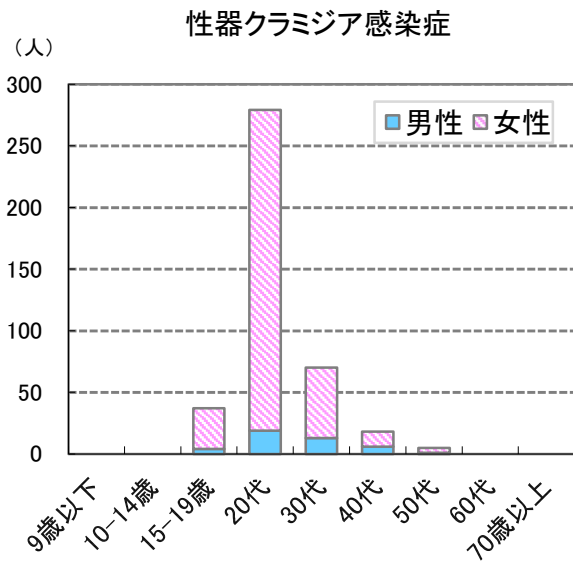
2021 年の沖縄県の報告数は 67 人（男性 14 人、女性 53 人）だった。定点当たり報告数は 5.59 人で 2020 年（3.54 人）に比べ大幅に増加し、全国（2021 年：10.58 人）に比べかなり低い水準にあった。定点当たり報告数を性別で見ると男性は 1.16 人で 2020 年（1.42 人）に比べやや減少し、全国（2021 年：8.24 人）に比べ大幅に低い水準にあった。女性は 4.42 人で 2020 年（2.12 人）に比べ大幅に増加し、全国（2021 年：2.34 人）に比べ大幅に高い水準にあった。

性別年齢別で見ると男性は 20 代が最も多く、女性も 20 代が最も多かった。

ア. 疾患別定点当たり報告数（月平均）の年次推移



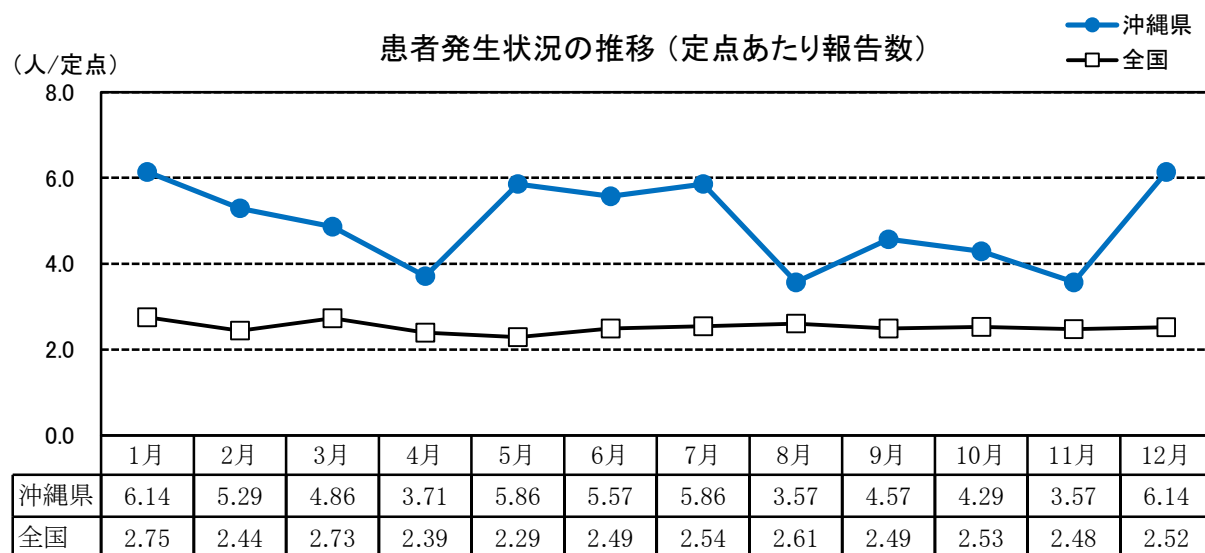
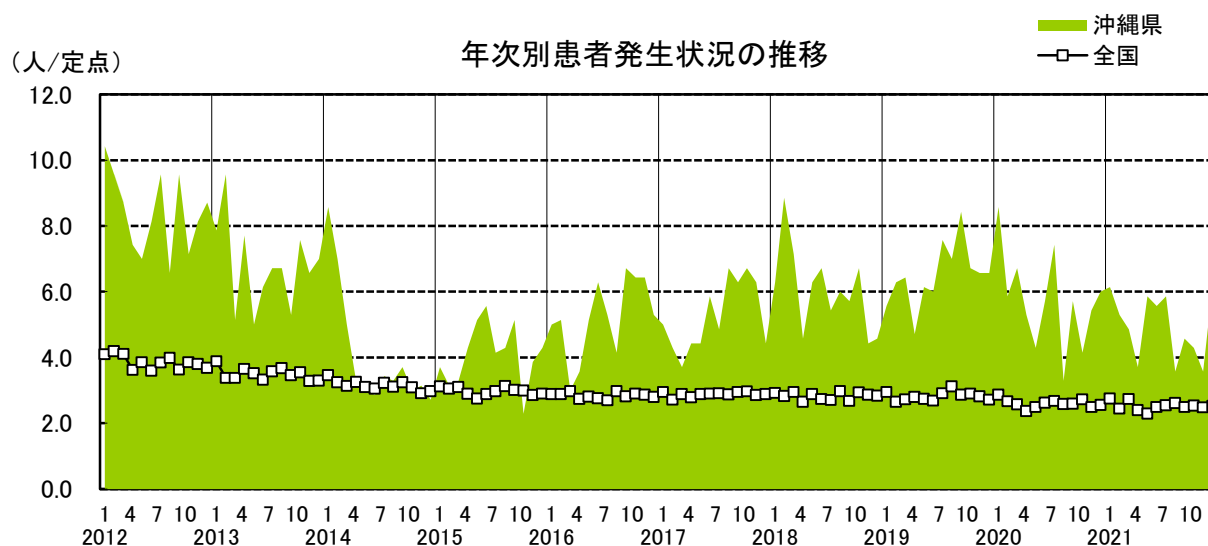
イ. 性別・年齢別患者報告数（沖縄県：2021年）



		9歳以下	10-14歳	15-19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	小計	合計
性器クラミジア 感染症	男性	0	0	4	19	13	6	1	0	0	43	409
	女性	0	0	33	260	57	12	4	0	0	366	
性器ヘルペス ウイルス感染症	男性	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	69
	女性	0	0	2	24	24	7	7	2	1	67	
尖圭 コンジローマ	男性	0	0	0	5	1	1	1	1	0	9	42
	女性	0	0	3	19	3	5	2	0	1	33	
淋菌感染症	男性	0	0	1	9	1	2	1	0	0	14	67
	女性	0	0	3	34	10	4	2	0	0	53	

●メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

年齢階級別の患者報告数は70歳以上が最も多く、全体の46.2%を占めていた。

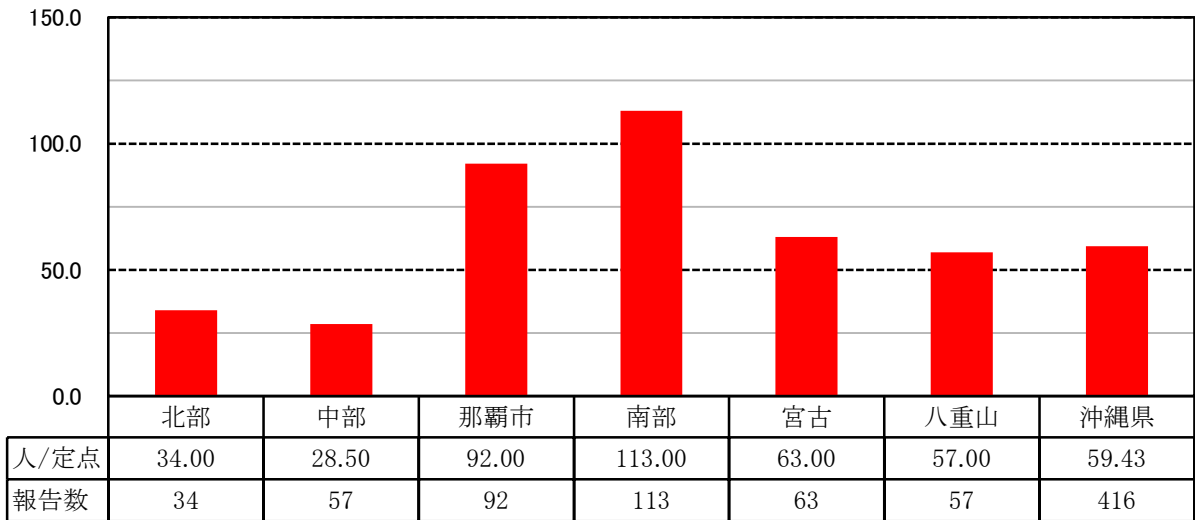


シーズン別の報告数合計： メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

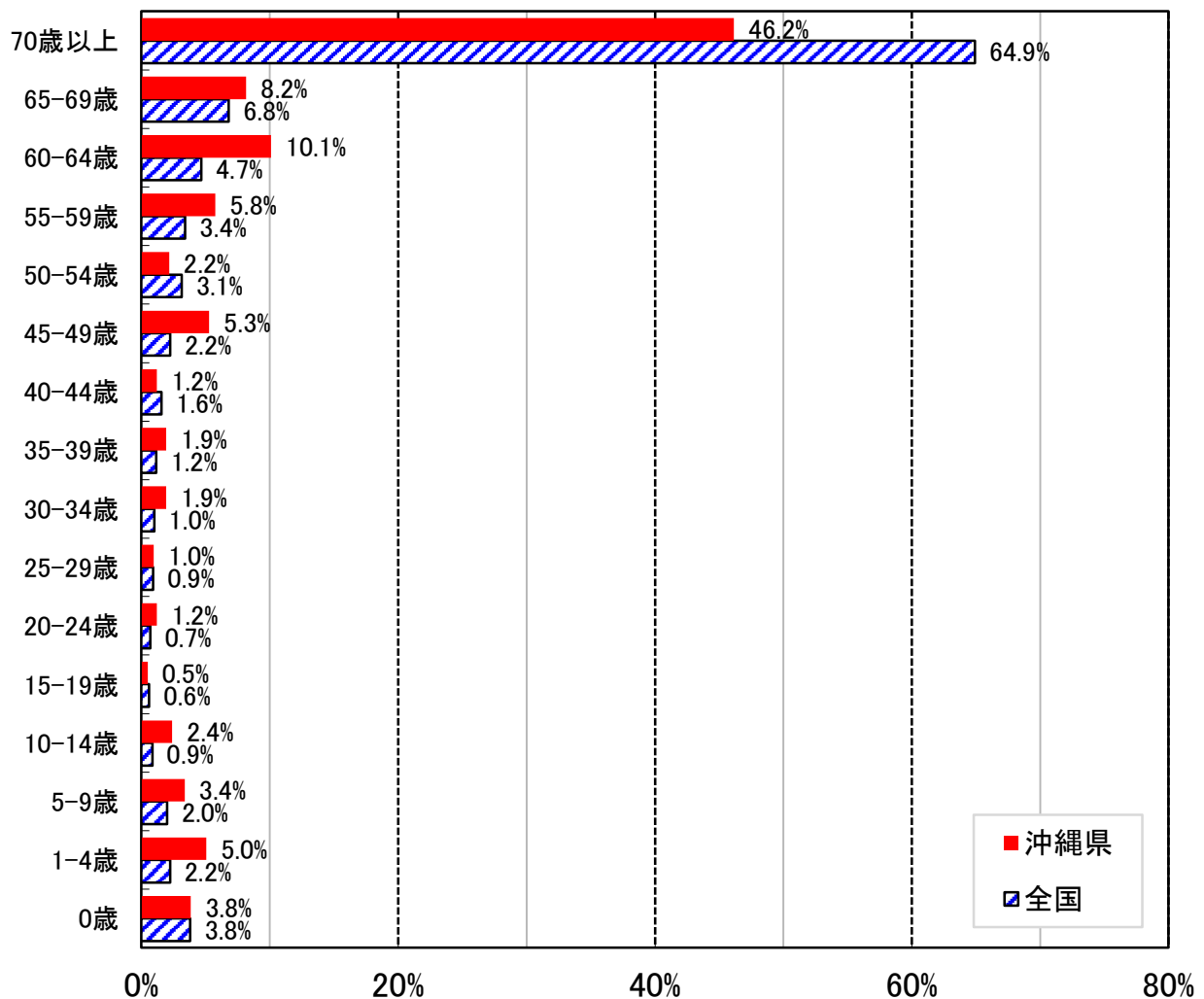
平均報告数	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
478	441	509	546	479	416

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 保健所別発生状況

(人/定点)



年齢階級別割合

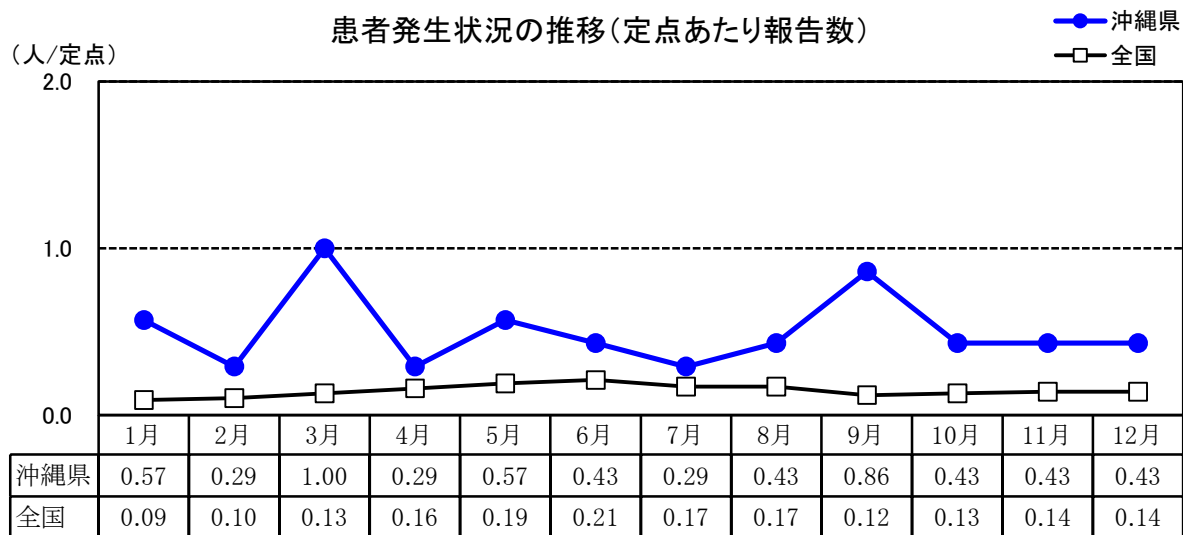
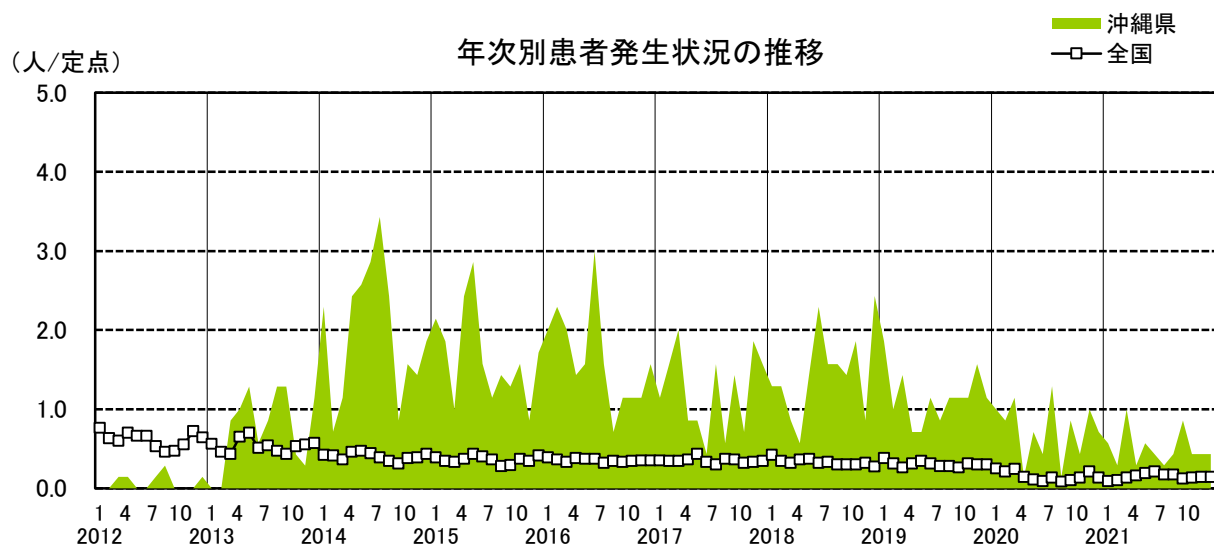


●ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2021年、沖縄県内の報告数は42人だった。定点あたり報告数は6.02人で2020年（8.71人）に比べかなり減少し、全国（2021年：1.77人）に比べ大幅に高い水準にあった。

保健所管内別の定点あたり報告数は南部保健所管内が最も多かった。

年齢階級別の患者報告数は70歳以上が最も多く、全体の57.1%を占めていた。

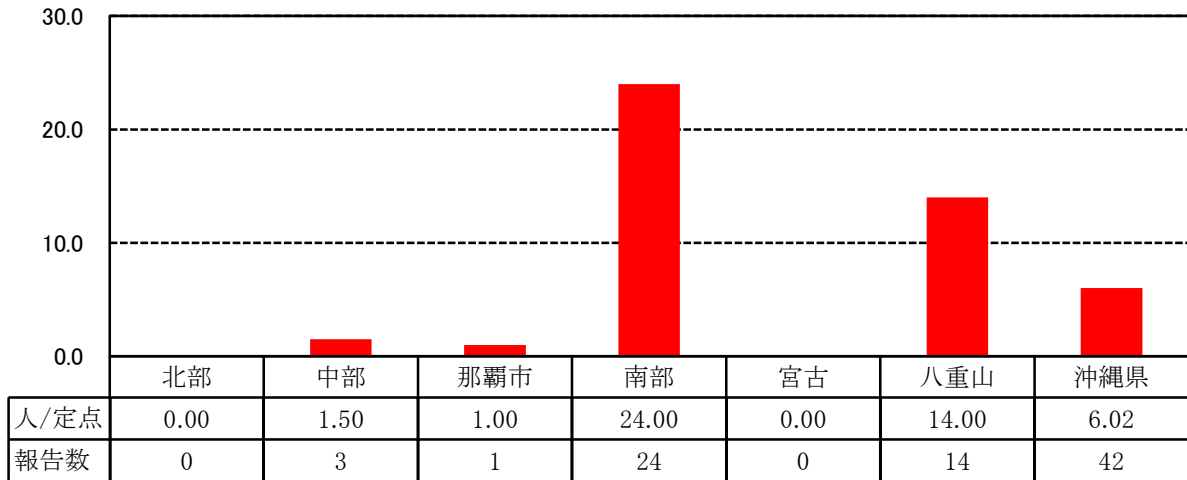


シーズン別の報告数合計： ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

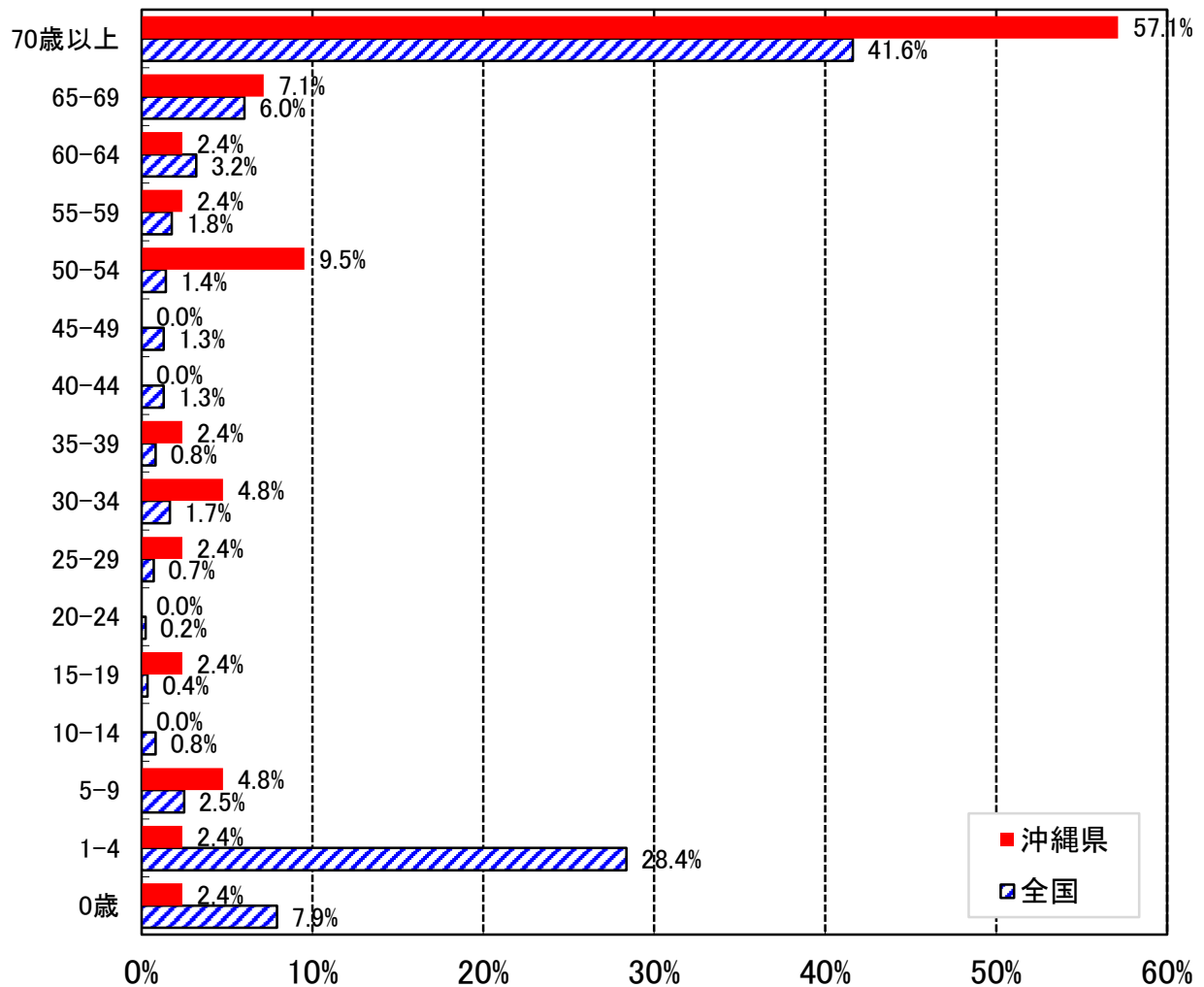
平均報告数	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
85	102	122	97	61	42

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 保健所別発生状況

(人/定点)



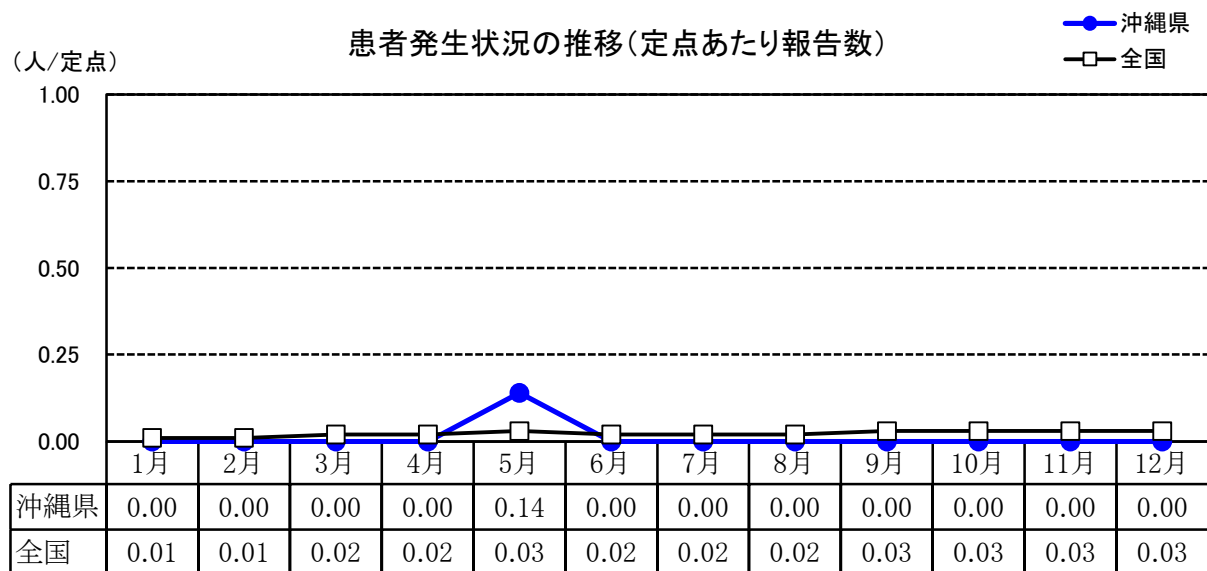
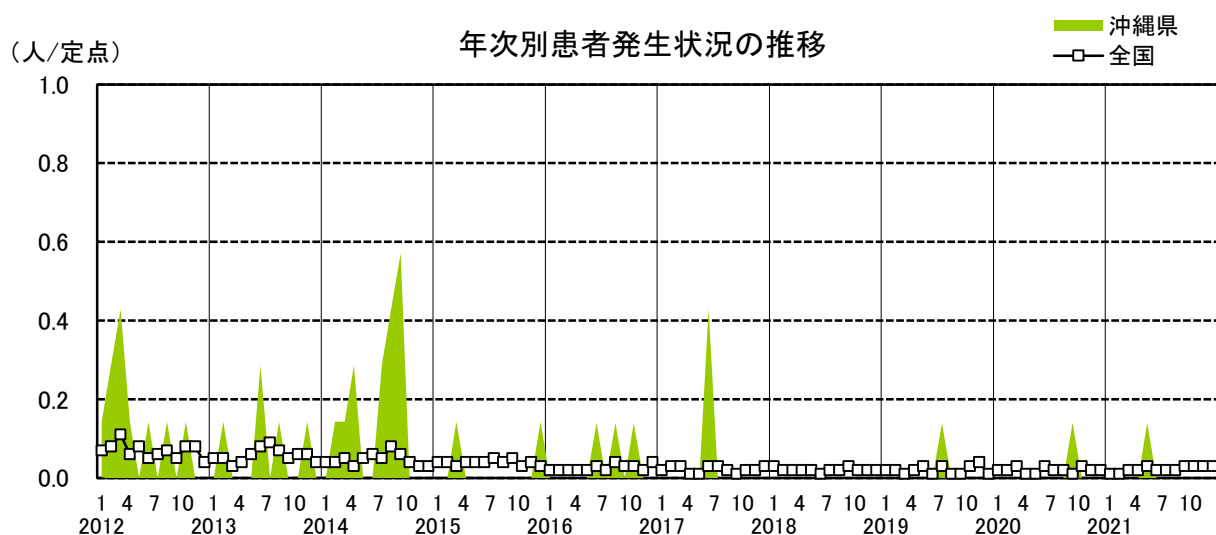
年齢階級別割合



●薬剤耐性緑膿菌感染症

2021年、沖縄県内の報告数は1人だった。定点あたり報告数は0.14人で2020年（0.14人）と同数で、全国（2021年：0.25人）に比べかなり低い水準にあった。

報告例は中部保健所管内の70歳以上であった。

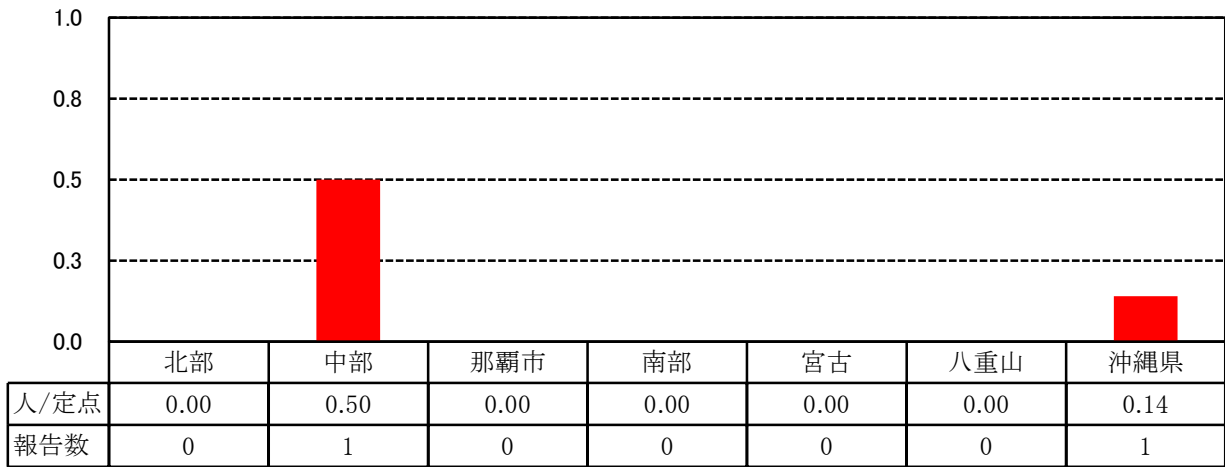


シーズン別の報告数合計： 薬剤耐性緑膿菌感染症

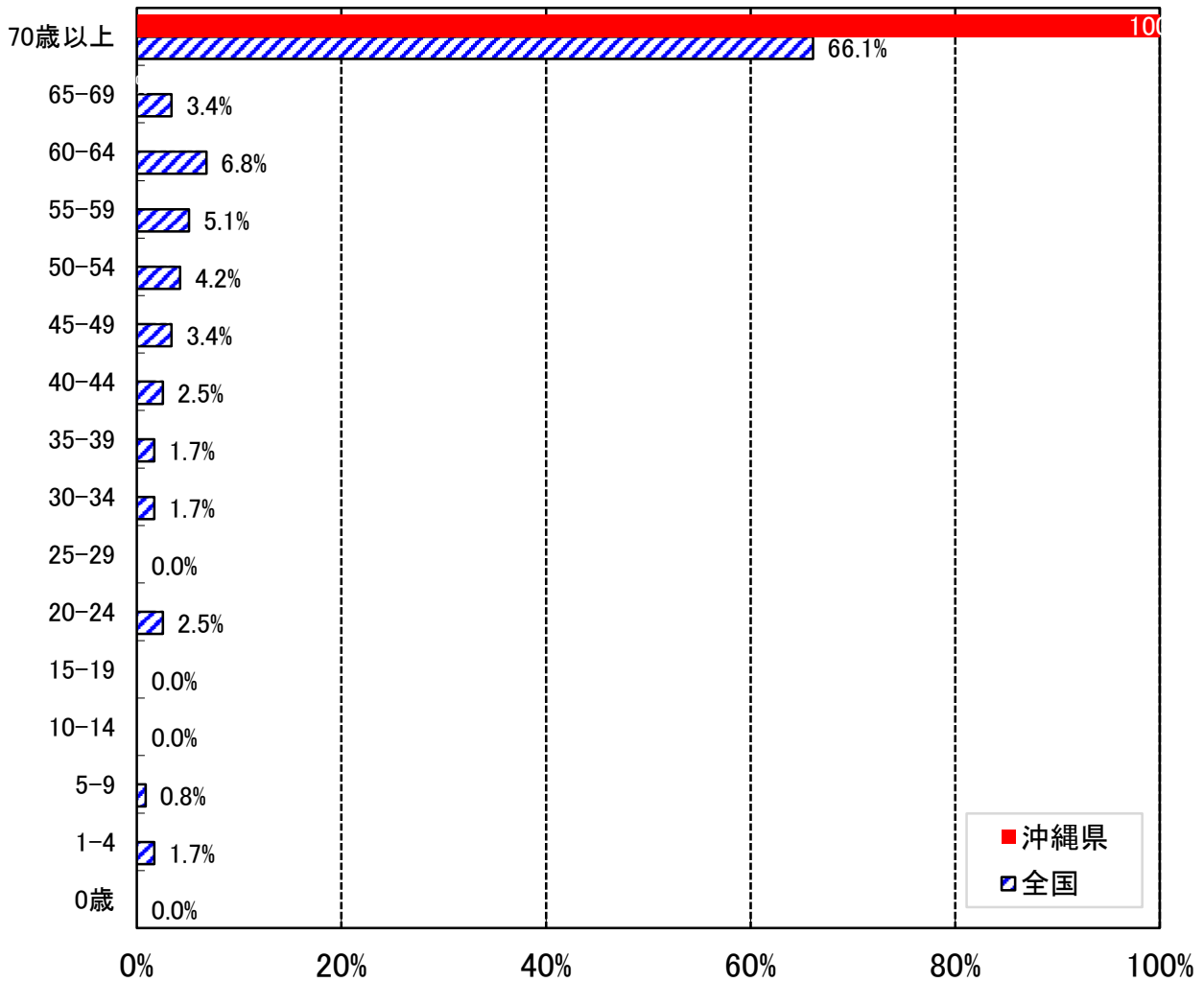
平均報告数	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1	3	0	1	1	1

薬剤耐性緑膿菌感染症 保健所別発生状況

(人/定点)



年齢階級別割合



MEMO